

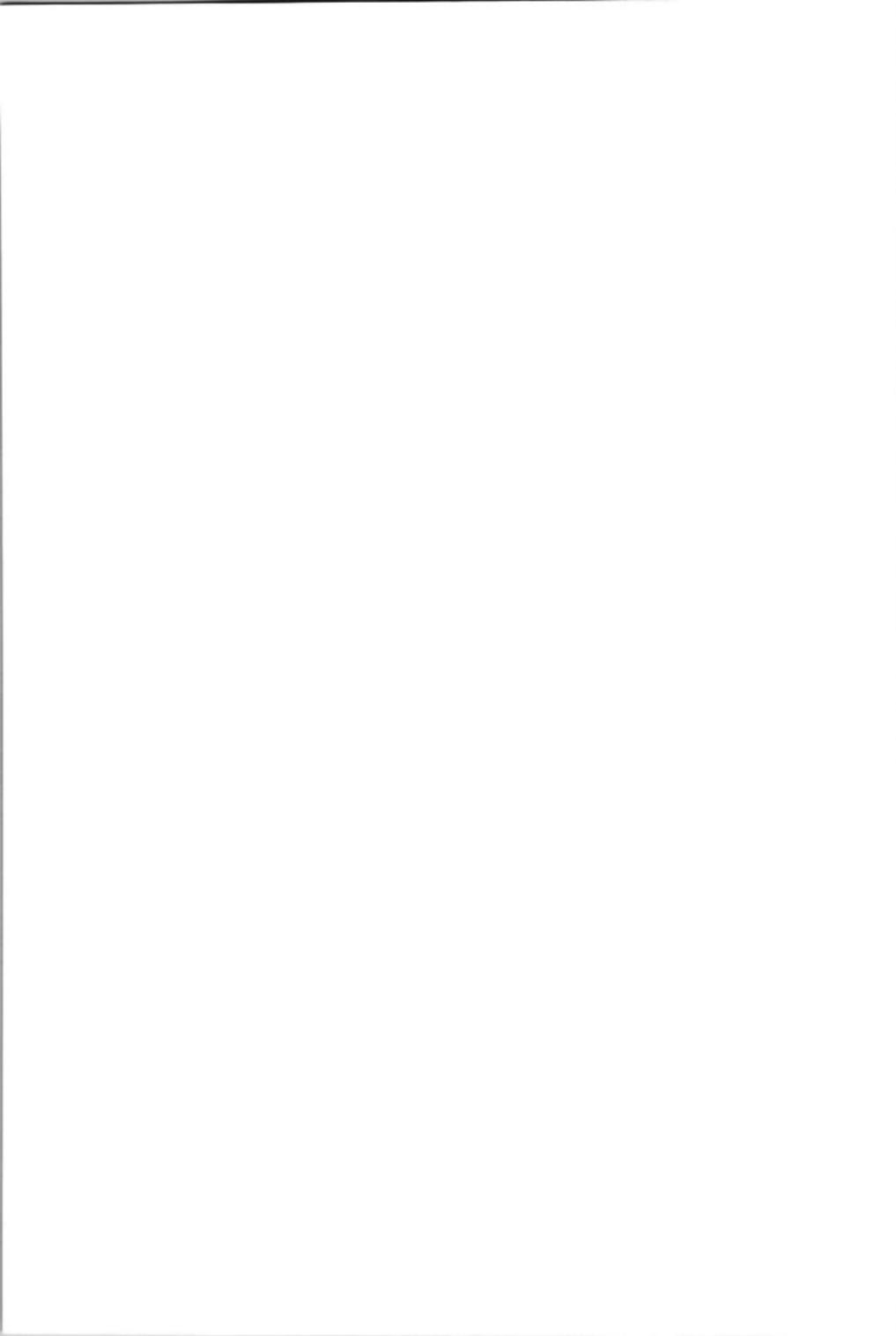
岩手県文化財調査報告書 第119集

# 岩手県内遺跡発掘調査報告書

## (平成15年度)

平成17年3月

岩手県教育委員会



# 序 文

21世紀の今日の文化は、私たちの遠い祖先たちが築いてきた歴史を抜きに語ることはできません。地下に眠っている埋蔵文化財は、遙かな時の流れを経て、私たちに伝えられる貴重な歴史的財産であり、祖先たちのメッセージなのです。私たちはそれを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき、保護・活用しながら、後世に伝えていかなければなりません。

埋蔵文化財にとって、現状のまま保存することが最善ではあるのですが、近年の大規模な開発事業等によって現状保存することは、難しい場合が多くなってきており、発掘調査を実施し、記録保存しているところです。このような現実の中で、埋蔵文化財保護と各種開発事業との円滑な調整を図るには、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示し、周知する必要があることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて、昭和52年度以来、遺跡の分布調査を実施していますが、現在確認されている遺跡数は1万2千近くにも上ります。これらの遺跡を広く周知するとともに、開発事業との調整の中で行った発掘調査の記録や、遺跡の範囲及び内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成15年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果を主にまとめたものです。本報告書の活用により、文化財の保護に役立てば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導御協力をいただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

平成17年3月

岩手県教育委員会  
教育長 佐藤 勝

# 例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成15年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院の1/25,000の地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業者より入手した地形図あるいは工事平面図を原図として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の指定範囲についてはアミで示し、試掘トレンチは実線で示した。
- 6 本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の鎌田 勉文化財専門員、藤村 級文化財調査員、菅 常久文化財調査員、相原 伸裕文化財調査員、日下 和寿専門学芸員、村上 拓文化財行政研究員が担当した。
- 7 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

# 目 次

## 序文

## 例言

### I 発掘調査

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 1 地域振興支援道路ネットワーク整備事業（清田台遺跡） | 3  |
| 2 ふるさと農道緊急整備事業砂川地区（丹内 I 遺跡） | 13 |
| 3 ほ場整備事業八重畠地区（宿館遺跡）         | 17 |
| 4 ほ場整備事業八重畠地区（関口南館遺跡）       | 21 |
| 5 ほ場整備事業八重畠地区（上野々遺跡）        | 23 |
| 6 ほ場整備事業町井地区（下屋敷遺跡）         | 29 |
| 7 中山間総合整備事業日野沢地区（出ル町 II 遺跡） | 33 |
| 8 ほ場整備事業満倉地区（兵法田遺跡）         | 37 |
| 9 緊急地方道路整備事業（上ノ山遺跡）         | 41 |
| 10 国営いさわ南部農地整備事業（二の台遺跡）     | 42 |

### II 試掘調査

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 1 一般国道4号水沢東バイパス改築工事（杉の堂遺跡）        | 47 |
| 2 - (1) 一般国道46号盛岡西バイパス改築工事（熊堂B遺跡） | 48 |
| 2 - (2) 一般国道46号盛岡西バイパス改築工事（熊堂B遺跡） | 49 |
| 3 一般国道46号盛岡西バイパス改築工事（台太郎遺跡）       | 50 |
| 4 一般国道4号花巻東バイパス改築工事（高木中館遺跡）       | 51 |
| 5 一般国道4号花巻東バイパス改築工事（長根 I 遺跡）      | 52 |
| 6 一関遊水地事業衣川左岸茶堤工事（接待館遺跡）          | 53 |
| 7 一関遊水地事業衣川左岸茶堤工事（押切遺跡）           | 54 |
| 8 一関遊水地事業衣川左岸茶堤工事（六日市場遺跡）         | 55 |
| 9 農用地総合整備事業下閉伊北地域（寺野遺跡）           | 56 |
| 10 農用地総合整備事業下閉伊北地域（寺沢北遺跡）         | 57 |
| 11 農用地総合整備事業下閉伊北地域（二升石遺跡）         | 58 |
| 12 農用地総合整備事業下閉伊北地域（二升石大根遺跡）       | 59 |
| 13 農用地総合整備事業下閉伊北地域（尼瀬上野遺跡）        | 60 |
| 14 主要地方道盛岡和賀線花巻市笠間地区（金栗 I 遺跡）     | 61 |
| 15 緊急地方道路整備事業（中島遺跡）               | 62 |
| 16 緊急地方道路整備事業（松山前遺跡）              | 63 |
| 17 緊急地方道路整備事業（沼袋遺跡）               | 64 |
| 18 ほ場整備事業西宮野目地区（先屋遺跡）             | 65 |
| 19 ほ場整備事業八重畠地区（大西遺跡）              | 66 |
| 20 ほ場整備事業八重畠地区（関口遺跡）              | 67 |
| 21 ほ場整備事業八重畠地区（荒野遺跡）              | 68 |
| 22 ほ状整備事業八重畠地区（中村遺跡）              | 69 |
| 23 中山間地域総合整備事業町井地区（煙中遺跡）          | 70 |

|    |                          |     |
|----|--------------------------|-----|
| 24 | ほ場整備事業江釣子第一地区（新平・新平屋敷遺跡） | 71  |
| 25 | ほ場整備事業二子地区（中島遺跡）         | 73  |
| 26 | ほ場整備事業更木新田地区（山口遺跡）       | 74  |
| 27 | ほ場整備事業更木新田地区（市の川Ⅰ遺跡）     | 76  |
| 28 | ほ場整備事業更木新田地区（小川屋敷遺跡）     | 77  |
| 29 | ほ場整備事業更木新田地区（小川屋敷遺跡隣接地）  | 78  |
| 30 | ほ場整備事業更木新田地区（駒板遺跡）       | 79  |
| 31 | 農用地総合整備事業（上和野遺跡）         | 80  |
| 32 | ほ場整備事業白山地区（内屋敷遺跡）        | 81  |
| 33 | ほ場整備事業白山地区（川前遺跡）         | 82  |
| 34 | ほ場整備事業白山地区（道上遺跡）         | 83  |
| 35 | ほ場整備事業増沢東部地区（金打遺跡）       | 85  |
| 36 | ほ場整備事業増沢東部地区（新地野道下遺跡）    | 86  |
| 37 | ほ場整備事業増沢東部地区（岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡）   | 87  |
| 38 | 広域農道整備事業東磐井地区（大登Ⅰ遺跡）     | 88  |
| 39 | 中山間地域総合整備事業日頃市西地区（舟野遺跡）  | 89  |
| 40 | 中山間地域総合整備事業日頃市西地区（平山遺跡）  | 90  |
| 41 | 中山間地域総合整備事業日頃市西地区（中宿遺跡）  | 91  |
| 42 | ほ場整備事業土渕地区（下似田貝遺跡隣接地）    | 92  |
| 43 | 中山間地域総合整備事業湯屋地区（駒場沢遺跡）   | 93  |
| 44 | ほ場整備事業大川日地区（中田遺跡）        | 94  |
| 45 | 農免農道整備事業観音林地区（上野場3遺跡）    | 95  |
| 46 | 一般農道整備事業太田2期地区（サイカツ平畠遺跡） | 96  |
| 47 | 緊急地方道B（雪寒）整備事業（大道口遺跡）    | 97  |
| 48 | 試掘調査出土遺物図版               | 98  |
| 49 | 分布調査一覧                   | 106 |
| 50 | 試掘調査一覧                   | 109 |
|    | II 写真図版                  | 119 |

# I 発掘調査



## 1 地域振興支援道路ネットワーク整備事業関連調査

清田台遺跡（N F 91-1291）

所在地：東磐井郡千葉町清田字台

事業者：千葉地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年3月3日～3月7日（5日間）

平成15年4月3日～4月15日（9日間）

遺跡は千葉町のはば中央部、JR大船渡線千葉駅の北東約1.3kmに位置し、千葉川支流の金田川左岸、緩やかに北下る標高110～120mの尾根上に立地する。

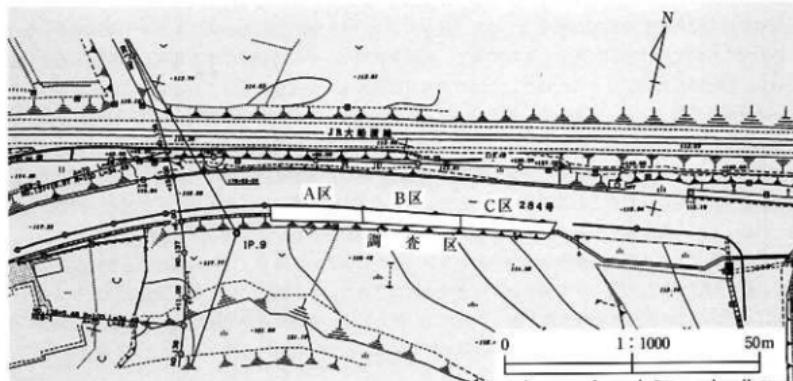
平成11年度～13年度に実施された財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの調査では、多量の遺物とともに堅穴住居跡をはじめとする多数の遺構が密集・重複した状況で確認され、本遺跡が縄文時代中期を中心とする大規模な集落であったことが判明している（『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003「清田台遺跡発掘調査報告書」』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第412集）。

今回発掘調査を行ったのは、遺跡中央を東西に横断する国道284号の路肩に敷設された、用排水路の改修工事範囲（全長約55m・幅約1.4m）である。極めて狭長な調査区であることから、便宜上3分割し、西から順にA～C区として扱った。着手後、調査区の北側半分（国道側）は道路基礎によって既に破壊されていることが判明したため調査可能な幅はさらに60cm前後にまで減じ、加えて、調査区両端に連続する現水路から雨水や生活排水が流入して検出面が度々水没するなど、悪条件下での調査となった。このため平面での遺構検出はほぼ不可能となり、遺構の存否確認は調査区南壁の断面観察に頼らざるを得ない状況となった。

検出された遺構の内訳は、堅穴住居跡12棟、土坑2基、炉跡2基、柱穴状小土坑33基である。第3・4・6図にはそれぞれA～C区の平面図及び対応する南面上に断面図を示した。なお、平面図は最終確認面である地山上面に痕跡の残存する遺構のみを示したものとなっている。



第1図 清田台遺跡位置図



第2図 清田台遺跡調査区位置図

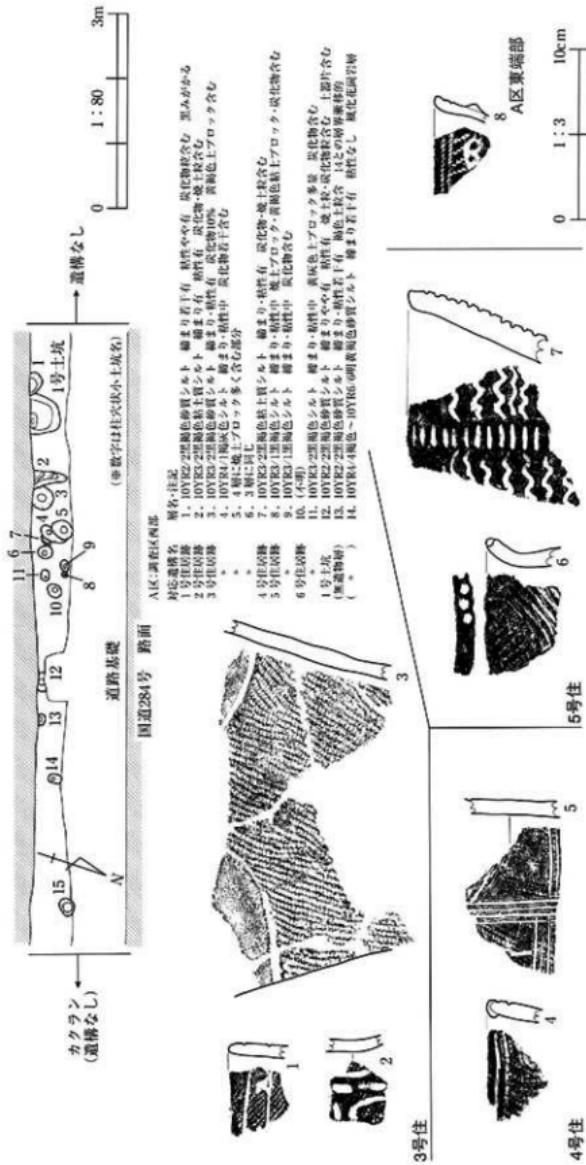
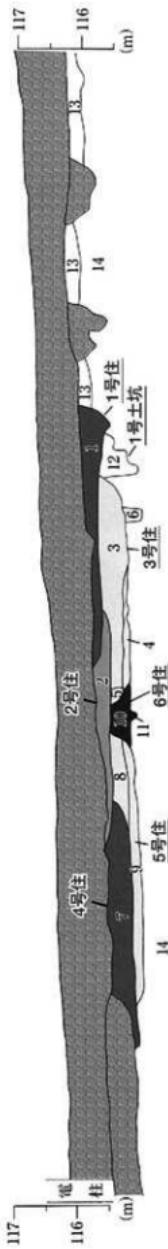
A区（第3図）では1～6号住居跡及び1号土坑が互いに重複した状態で検出された。住居跡はいずれもほぼ平坦な床面とやや外傾する壁面を有することが断面から把握されるが、全体の形状は不明である。このうち3号住居跡の西壁直下には、周溝の一部と思われる小溝状の掘り込み（pp 2）が南北に延び、その東隣に9基の柱穴状小土坑がまとめて分布している。3号住居跡からは大木10式相当の土器が出土していることから、本住居跡及びこれを切る1・2号住居跡は縄文時代中期末葉以降のものと考えられる。

B区（第4図）は中央部に湧水豊富な沢跡があり、その西側で7～9号住居跡が確認された。8号住居跡は西壁のやや内側に南北方向に連続するわずかな段を持ち、付近に小土坑の集中が認められる。3号住居跡（A区）と同様、周溝・柱穴等、住居跡付属の痕跡と思われる。9号住居跡の床面は沢跡に向かって僅かに傾斜しているが、ほぼ中央付近で径30cm前後の楕円形の焼土が検出された。地山層が露出した面に生成したものであることから、人為的な掘り込みの底面における燃焼痕跡であることは明らかであり、9号住居跡に伴う炉跡と判断される（1号炉跡）。9号住居跡及び1号炉跡からは大木8b式相当の土器が出土していることから、本住居跡の帰属時期は中期後葉以降と判断される。したがって、層位的に9号住居跡より上位の7・8号住居跡はこれよりさらに新期のものと考えられる。ところで、これらの住居跡が分布するB区西端～沢跡の範囲は土器片等の遺物を多く含む厚い整地層に被覆されている。より高位にあたるA区側が地山上面付近まで削平を受けていることをみれば、この堆積層が、沢跡側の低位部を埋め立て、より平坦な面を構築しようとする意図に基づいたものであることが理解されよう。整地層の形成過程において複数の生活面が存在した可能性は高く、底面が地山上面に到達しない遺構が重複して構築されていたとすれば、一部の遺構を認識できずに終わった可能性があることは否めない。また、検出された住居跡についても、床面上層のみを辛うじて埋土として識別・分離したが、その上位を覆う整地層の一部が住居跡の埋め立てを意識した人为的埋土であった可能性は高いものと思われる。

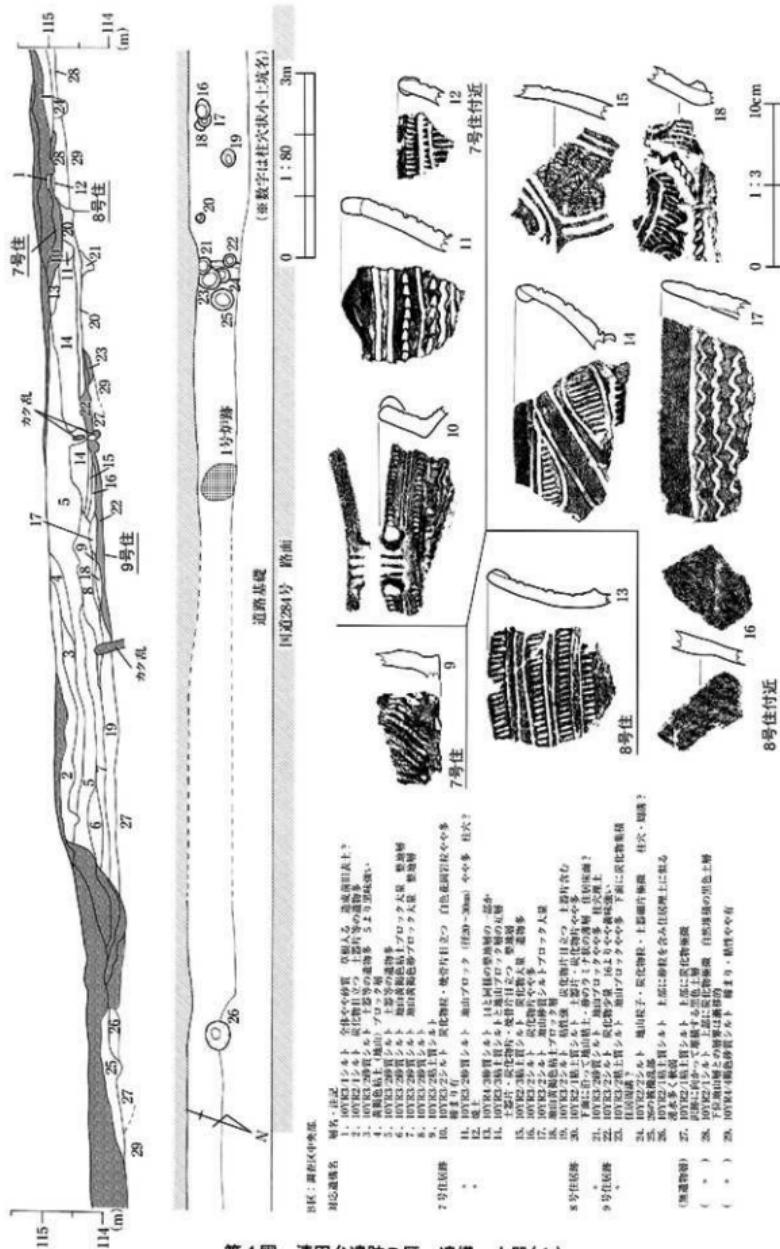
C区（第6図）では10～12号住居跡・2号炉跡・2号土坑が検出された。10号住居跡は底面に小ビットを伴う周溝状の小溝を西壁下に持ち、東側の床面上には大木8b式相当の土器破片集積箇所が認められる。埋土上部からは大木9式土器破片も出土した。よって本住居跡は縄文時代中期後葉に属するものと判断される。11号住居跡では西壁及び東壁直下に互いに向かい合った弧状の周溝が検出されており、平面形は楕円形を呈するものと推測される。床面中央には径20cm前後の環を円～楕円形に配した石圓炉（2号炉跡）が設けられ、東壁側の床面には土坑状の掘り込みを持っている。最も東端部で検出された12号住居跡では、埋土から中期初頭～後葉の土器が出土した。炉跡・その他の付属施設は確認されなかった。

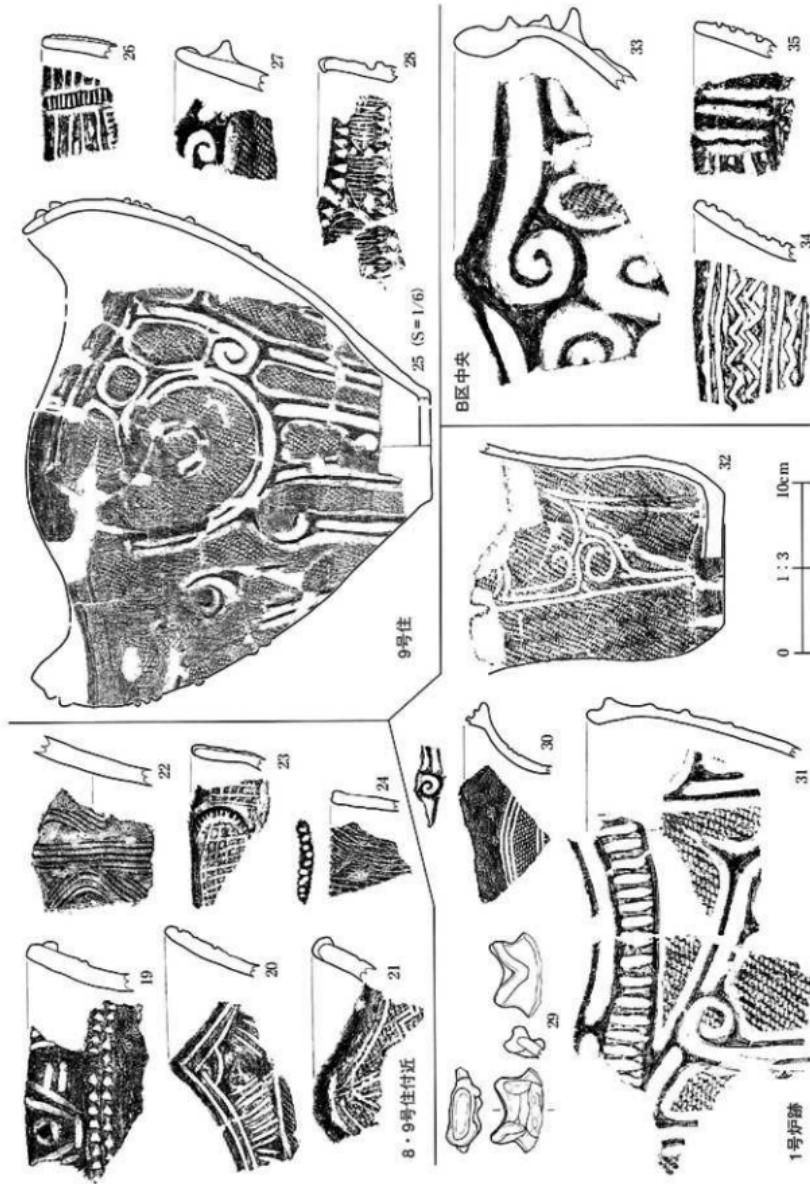
今回の調査で出土した遺物の総量は、土器類が大コンテナ13箱、石器類が大コンテナ1箱である。出土土器の大半は縄文時代中期に属するものであり、埋蔵文化財センターの調査による集落の主体時期と合致している。住居跡に帰属させる土器としては中期後葉以降のものが主体となっているが、これらと混在、あるいは遺構外遺物として一定量の中期初頭～中葉土器片が出土していることは周辺における該期遺構群の所在を示唆している。各区出土の土器については、それぞれの遺構に後続させて掲載した。ただし遺構の識別が困難だったため帰属遺構を特定できた資料はわずかであり、紙数も限られていたことから、掲載資料が全体のごく一部となったことをお断りしておきたい。このほか、土製品として土偶・土製円盤、石器が尖頭器・石鑿・石匙・搔削器・石斧・磨石、石製品としては块状耳飾が出土しており、第9図に示した。

以上のように、精査可能な範囲は極めて限定されていたにもかかわらず、今回の調査では竪穴住居跡等の遺構と縄文時代中期を中心とする遺物が高い密度で検出された。本遺跡については、埋蔵文化財センターの調査により国道284号・JR大船渡線を挟んで南北に広がりを持つ遺構分布が把握されていたが、センター調査による「南側調査区」の北東部に隣接する今次調査区側にも分布範囲が広がっていることが確認された。

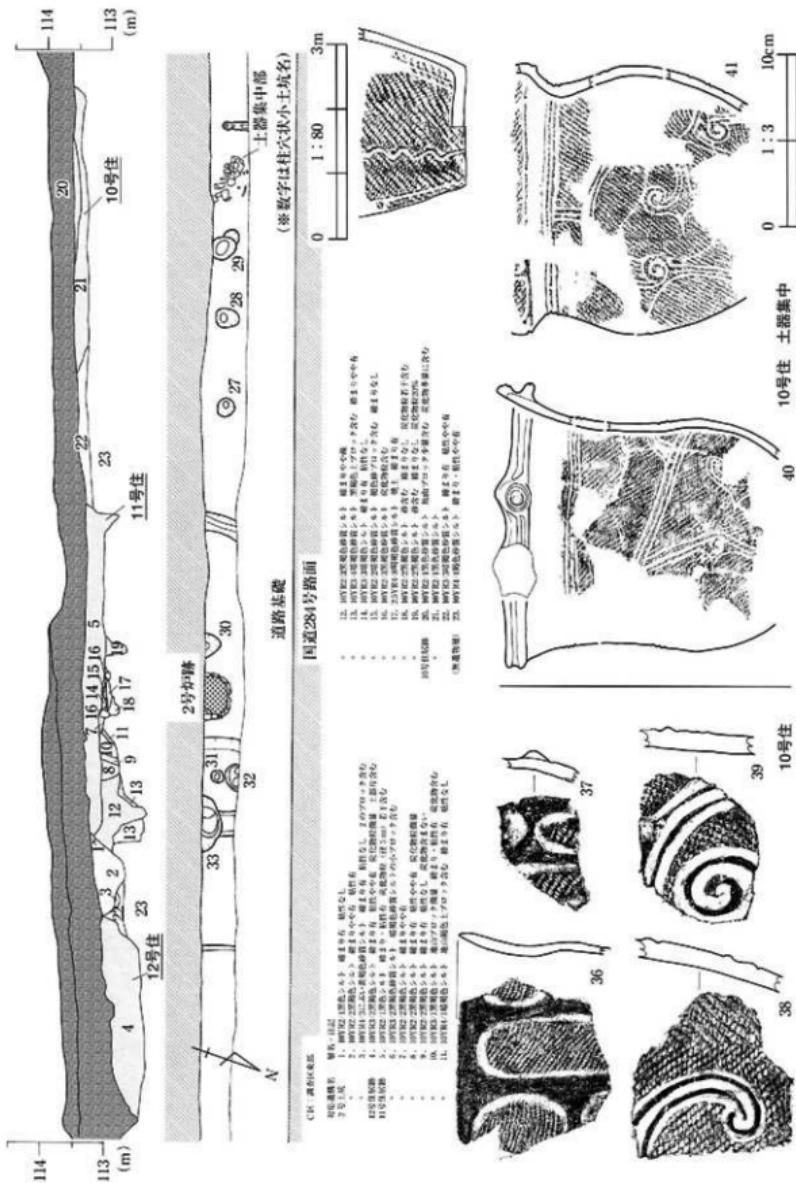


第3図 清田台遺跡A区 道構・土器

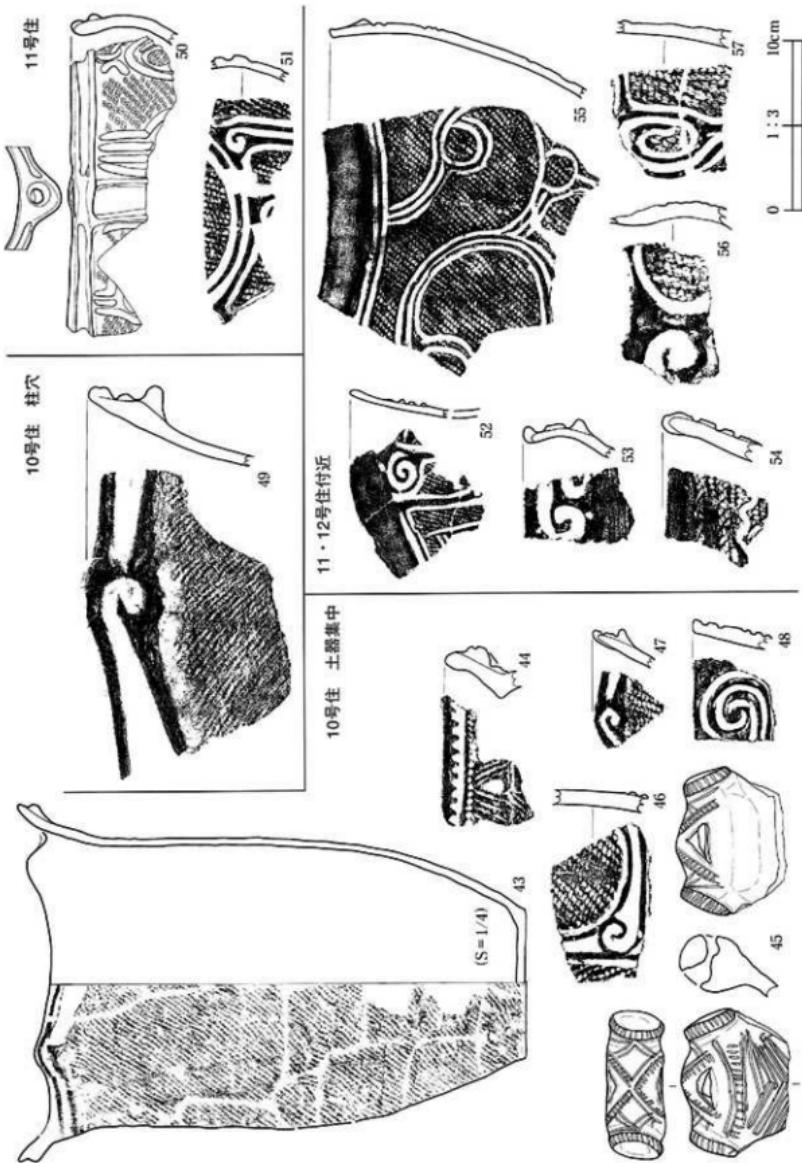




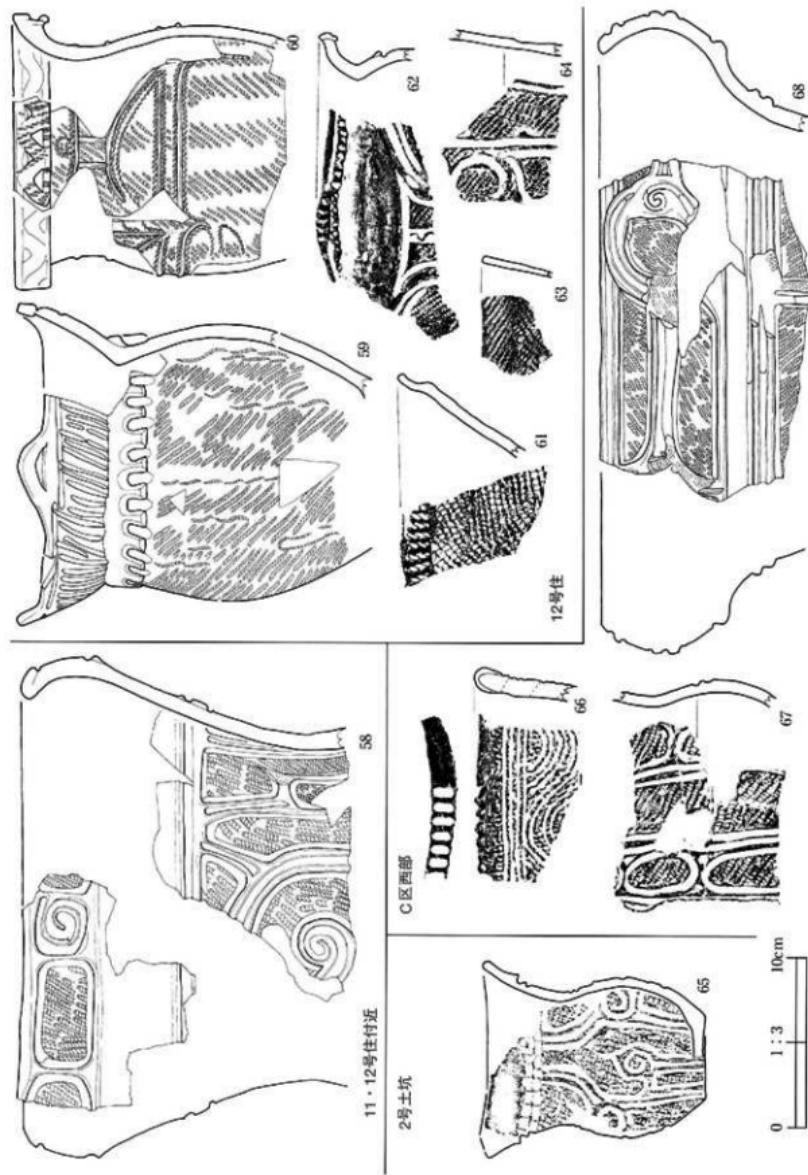
第5図 清田台遺跡B区 遺構・土器(2)



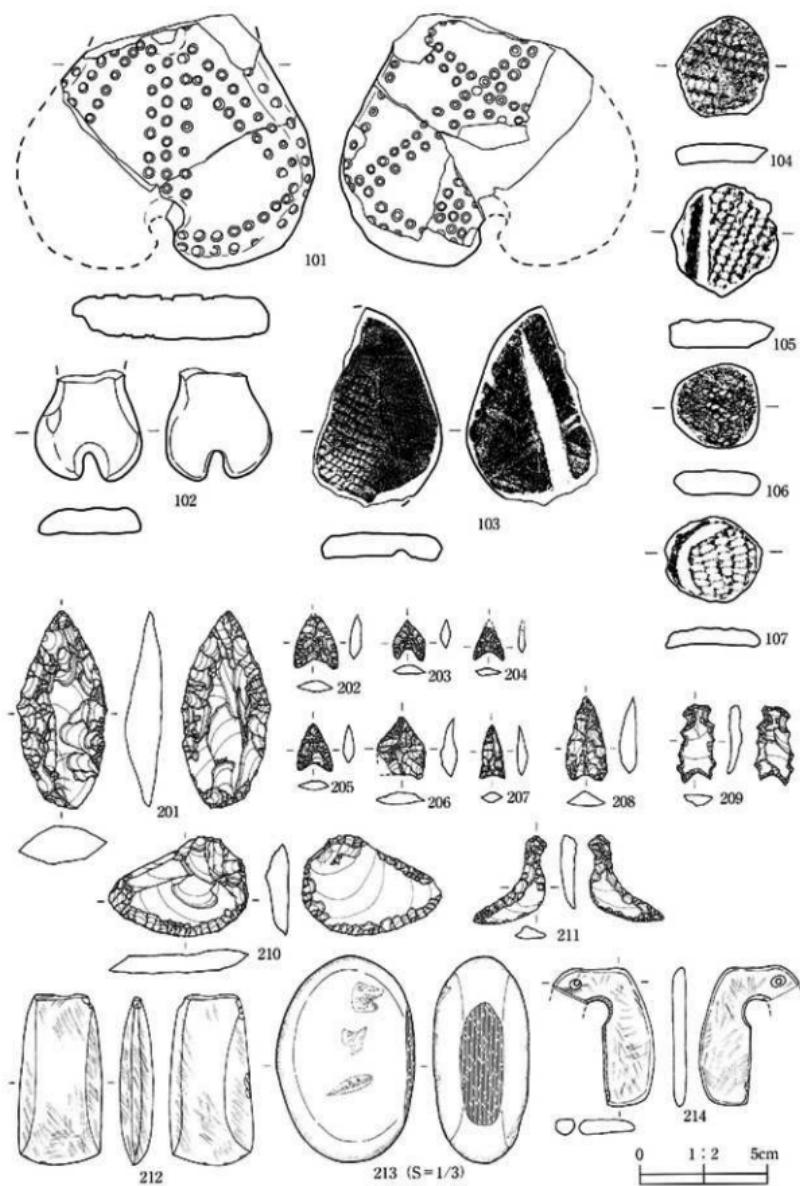
第6図 清田台遺跡C区 遺構・土器(1)



第7図 清田台遺跡C区 土器(2)



第8図 清田台遺跡C区 土器(3)



第9図 清田台遺跡 土製品・石器・石製品

清田台遺跡揭露遺物一覽

土器

| 器種 | 区     | 出土地点・遺構名    | 層位等     | 器種   |
|----|-------|-------------|---------|------|
| 1  | A     | 3号住居跡       | 埋土      | II   |
| 2  | A     | 3号住居跡       | 埋土      | III  |
| 3  | A     | 3号住居跡       | 埋土      | 刷    |
| 4  | A     | 4号住居跡       | 埋土      | II   |
| 5  | A     | 4号住居跡       | 埋土      | 刷    |
| 6  | A     | 5号住居跡       | 埋土      | II   |
| 7  | A     | 5号住居跡       | 埋土      | II   |
| 8  | A     | A区東端部       | 微擾層     | II   |
| 9  | B     | 7号住居跡       | 埋土      | 底    |
| 10 | B     | 7号住居跡付近     | 10層より下位 | II   |
| 11 | B     | 7号住居跡付近     | 10層より下位 | II   |
| 12 | B     | 7号住居跡付近     | 10層より下位 | II   |
| 13 | B     | 8号住居跡       | 埋土      | II   |
| 14 | B     | 8号住居跡付近     | 14・20層  | II   |
| 15 | B     | 8号住居跡付近     | 14・20層  | 刷    |
| 16 | B     | 8号住居跡付近     | 14・20層  | 刷    |
| 17 | B     | 8号住居跡付近     | 14層     | II   |
| 18 | B     | 8号住居跡付近     | 14層     | 刷    |
| 19 | B     | 8・9号住居跡付近   | 5層より下位  | II   |
| 20 | B     | 8・9号住居跡付近   | 5層より下位  | II   |
| 21 | B     | 8・9号住居跡付近   | 5層より下位  | II   |
| 22 | B     | 8・9号住居跡付近   | 14層以下   | 刷    |
| 23 | B     | 8・9号住居跡付近   | 14層以下   | II   |
| 24 | B     | 8・9号住居跡付近   | 14層以下   | II   |
| 25 | B     | 9号住居跡       | 埋土      | II～底 |
| 26 | B     | 9号住居跡       | 埋土      | II   |
| 27 | B     | 9号住居跡       | 埋土      | II   |
| 28 | B     | 9号住居跡       | 埋土      | II   |
| 29 | B     | 1号住居跡       | 燒成面直上   | II   |
| 30 | B     | 1号住居跡       | 燒成面直上   | II   |
| 31 | B     | 1号住居跡       | 燒成面直上   | II   |
| 32 | B     | 1号住居跡       | 燒成面直上   | 刷～底  |
| 33 | B区中央部 |             | 2層      | II   |
| 34 | B区中央部 |             | 5～7層    | II   |
| 35 | B区中央部 |             | 5～7層    | II   |
| 36 | C     | 10号住居跡      | 埋土      | II   |
| 37 | C     | 10号住居跡      | 埋土      | 刷    |
| 38 | C     | 10号住居跡      | 埋土下部    | 刷    |
| 39 | C     | 10号住居跡      | 埋土      | 刷    |
| 40 | C     | 10号住居跡上器集中部 | 埋土下部    | II～刷 |
| 41 | C     | 10号住居跡上器集中部 | 埋土下部    | 刷～刷  |
| 42 | C     | 10号住居跡上器集中部 | 埋土下部    | 刷～底  |
| 43 | C     | 10号住居跡上器集中部 | 埋土下部    | II～底 |
| 44 | C     | 10号住居跡上器集中部 | 埋土下部    | II   |
| 45 | C     | 10号住居跡上器集中部 | 埋土下部    | II   |
| 46 | C     | 10号住居跡上器集中部 | 埋土下部    | 刷    |
| 47 | C     | 10号住居跡上器集中部 | 埋土下部    | II   |

| 器種 | 区 | 出土地点・遺構名    | 層位等  | 器種   |
|----|---|-------------|------|------|
| 48 | C | 10号住居跡上器集中部 | 埋土下部 | II   |
| 49 | C | 10号住居跡柱穴    | 埋土   | II   |
| 50 | C | 11号住居跡      | 埋土   | II   |
| 51 | C | 11号住居跡      | 埋土   | 刷    |
| 52 | C | 11・12号住居跡付近 | 2～6層 | II   |
| 53 | C | 11・12号住居跡付近 | 2～6層 | II   |
| 54 | C | 11・12号住居跡付近 | 2～6層 | II   |
| 55 | C | 11・12号住居跡付近 | 2～6層 | 口～刷  |
| 56 | C | 11・12号住居跡付近 | 2～6層 | 刷    |
| 57 | C | 11・12号住居跡付近 | 2～6層 | 刷    |
| 58 | C | 11・12号住居跡付近 | 2～6層 | 口～刷  |
| 59 | C | 12号住居跡      | 埋土   | II～刷 |
| 60 | C | 12号住居跡      | 埋土   | II～刷 |
| 61 | C | 12号住居跡      | 埋土   | II   |
| 62 | C | 12号住居跡      | 埋土   | 口～刷  |
| 63 | C | 12号住居跡      | 埋土   | II   |
| 64 | C | 12号住居跡      | 埋土   | 刷    |
| 65 | C | C区土坑        | 埋土不明 | II   |
| 66 | C | C区西部        | 埋土不明 | 刷    |
| 67 | C | C区西部        | 埋土不明 | II～底 |
| 68 | C | C区西部        | 埋土不明 | II～底 |

土製品

| 器種  | 区 | 出土地点・遺構名 | 層位等    | 器種   |
|-----|---|----------|--------|------|
| 101 | B | B区中央部    | 5～7層   | 土偶   |
| 102 | B | B区中央部    | 5～7層   | 土偶   |
| 103 | B | 8号住居跡付近  | 14・20層 | 土製円錐 |
| 104 | B | B区一括     | 層位不明   | 土製円錐 |
| 105 | B | B区一括     | 層位不明   | 土製円錐 |
| 106 | C | 10号住居跡   | 埋土     | 土製円錐 |
| 107 | B | B区一括     | 層位不明   | 土製円錐 |

石器・石製品

| 器種  | 区 | 出土地点・遺構名    | 層位等      | 器種         |
|-----|---|-------------|----------|------------|
| 201 | B | 7号住居跡付近     | 10層より下位  | 尖頭器        |
| 202 | B | B区中央部       | 5～7層     | 石鏡(無基四基)   |
| 203 | B | 8号住居跡       | 埋土       | 石鏡(無基四基)   |
| 204 |   | 調査区一括       | 石鏡(無基四基) |            |
| 205 | B | 8号住居跡       | 埋土       | 石鏡(無基四基)   |
| 206 | B | 7号住居跡付近     | 10層より下位  | 石鏡(無基四基)   |
| 207 | B | B区中央部       | 5層以下     | 石鏡(無基四基)   |
| 208 | B | 9号住居跡       | 埋土       | 石鏡(無基四基)   |
| 209 | C | 11・12号住居跡付近 | 2～6層     | 異形石器       |
| 210 | B | B区中央部       | 2層       | 圓錐器        |
| 211 | B | 8号住居跡       | 埋土       | 石器         |
| 212 | B | 1号住居跡付近     |          | 磨製石器(石製品?) |
| 213 | C | 10号住居跡柱穴    | 埋土       | 磨擦器        |
| 214 | B | 8・9号住居跡付近   | 5層より下位   | 块状耳器       |

## 2 ふるさと農道緊急整備事業砂川地区

丹内 I 遺跡 (J F 66-1368)

所在地; 九戸郡山形村小国地内

事業者; 久慈地方振興局農政部農村整備室

調査期日; 平成15年10月20日(月)～24日(金)

遺跡は山形村南部の小国第4地割に所在し、山形村役場から南東へ約8kmの位置に所在する。現況は主として畠地となっている。

岩手県立博物館により平成3年～6年まで4ヶ年に亘って発掘調査が実施されている。調査の結果、弥生時代の住居跡2棟、土坑6基、縄文時代の陥し穴1基、時期不明の土坑4基、弥生土器、縄文土器、石器、近世陶磁器が発掘された。

農道拡幅のため、平成14年11月26日に試掘調査（第4次調査）を実施した結果、県立博物館実施の調査区と重複することが判明し、発掘調査が必要であることが判明した。

今回は県立博物館調査時のグリッドは用いず、事業区域内322m<sup>2</sup>の発掘調査（第5次調査）を実施した。基本層序は県立博物館調査時と同様であった。

その結果、県立博物館が発掘を行った陥し穴1基、土坑6基（5号～10号土坑）を確認できた。しかし1号～4号土坑は確認できなかった。県立博物館の調査区外から新たに土坑4基、焼土が発見された。いずれも遺物の出土がなく、時代決定に決め手を欠いている。陥し穴1基は、県立博物館の調査では、約半分のみ発掘調査されていたので、残り部分を発掘した。なお、遺構番号は県立博物館調査時のものから連番とした。

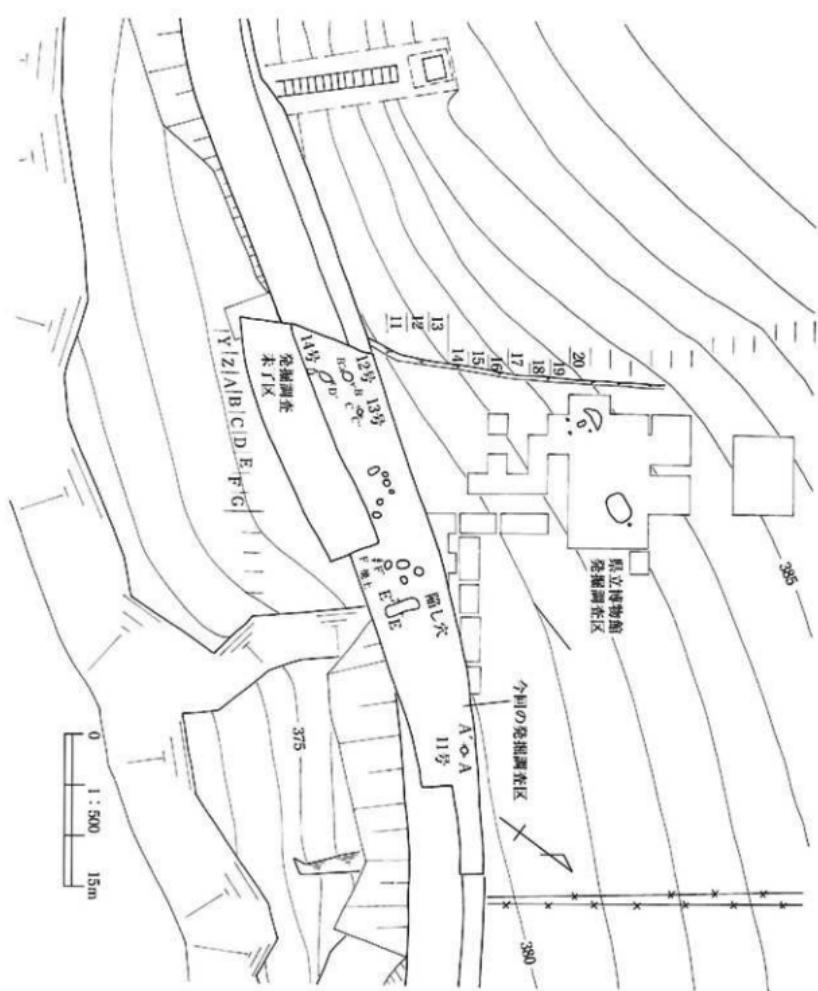
土坑は1m程の規模を中心としたもので、以前の発掘調査時に発見された土坑とほぼ同じレベルに位置し、現況の等高線に沿う配置となっている。11号土坑のみが、離れているが、12～14号土坑はまとまっている。土坑の大きさに規則性はなく、底面が平らになるものではなく、傾斜があり、壁の立ち上がりも、一定の傾向がみられなかった。焼土は第Ⅲ層上面で確認されたものである。直径は25～30cmで、深さは4cmであった。付近から近世陶磁器が出土したので、近世に属する可能性が高い。陥し穴は遺構の東端が既設水道管の埋設によって調査ができなかった。埋土の深さは2mを越えていた。

遺物は第2層もしくは第3層から弥生時代後期の土器、10号土坑の再堆積埋土から近世陶磁器が2点出土した。弥生土器は附加条、撚糸文が施文されるもので内面はいずれもナデ調整されている。2の土器は、外面に黒色物質が付着していた。今回の調査では弥生土器71.79g、陶磁器6.27g、鉄製品1.96gが出土した。

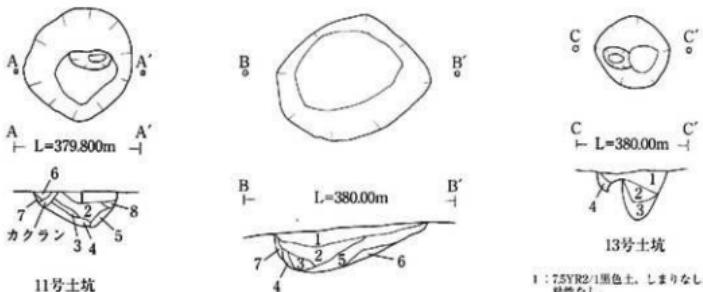
諸般の事情から、発掘調査未了区は次年度に行うこととなった。（平成16年度本発掘調査予定）



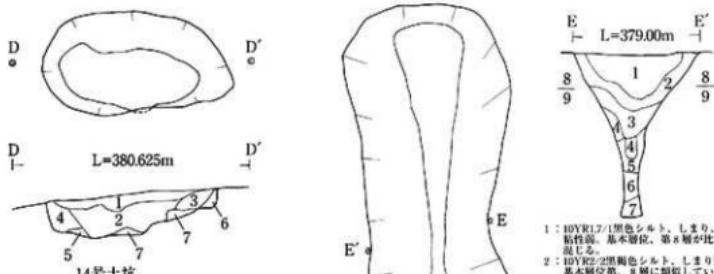
第10図 丹内 I 遺跡位置図



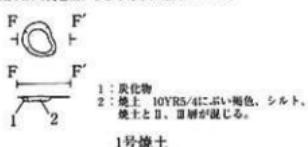
第11図 丹内 I 遺跡調査区位置図



- 1 : 7.5YR2/1黒色土。しまりなし。  
粘性なし。  
2 : 7.5YR2/2黒褐色土。しまりなし。  
粘性なし。  
7.5YR4/4褐色の地山ブロック  
(2~3cm大) を多く含む。  
3 : 7.5YR2/3褐色褐色土。しまりあり。  
粘性あり。  
4 : 7.5YR2/2黒褐色土。しまりあり。  
粘性あり、地山崩落土。  
5 : 7.5YR2/2黒褐色土。しまりあり。  
粘性あり。  
6 : 7.5YR2/3褐色褐色土。しまりあり。  
粘性やあります。  
7 : 7.5YR2/4褐色土。地山崩落ブロック。  
8 : 7.5YR2/2黒褐色土。しまりなし。  
粘性やあります。



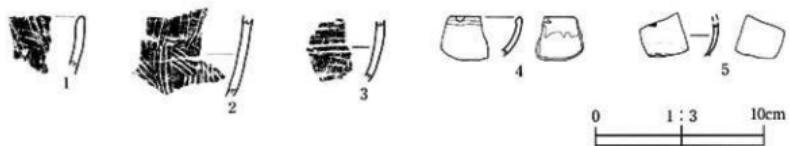
- 1 : 7.5YR2/1黒色土。しまりやあります。粘性なし。木根多い。  
2 : 7.5YR2/2黒褐色土。しまりややあります。粘性やあります。  
7.5YR4/2褐色の地山ブロック (3~5cm大) を多く含む。  
3 : 7.5YR2/3褐色褐色土。地山崩落土を多く含む。しまりやあります。  
粘性なし。  
4 : 7.5YR2/3褐色褐色土。しまりなし。粘性やあります。地山崩落土を含む。  
5 : 7.5YR2/2黒褐色土。しまりややあります。粘性なし。地山崩落ブロック  
(8cm大) を多く含む。  
6 : 7.5YR2/2黒褐色土。しまりあり。粘性なし。地山崩落土を多く含む。  
7 : 7.5YR4/3褐色土。しまりあり。地山ブロック。



第12図 丹内 I 遺跡構造図

- 1 : 7.5YR2/1黒色土。しまりなし。  
粘性なし。  
7.5YR2/2黒褐色土 (5mm大) を多く含む。  
2 : 7.5YR3/2黒褐色土。しまりあり。  
3 : 7.5YR3/4褐色褐色土。しまりなし。  
4 : 7.5YR3/2黒褐色土。しまりなし。  
粘性なし。  
5 : 10YR2/2黒褐色土。しまりあり。粘性あり。  
6 : 10YR2/2黒褐色土。しまりあり。粘性あり。  
7 : 10YR1/7I 黑色シルト。しまり。  
基本層位第8層。  
8 : 10YR2/2黒褐色シルト。しまり粘性弱。  
9 : 10YR3/2黒褐色土。砂質シルト。しまり。  
10 : 10YR3/2黒褐色土。砂質シルト。しまり。  
基本層位第9層が現じる。  
11 : 10YR4/4褐色土。砂質シルト。しまり。  
粘性弱。  
12 : 10YR5/6黄褐色土。砂質シルト。しまり。  
粘性弱。  
13 : 10YR5/6黄褐色土。砂質シルト。しまり。  
粘性弱。  
14 : 10YR4/32.5 黄褐色シルト。  
基本層位第8層に類似する。  
15 : 10YR4/32.5 黄褐色シルト。  
基本層位第9層も現じる。  
16 : 10YR3/20 黄褐色シルト。  
粘性弱。  
17 : 10YR5/4 黄褐色粘土上質シルト。  
しまり。粘性強。ローム層。

0 1 80 2m



第13図 丹内 I 遺跡出土遺物

### 3 経営体育成基盤整備事業八重畠地区

宿館遺跡 (MF 17-0111)

所在地：稗貫郡石鳥谷町八重畠地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年4月17日～25日（7日間）

遺跡は、JR東日本東北本線花巻空港駅の東南東約4.5kmに位置し、北上川左岸の低位段丘縁辺部に立地している。現況は畠地、水田、宅地等になっている。

今回、バイオラインを設置する箇所について埋蔵文化財の発掘調査を実施した。

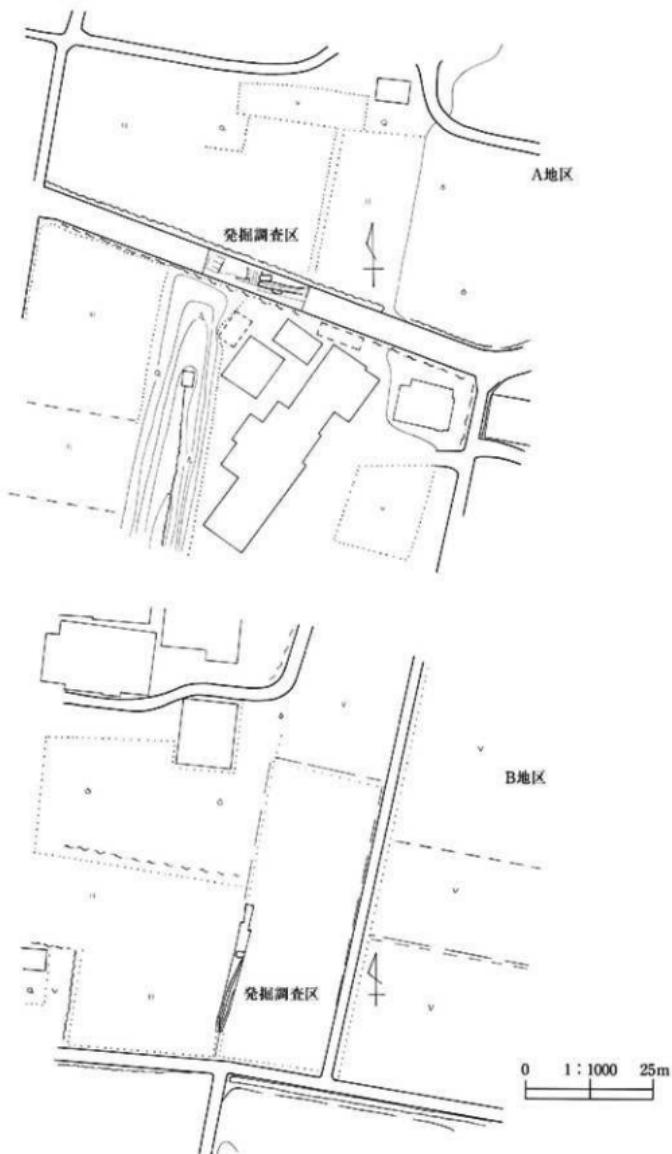
発掘調査区は2箇所あり、西側をA地区、東側をB地区とした。A地区の調査区南側は、既に水道管が埋設されており、掘り下げは行わなかった。

A地区では塹2条、溝1条が3層上面で検出された。1号塹は南北方向で、幅2.8m、長さ3m以上、深さ1.3mである。上部は削平を受け、堆積土は人為的に埋められている。1号塹は1号溝を切っている。2号塹は塹の肩の一部を検出しただけである。南北方向を向いており、長さ3m以上、幅3m以上、深さ約1mで調査区南側の空堀跡と方向が一致していた。上部と東側には擾乱が入っている。埋土は、未腐食木、還元されていない砂礫土層であった。埋土を覆った層には、ごく最近のものと思われる炭、陶磁器破片、瓦片、ガラス片が含まれていた。西側は湧水と壁土の崩落の可能性があり、作業安全確保の理由から調査は行わなかった。1号溝は一部に擾乱が入るが、長さ14m以上、幅1.3m、深さ0.7m程度で、東西方向である。一部は1号塹に切られており、1号塹より古い。土師器細片が埋土上部に含まれていた。B地区では、溝1条、土坑1基が発見された。溝は長さ15m以上、幅1mで、深さ0.4mである。ほぼ南北を向いている。断面形は台形状であるが一部では、段が付いている。土坑は長軸1.6m以上、短軸1.2m、深さ1.3mである。

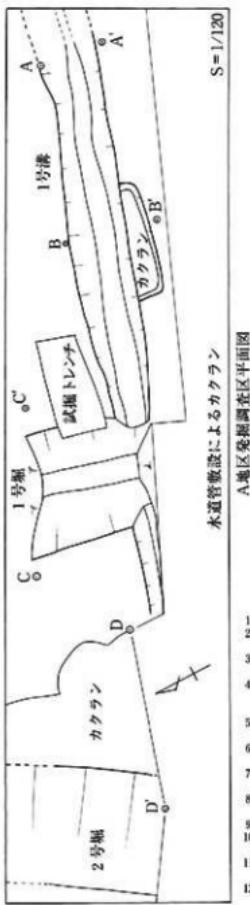


第14図 宿館遺跡位置図

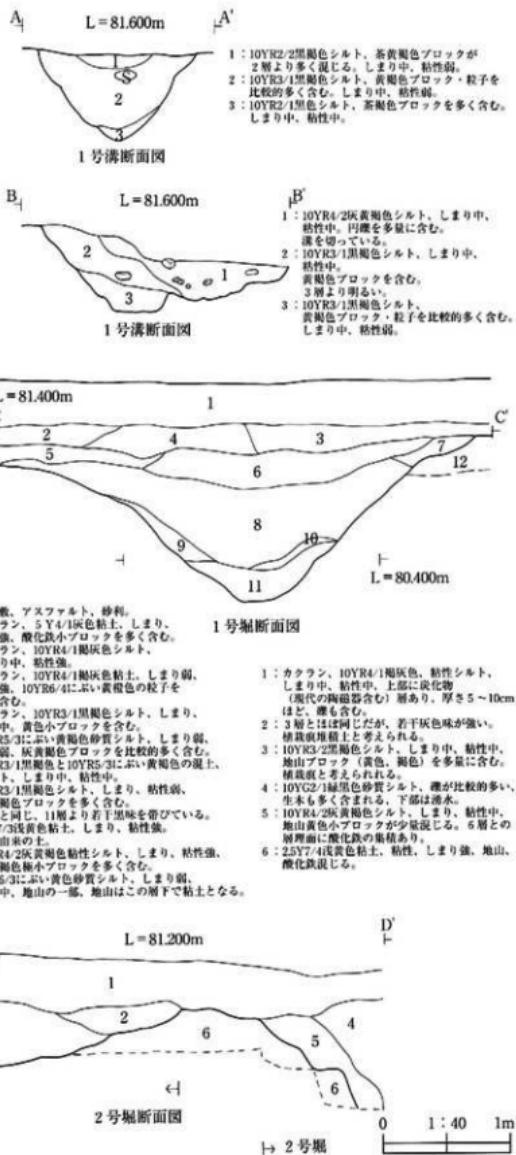




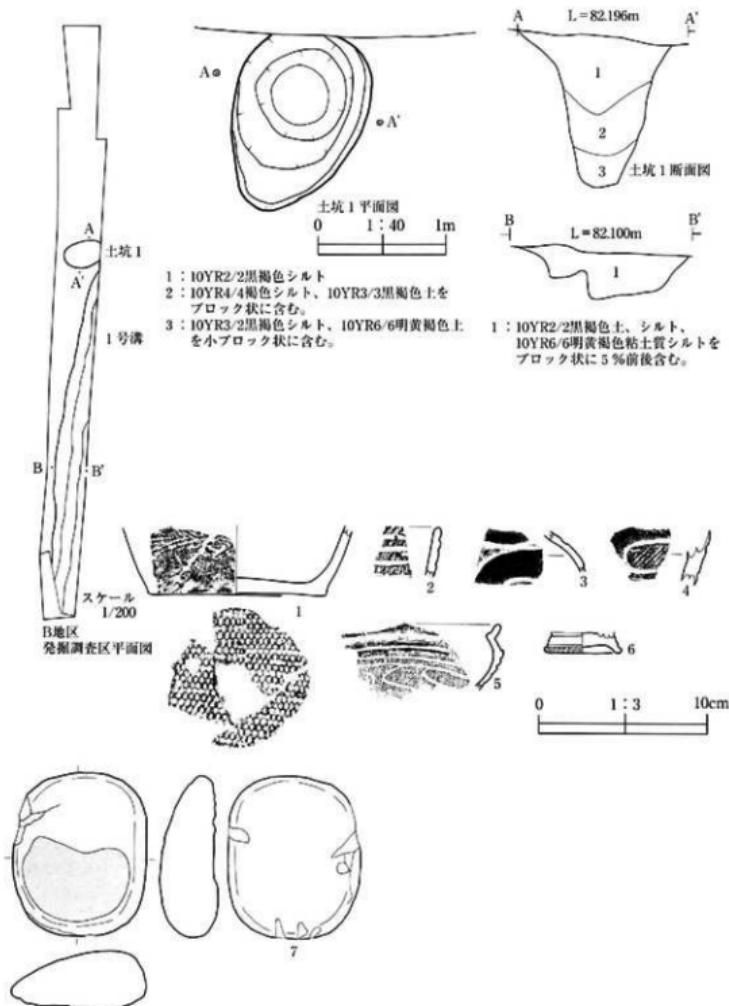
第16図 宿館遺跡発掘調査区位置図



A地区発掘調査区平面図  
水道管敷設によるカクラン



第17図 宿館遺跡・A地区発掘調査区



第18図 宿館遺跡・B地区発掘調査区、出土遺物

| 番号 | 出土位置        | 種別        | 外面の特徴                           | 内面の特徴           | 備考         |
|----|-------------|-----------|---------------------------------|-----------------|------------|
| 1  | 試掘トレンチ 12   | 縄文土器底部片   | 縄文 (L R), 離いミガキ                 | ナデ, 底面を除き黒色物質付着 | 底面は網代楕, 後期 |
| 2  | *           | 縄文土器口縁部片  | 縄文 (底付不明) → 平行沈線文, 黒色物質付着       | ミガキ             | 後期, 深鉢     |
| 3  | *           | 縄文土器底部破片  | 丁寧なミガキ, 沈線文                     | ナデ, ミガキ         | 後期, 宿か注口   |
| 4  | *           | 縄文土器底部破片  | 縄文 (L R) → 区画文, ミガキ             | ミガキ             | 後期, 深鉢     |
| 5  | A区南側表掛      | 縄文土器口縁部破片 | 縄文 (L R) → 雲形文, ミガキ, 突起, 口縁部に削目 | ミガキ, 突起に沿う沈線文   | 後期, 鉢      |
| 6  | A地区 1号溝堆積土上 | 縄文土器脚部    | 縄文 (L R) → 平行沈線文, ナデ            | ナデ              | 後期, 台付鉢    |
| 7  | B地区 1号溝堆積土上 | 磨り石       | 片面に削り面がある。重量 400g               |                 |            |

#### 4 経営体育成基盤整備事業 八重畠地区

閑口南館遺跡 (ME 06-1359)

所在地：稗貫郡石鳥谷町閑口地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

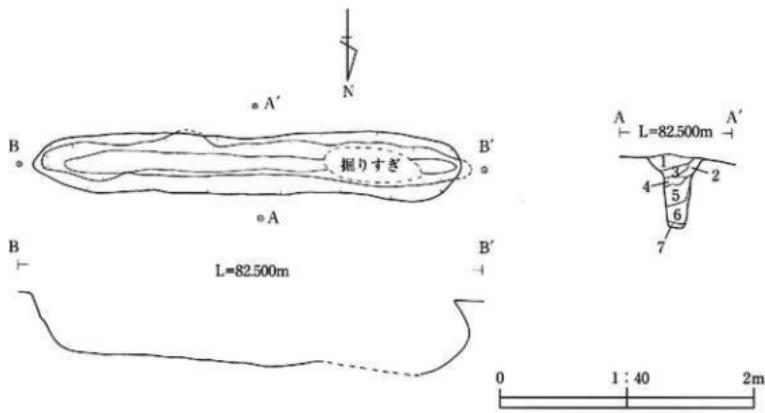
調査期日：平成15年11月13日

遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北本線花巻空港駅より東約23kmに位置し、北上川右岸の低位段丘上に立地する。現況は水田、畑地となっており、標高約82m前後を測る。本遺跡は中世城館として周知されている。現在の石鳥谷周辺は、室町時代には稗貫氏に支配されていた。稗貫氏は十八ヶ城に居城し、稗貫郡主を名乗っている。この頃、稗貫郡は稗貫五十三郷と称され、各地に一族や家臣を配して支城を築かせていた。石鳥谷町には、新堀氏、八重畠氏、閑口氏、小森林氏、瀬川氏などが移住している。本遺跡は、この閑口氏の居城と考えられている。昨年度の試掘調査では造構及び遺物は発見されなかったが、11月の試掘調査では、T10北東端から12mの地点で陥し穴状造構を基本層序の第Ⅱ層直下で確認した。他に陥し穴状造構がないか周間にトレーニングを広げたが確認できなかった。他の陥し穴状造構はおそらく事業対象区外にあると推測した。今回は、11月の調査で確認された陥し穴状造構が調査対象である。

精査の結果、陥し穴状造構の平面形は、東西に帯状になっており、長軸336cm、短軸45cm、深さは56cmの規模を持ち、底面は狭く15cm前後であった。断面形は縦長のTの字形で、造構の西端は、上場よりも15cmえぐられる形で外側に広がっていた。埋土は、主に黒色土であり、所々に黄褐色、褐色土、暗褐色土がブロック状に混じっていた。埋土上層ではしまりがあったが、下層はしまりがあまりなかった。さらに下層では河原の礫が多く現れたため、洪水が原因の埋土ではないかと思い、掘り進めたが、下層の縦横に砂礫層が広がった（掘りすぎ）。このことから、この陥し穴はこの砂礫層の上面まで掘り込み造られたことが分かった。



今回の調査では、中世城館に関係する遺構および遺物を確認することはできなかった。陥し穴状遺構の埋土からは遺物は確認できなかったが、形状から縄文時代のものと考えられる。今回の調査では、陥し穴状遺構は一基のみの確認であったが、調査区外に数基存在する可能性も考えられる。縄文時代この付近は狩場であったと考えられる。周辺に集落があった可能性もある。



第21図 関口南館遺跡遺構図

## 5 ほ場整備事業 八重畠地区関連調査

上野々遺跡 (L E97-2160)

所在地：稗貫郡石鳥谷町字新掘地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日：平成15年3月10日～13日

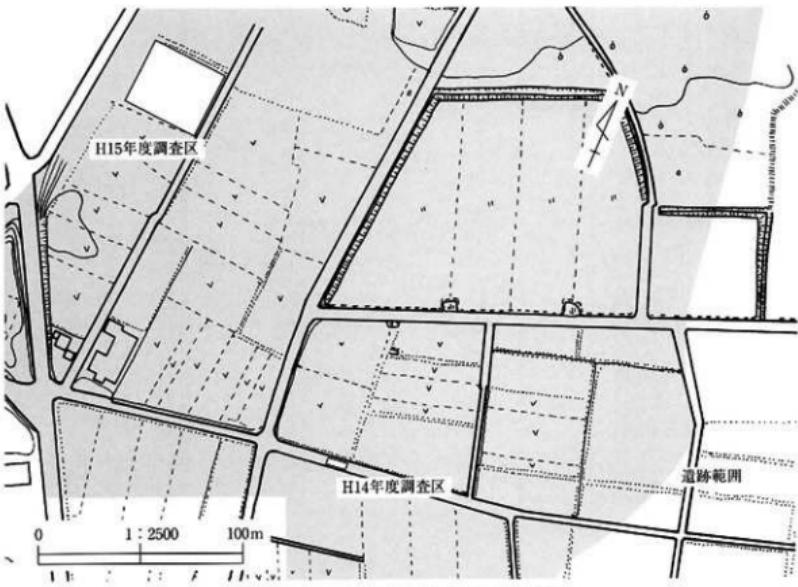
遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北本線石鳥谷駅の南東方向約3.5km、西流する稗貫川によって形成された低位段丘上に立地している。遺跡の標高は、88.5~90mほどで、現況は、水田・畑地・道路・宅地となっている。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、平成13年度に実施した試掘調査で検出された平安時代の竪穴住居跡1棟、陥穴状遺構（平成14年7月調査）の発掘調査結果も併せて報告することとする。1号住居跡は一辺が4.5～5 mの規模で、付属施設として東壁にカマド1基、カマド北側と南壁中央部付近に貯蔵穴と思われる土坑が2基確認された。柱穴は、主柱穴となるべき位置には検出できなかった。柱穴であるnp 1・2の性格は不明である。

カマドは天井部が押しつぶされた状況で検出され、袖部は不明瞭であった。煙道は掘り込み式で、煙出部は煙道からいったん下がった後に、さらに東側にくり貫かれていたが、この理由については判断できなかつた。なお、この堅穴住居は、床面及び貼床の状況から、建て替え拡張されたものであることが判明した。カマ



第22図 上野々遺跡位置図



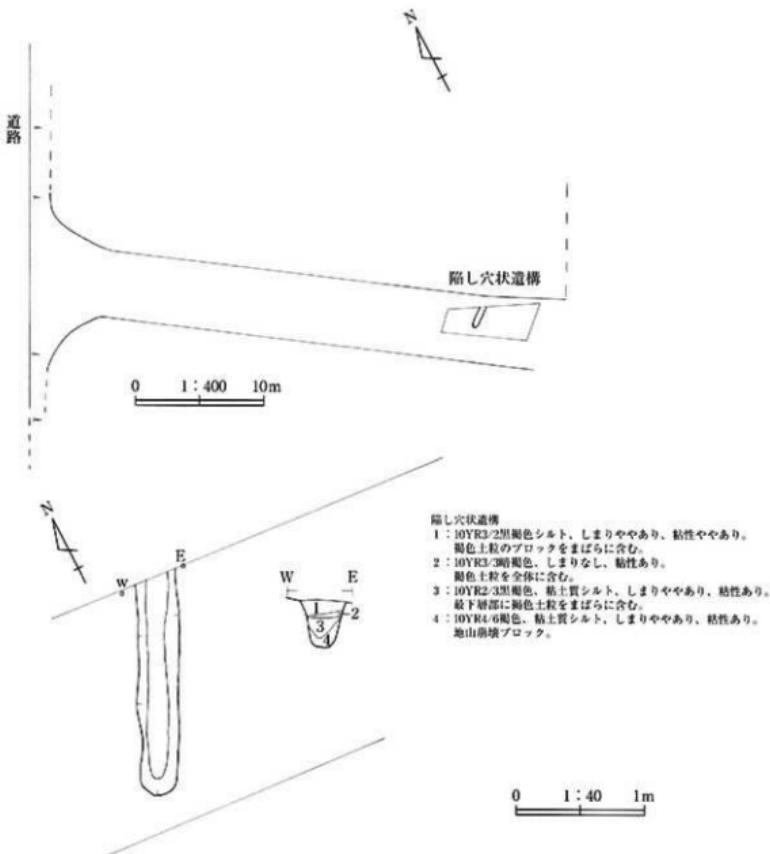
第23図 上野々遺跡調査区位置図・遺構図

マドの位置は、建て替え前と建て替え後もそのままに、住居を北と西側に拡張された様相であった。古い住居には、貼床された範囲から考えて、ピット1が伴うものと思われた。

住居跡より新しい土坑3基については、2号土坑がその形状から墓であった可能性があり、3号土坑は、焼土を伴うものであった。

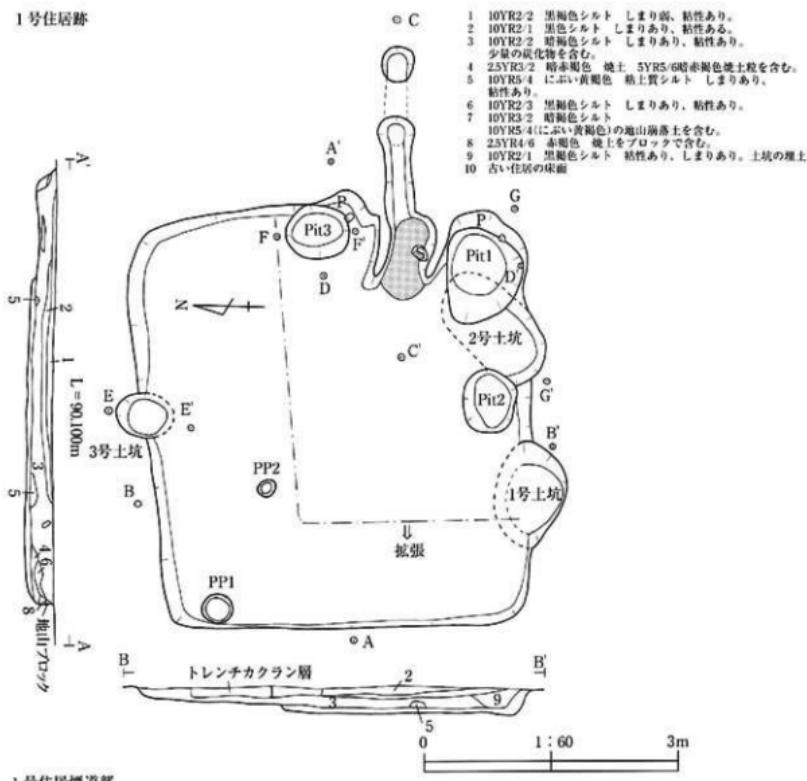
遺物については、小コンテナ約1箱分出土し、カマド周辺から土師器の壺の口縁部片が出土した。時期については、平安時代のものと判断した。

農道設置予定箇所で検出された陥し穴状造構については、平成14年7月に発掘調査を実施し本稿で併せて報告するものである。この陥し穴状造構は、溝状のプランを示し、長さ2m以上、幅50cm、深さ50cmであった。周囲には他の造構及び遺物は確認できなかった。

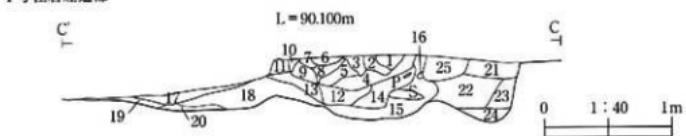


第24図 上野々遺跡遺構図1

### 1号住居跡



### 1号住居煙道部

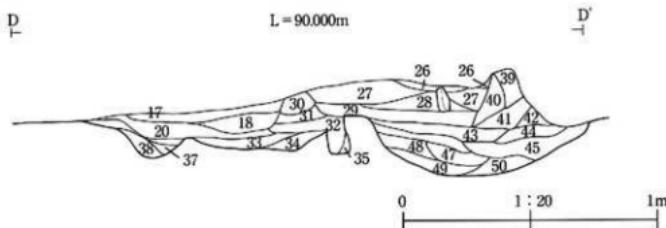


#### 1号住居煙道部断面

- 10YR5-3 にぶい黄褐色。灰泥土。しまり・熱性中。
- 1cmの白色縦条子を含む。
- 1号土坑の壁に見かけている。
- 10YR4-1 黒褐色。シルト。しまり・熱性中。1層より黑みがかっている。
- 10YR5-3 黒褐色。シルト。しまり・熱性中。2層と熱性。
- 25YR4-4 にぶい赤褐色。主体は灰土。黒色シルトが若干混じる。
- 黄色シルトが混じる。黄褐色粘土上に黒色シルトが若干混じる。
- 10YR2-2 黒褐色。シルト。しまり・熱性中。3より黒見駆かっている。
- 10YR5-3 黒褐色。シルト。しまり・熱性中。
- 10YR5-3 黒褐色。シルト。しまり・熱性中。
- 25YR4-6 赤褐色。地土。熱性・しまり強。燒土粒若干混じる。
- 10YR2-3 黒褐色。シルト。熱性・しまり強。燒土粒若干混じる。
- 燒土ブロックが若干混じる。
- 10YR4-3 にぶい黃褐色。粘土。熱性・しまり強。
- 燒土ブロックが若干混じる。
- 25YR4-6 赤褐色。燒土。しまり中・熱性弱。より黒みがかっている。
- 5YR2-2 黒褐色。しまり・熱性弱。シルト。燒土が主体。
- 10YR2-2 黑褐色。シルト。しまり・熱性弱。シルト、燒土、黄色粒若干含む。
- 10YR2-4 にぶい黄褐色。シルト。しまり・熱性弱。主体は黄色ブロック。
- 7.5YR4-3 黑褐色。シルト。燒土ブロックを比較的多く含む。
- しまり中・熱性弱。灰化物が多い。
- 10YR4-6 赤色。燒土。しまり中・熱性弱。褐色土を含む。
- 10YR4-2 黄褐色。シルト。しまり中・熱性弱。
- 25YR4-6 にぶい赤褐色。シルト。燒土と黒褐色土の混じり。
- しまり中・熱性弱。
- 10YR2-2 黑褐色。シルト。しまり中・熱性弱。
- 地山黄色ブロック・粒子を含む。
- 10YR2-2 黑褐色。シルト。しまり・熱性弱。
- 地山黄色ブロック・粒子を含む。
- 10YR4-1 黄褐色。シルト。しまり中・熱性弱。
- 地山黄色ブロック・粒子を含む。
- 10YR5-6 明黄褐色。粘土。しまり・熱性強。

第25図 上野々遺跡遺構図 2

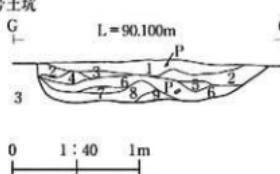
### 1号住居跡 カマド



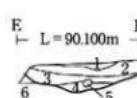
### 1号住居跡 カマド断面

- 26 7.5YR3/2 黒褐色。シルト。しまりあり。粘性なし。  
2~3cm太の焼土ブロックをわずかに含む。
- 27 SYR3/6 黄褐色。じしややあり。粘性なし。  
焼土ブロックを多く含む。
- 28 10YR4/4 錆色。しまりややあり。粘性なし。  
黄褐色焼土ブロックを含む。カドのワダの崩落土か。
- 29 SYR4/4 にせい赤褐色。しまりなし。粘性なし。  
1cm太の焼土粒を多く含む。炭化物をわずかに含む。
- 30 10YR4/4 にせい赤褐色。しまりなし。粘性なし。  
10YR4/4 にせい赤褐色。粘土。粘性・しまり強。
- 31 SYR5/4 にせい赤褐色。燒土と土の混土。しまり・粘性中。  
32 SYR4/3 にせい赤褐色。燒土・褐色土の混土。しまり・粘性中。
- 33 10YR4/8 赤。燒土。じしや中・粘性弱。
- 34 10YR4/2 黄褐色。シルト。しまり弱・粘性弱。ミと地山の混土。
- 35 10YR4/4 にせい赤褐色。シルト。粘性弱。しまり中。
- 36 2.5SYR4/4 にせい赤褐色。シルト。焼土が多く混じる。
- 37 10YR6/4 にせい赤褐色。シルト。燒土。粘性弱。しまり弱。
- 38 10YR5/2 黄褐色。シルト。燒土。
- 39 10YR5/4 にせい赤褐色。粘土。粘性・しまり強。  
カマド跡の一部。
- 40 SYR4/3 にせい赤褐色。焼土・褐色土の混土。しまり・粘性中。
- 41 10YR5/3 にせい赤褐色。シルト。粘性中・しまり弱。  
焼土、炭化物が混じる。
- 42 10YR3/1 黑褐色。シルト。粘性弱。しまり中。
- 43 10YR5/2 黄褐色。シルト。粘性弱・しまり中。  
炭化物。褐色土・褐色粉子含む。
- 44 10YR4/3 にせい赤褐色。粘土。しまり中・粘性弱。  
黄色ブロックが七枚の層。
- 45 10YR4/3 にせい赤褐色。シルト。シルト。しまり中・粘性弱。  
焼土を比較的多く含む。炭化物を若干含む。
- 46 7.5YR4/3 灰褐色。シルト。粘性・しまり弱。焼土粒を多く含む。
- 47 10YR3/4 暗褐色。シルト。粘性・しまり弱。燒土を若干含む。
- 48 10YR4/2 黄褐色。シルト。粘性・しまり中。炭化物を多く含む。
- 49 10YR3/1 黑褐色。シルト。粘性・しまり弱。黄色ブロックを若干含む。
- 50 10YR4/2 黄褐色。シルト。粘性弱・しまり中。

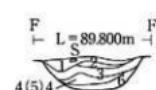
### 2号土坑



### 3号土坑



### Pit3



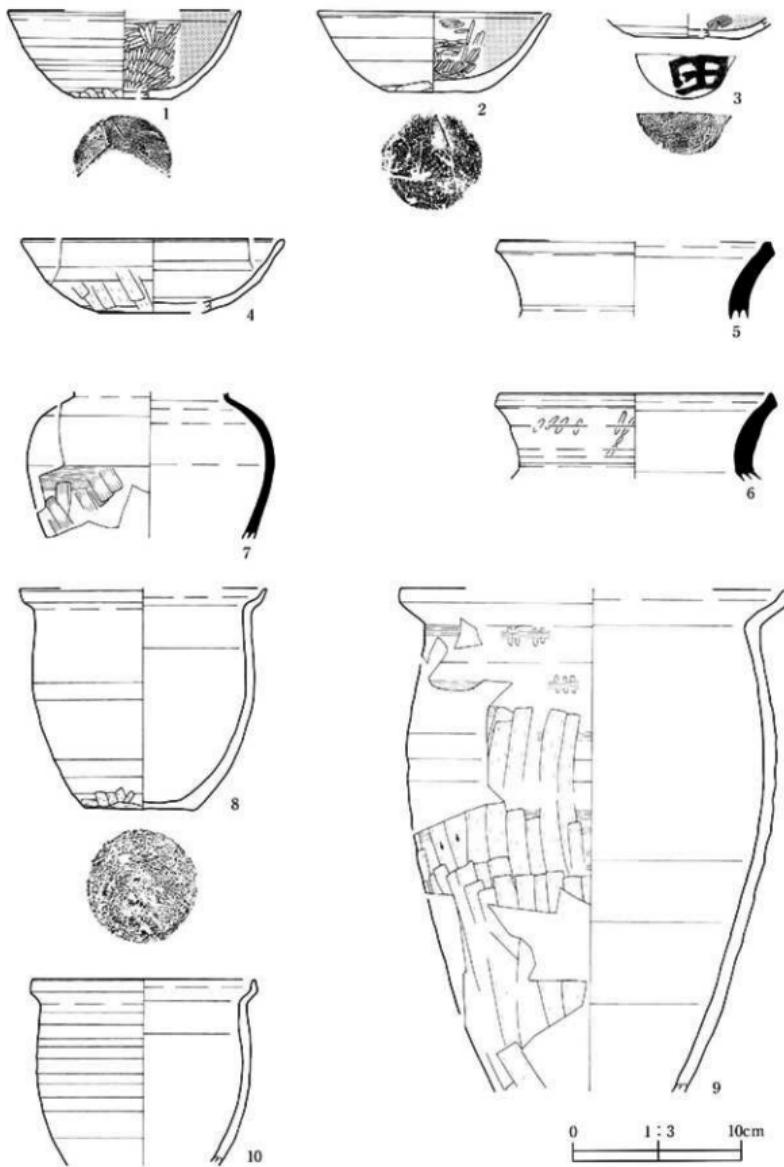
### 2号土坑 土質注記

- 10YR2/3 黒褐色シルト。しまりなし。炭化物、焼土を粒状に少額含む。
- 7.5YR3/1 黑褐色シルト。ややしまりなし。粘性あり。褐色土粒を5%含む。ブロック状に1%含む。炭化物・焼土を粒状に少額含む。
- 7.5YR4/4 黄褐色土質シルト。粘性弱り、しまりあり。
- 10YR5/4 にせい黄褐色シルト。ややしまりなし。明黄褐色粘土質土を小ブロックへ粒状:10%含む。
- 10YR5/2 黄褐色シルト。粘性弱り、しまりあり。明黄褐色粘土質土を中ブロック状に少額含む。
- 7.5YR5/6 明黄褐色土質シルト。粘性あり。しまりあり。30mm前後の焼土ブロック。明黄褐色粘土中ブロックを10%含む。
- 10YR2/3 黑褐色シルト。粘性ややあり、しまりあり。明黄褐色・明黄褐色ブロックを含む。
- 7.5YR4/1 黄褐色土質シルト。10~5mm大の炭化物を少額含む。明黄褐色土質土中ブロックを10%含む。燒土小ブロックを10%含む。
- 10YR5/4 にせい黄褐色土質シルト。褐灰色粘土質土の小ブロックを少額含む。しまりあり。粘性あり。

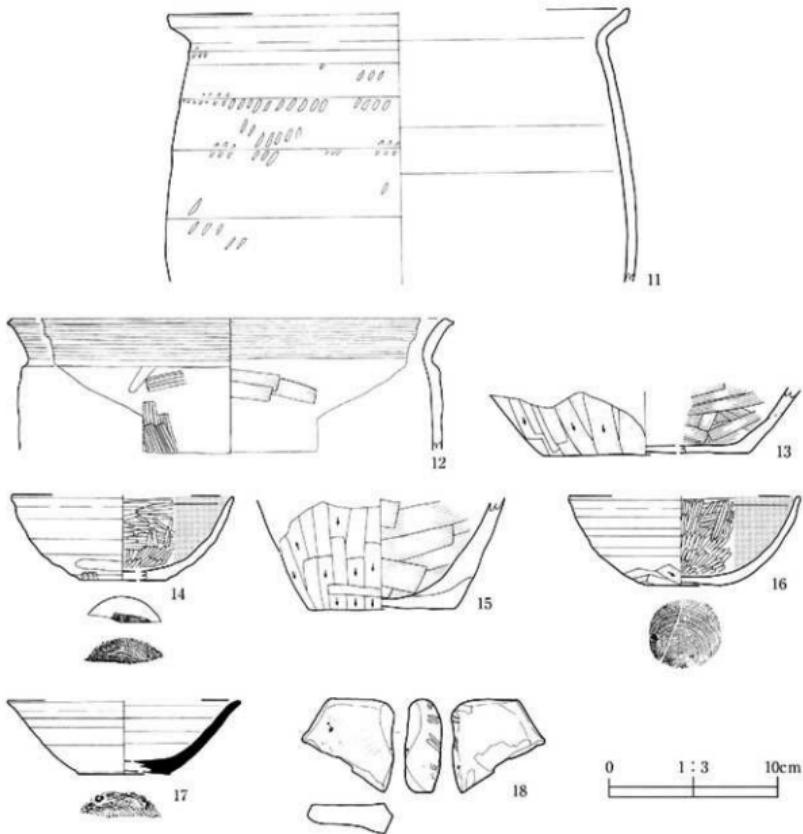
### 1号住居跡 P-E断面記

- 10YR3/3 黄褐色粘土質シルト。しまりややあり。粘性あり。焼土、黄褐色土粒を全体に含む。
- 7.5YR4/0 黄褐色粘土質シルト。しまりあり。粘性あり。明黄褐色粘土質土を全体に含む。
- 10YR2/1 黑褐色。しまりなし。粘性あり。燒土粒をまばらに含む。
- 7.5YR4/4 黄褐色粘土質シルト。しまりあり。粘性あり。燒土粒を層上部に含む。
- 10YR5/4 にせい赤褐色。砂質シルト。しまりあり。粘性ややあり。地山崩落土。
- 10YR4/4 黄褐色粘土質シルト。しまりあり。粘性ややあり。燒土粒をまばらに含む。

第26図 上野々遺跡遺構図3



第27図 上野々遺跡出土遺物 1



第28図 上野々遺跡出土遺物 2

上野々遺跡出土遺物観察表

| 国版<br>番号 | 出土地区<br>位別       | 種 別  | 調 整        | 備 考            | 国版<br>番号          | 出土地区<br>位別 | 種 別             | 調 整  | 備 考        |                |
|----------|------------------|------|------------|----------------|-------------------|------------|-----------------|------|------------|----------------|
| 1        | 1号住居跡<br>カマド内    | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | 底部回転条切痕<br>再調整    | 10         | 1号住居跡<br>カマド焼上  | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | ロクロナデ<br>ロクロナデ |
| 2        | 1号住居跡<br>カマド焼上   | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>ヘラミガキ | 底部回転条切痕<br>再調整    | 11         | 1号住居跡<br>2号土坑埋上 | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | タキ<br>ロクロナデ    |
| 3        | 1号住居跡<br>埋上      | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | 不明<br>不明       | 底部回転条切痕<br>墨書き「田」 | 12         | 1号住居跡<br>埋上     | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>ヘラケズリ |
| 4        | 1号住居跡<br>便道内     | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>不明    | 底部回転条切痕           | 13         | 1号住居跡<br>便道内    | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>ヘラケズリ |
| 5        | 1号住居跡<br>カマド     | 埴器壺  | 不 明        |                | 口縁部               | 14         | 1号住居跡<br>2号土坑埋上 | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>ヘラミガキ |
| 6        | 1号住居跡<br>Pit 3付近 | 埴器壺  | 外 面<br>内 面 | ヘラナデ<br>不明     | 制部                | 15         | 1号住居跡<br>2号土坑埋上 | 上師器壺 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>ヘラナデ  |
| 7        | 1号住居跡<br>Pit 2   | 埴器壺  | 外 面<br>内 面 | ハケヌ<br>不明      | 口縁部               | 16         | 1号住居跡<br>Pit 1  | 上師器環 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>ヘラミガキ |
| 8        | 1号住居跡<br>2号土坑    | 上師器壺 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>ロクロナデ | 底部回転条切痕           | 17         | 1号住居跡<br>Pit 1  | 埴器壺環 | 外 面<br>内 面 | ロクロナデ<br>ロクロナデ |
| 9        | 1号住居跡<br>カマド焼上   | 上師器壺 | 外 面<br>内 面 | ヘラケズリ<br>ロクロナデ |                   | 18         | 1号住居跡<br>ヘルト内   | 砾石   |            |                |

## 6 ほ場整備事業町井地区関連調査

下屋敷遺跡（ME06-2345）

所在地：和賀郡東和町町井地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成16年3月8日～10日、3月12日、

3月15日～17日 計7日

遺跡は、東和町役場から南東へ約18km離れた河岸段丘の縁辺部に立地しており、遺跡の北側約10mを猿ケ石川が西流している。遺跡の標高は、106m前後を測り、現況は宅地、水田及び畠地となっている。

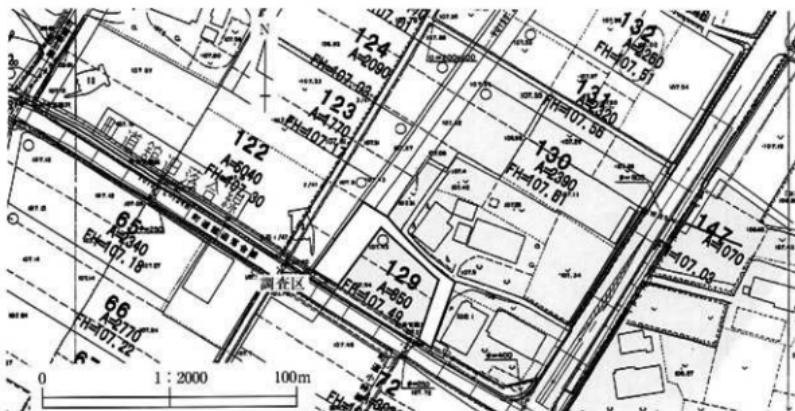
今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、平成15年11月に実施した試掘調査により、遺構及び遺物が確認された農道拡幅及び農道新設箇所、排水路新設箇所を対象とし、排水路新設箇所については発掘調査を、農道部分については確認調査を行ったものである。

調査の結果、竪穴住居跡状遺構1基、土坑類3基、溝跡9条、焼土遺構3基、柱穴状ピット32基が確認された。調査区東側の住居状遺構は、一辺が約2.5mほどの隅丸方形のプランを呈しており、検出面から床面までの深さは約40cmほどであった。この住居状遺構の東側の壁面から床面にかけて、30cm大の疊が確認され、それらのなかには、火を受けたようなものもあったが、焼土、炭化物等はその周囲では確認できなかったため、カマドはおそらく現宅道下にあると推測した。この竪穴住居状遺構からは、遺物は出土しなかった。

溝跡は、調査区内で9条検出された。いずれの溝跡においても、深さはほとんど約10cmほどであり、調査区の西側から東側にかけて、互いに並行するように検出された。また、調査区西側から東側にかけて連続していると思われる溝跡もあった。遺物については、1号溝跡の検出面に近い埋土上面から、土師器片1点が



第29図 下屋敷遺跡位置図



第30図 下屋敷遺跡調査区位置図

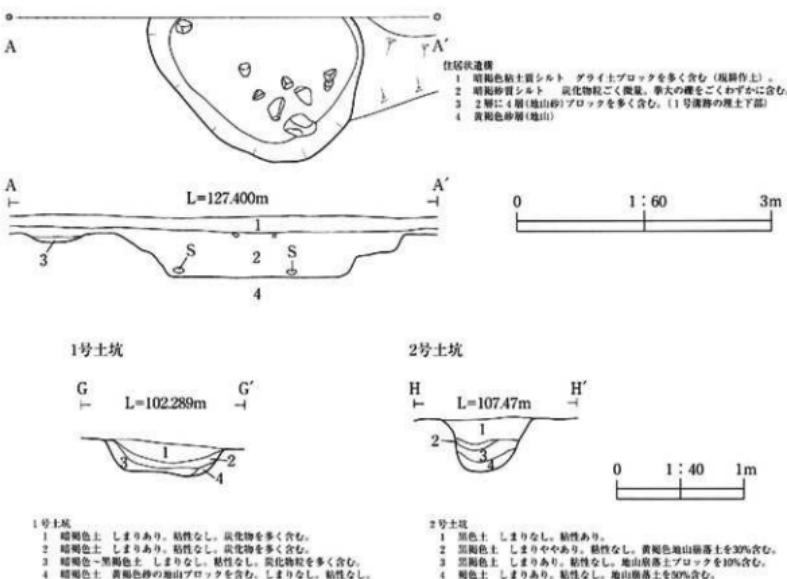
出土したほかは、他の溝跡からは遺物は確認できなかった。

調査区西側において、焼土を作った円形土坑が4基検出された。確認調査対象箇所であったが、遺構の性格を確認するために1基のみ遺構精査を行ったところ、遺構に直接結びつくような遺物は今回確認できなかつたが、焼土範囲及び遺構底面の検出状況、埋土中の焼土ブロックの堆積状況等から、鍛冶関連遺構の可能性が非常に高いと判断した。

発掘調査に先立ち、平成15年11月に試掘調査を実施した際、今回の発掘調査区に近接した田面において、古代の堅穴住居跡が4棟確認され、摩滅はしているものの土師器片が1点出土している。検出された堅穴住居跡は、いずれも黄褐色砂層面で検出されている。これらの遺構が検出された田面の層序は、水田耕作土である表土直下に、黄褐色砂層面があらわれていることから、水田造成による地形変化をすでに受けていると思われ、遺構の残存状況は良好ではないと推測した。

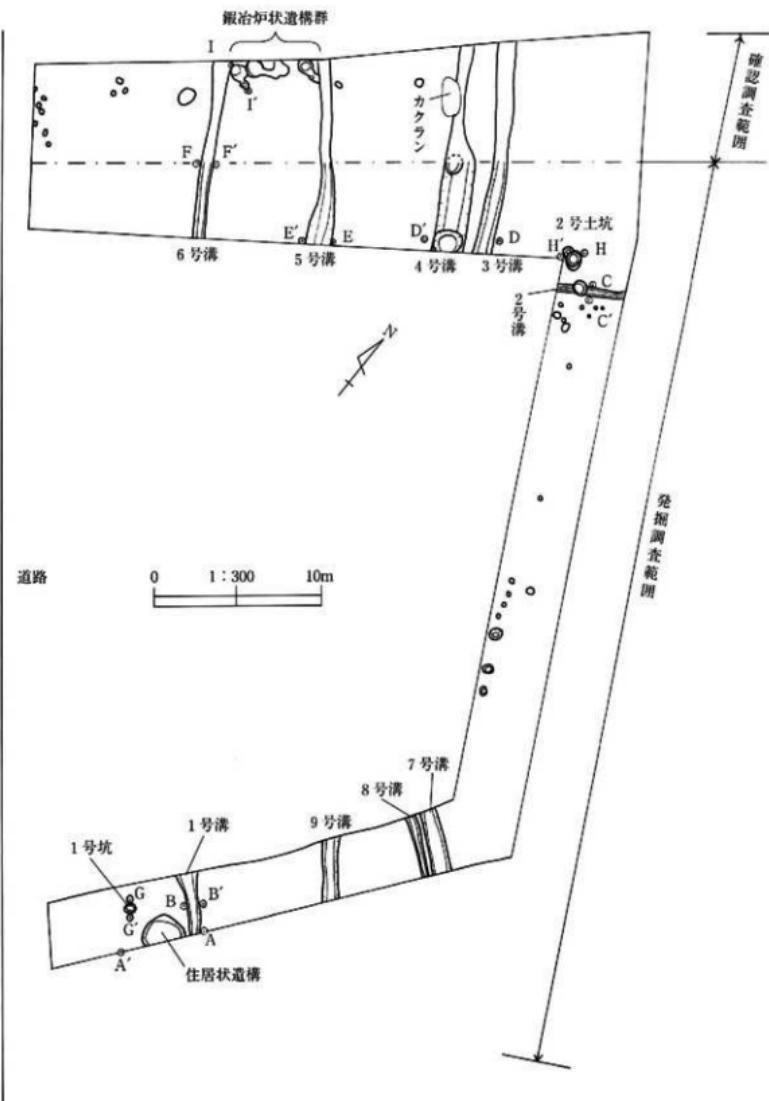
今回の調査区は、水田床土直下に地山である黄褐色砂層が露出しているところが多く、遺構の深さも調査区西側ほど浅かったことから、過去の水田造成等により大きな地形変化を受けたことを伺わせた。

試掘調査及び発掘調査で検出された遺構が、この地形変化を大きく受けた田面に集中していることは、本遺跡は、猿ヶ石川によって形成された自然堤防上に営まれた集落であり、現在の水田は、この自然堤防の高まり部分を削平して造成されたものと推測した。

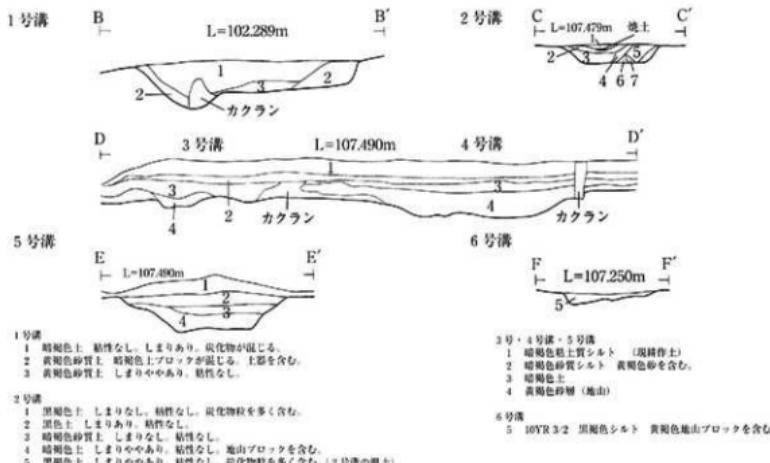


第31図 下屋敷遺跡遺構図1

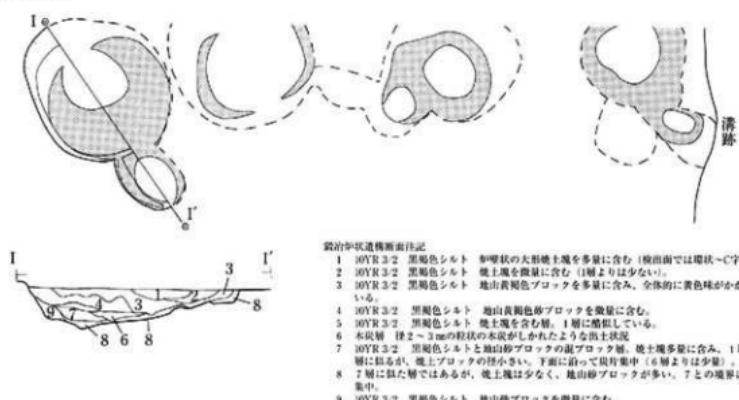
〈遺構配置図〉



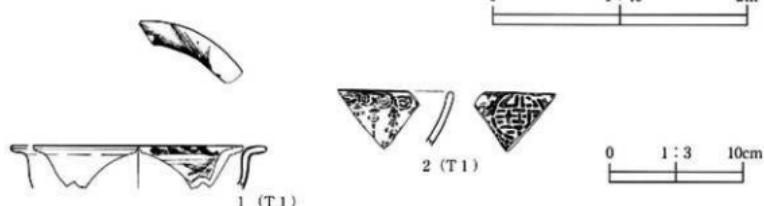
第32図 下屋敷遺跡遺構図 2



#### 鍛冶炉状遺構



#### 出土遺物



第33図 下屋敷遺跡遺構図3・出土遺物

## 7 中山間地域総合整備事業日野沢地区関連調査

出ル町II遺跡（J F25-2121）

所在地：九戸郡山形村日野沢13地割地内

事業者：久慈地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成15年6月30日（試掘調査）

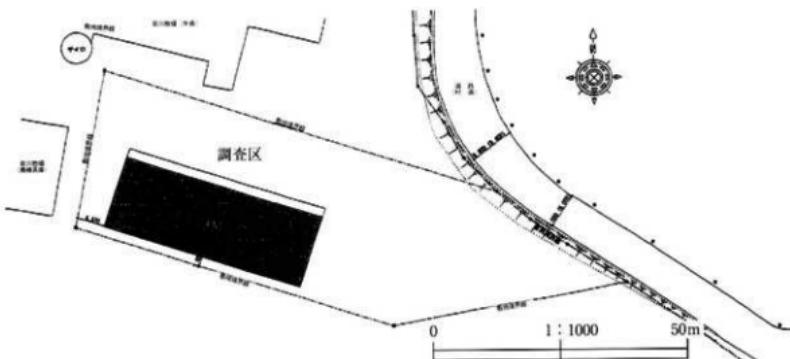
平成15年9月16日～18日（発掘調査）

遺跡は、山形村役場から北北西方向約6kmに位置する。日野沢川支流の一つである北沢川右岸のなだらかな斜面に立地しており、標高は327mを前後を測る。周知の「出ル町遺跡」の近接地として試掘調査した結果、埋蔵文化財が確認されたため、新規遺跡「出ル町II遺跡」として調査した。試掘調査時に確認された遺物包含層は、第Ⅲ層暗褐色～黒褐色砂層上面で検出された。包含層の規模は、3.7m×3.5mの広さで厚さは、約30cmであった。

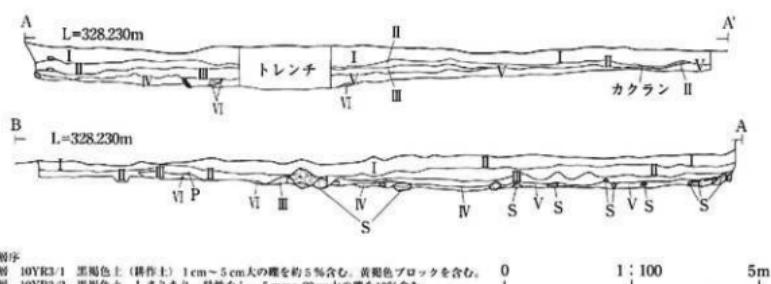
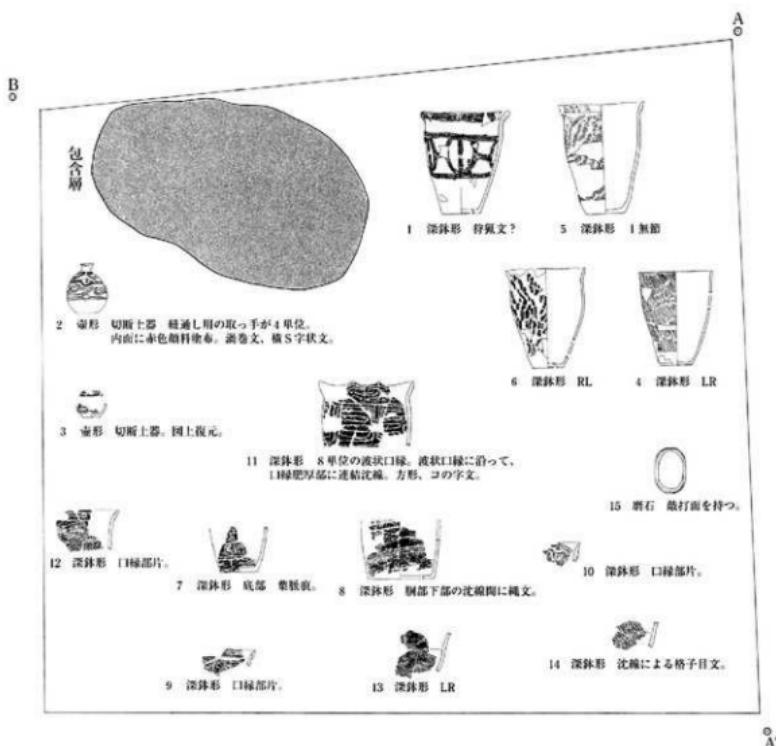
包含層からは、小コンテナで2箱分の土器が出土し、包含層精査後、包含層下あるいは周間に遺構が所在しているかどうか精査したが、確認できなかった。今回の調査区周辺の地形を観察すると、調査区南側にある山裾の法面部分において、斜面が崩落したと思われる大きな凹みがあり、その崩れたと思われる凹みの下方に、土砂の盛り上がった箇所があった。今回の調査区において、この山裾の法面に近い南側部分には、崖錐性の礫（径40cm～60cm大）が多く認められた一方、調査区北側には全くなかったこと、第Ⅲ層の下面に、十和田a降下火山灰と思われる火山灰が、ブロック状に含まれている箇所があり、地層の新旧関係が一部逆転している箇所があることが判明したこと、第Ⅳ層は、黄褐色砂錐層であったことから、旧河道部分であると推測できることなどから、今回の調査区は、旧河道部分に何らかの理由で山体崩落した箇所と推測した。切断土器等の今回出土した遺物は、崩れ落ちる前に構築された遺構に伴うものであると思われるが、遺構等は崩落した際に崩れ去り、今回の調査区は、遺物を含んだ土が再堆積した部分であると判断した。切断土器が2個体出土しており、切断土器は埋葬等の儀礼に関係しているとのことから、おそらく土坑墓等の遺構が所在していたものと推測した。集落は、調査区外の尾根部分に所在している可能性が高い。



第34図 出ル町II遺跡位置図



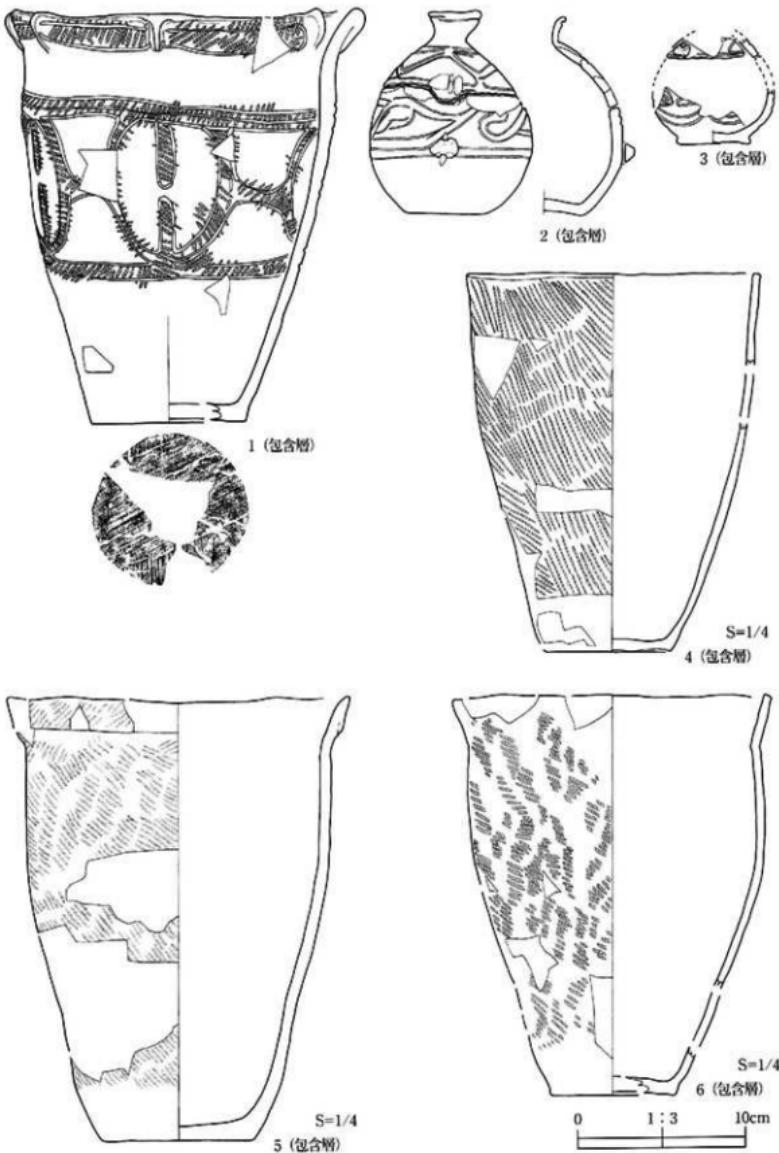
第35図 出ル町II遺跡調査区位置図



基本剖面

- 第Ⅰ層 10YR3-1 黒褐色土(耕作土) 1cm~5cmの大粒を約5%含む。黄褐色ブロックを含む。
- 第Ⅱ層 10YR2-2 黒褐色土。しまりあり。粘性なし。5mm~20cmの大粒を10%含む。
- 第Ⅲ層 10YR2-2 黒褐色土。しまりあり。粘性なし。日影とほぼ同じであるが、礫なし。
- 第Ⅳ層 75YR5-6 明黄褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。
- 第Ⅴ層 10YR3-3 暗褐色土。しまりなし。粘性なし。
- 第VI層 10YR6-2 灰青褐色土。しまりなし。粘性なし。十和田a層下火山灰か。

第36図 出ル町Ⅱ遺跡遺構図



第37図 出ル町Ⅱ遺跡出土遺物1



第38図 出ル町Ⅱ遺跡出土遺物 2

## 8 経営体育成基盤整備事業濱倉地区

兵法田遺跡 (NE 15-0311)

所在地：水沢市佐倉河字西田中地内

事業者：水沢地方振興局土木部

調査期日：平成15年5月19日～23日（5日間）

遺跡は、JR東日本水沢駅から5.5kmの標高69～70mの胆沢扇状地に立地する。

今回の事業予定地において平成14年10月に実施した試掘調査では、ピットなどの遺構が確認されていた。ほ場整備事業実施にあたり、水路用地の発掘調査、砂利敷道路用地部分の確認調査を行った。確認調査区の遺構検出は東西に延びるカクランより南側では、2もしくは3層上面、カクランより北側では4層上面で行った。発掘調査区の遺構確認は、4層上面で行った。

その結果、水路用地内ではピットが多数発見され、建物跡の一部であることが判明した。ピットは直径20cmから40cmのものが主体であった。切り合いも確認されており、長期間の利用が考えられる。遺物は出土しなかった。南端では、カクランがあり、その埋土中から縄文土器片、石臼破片が発見された。

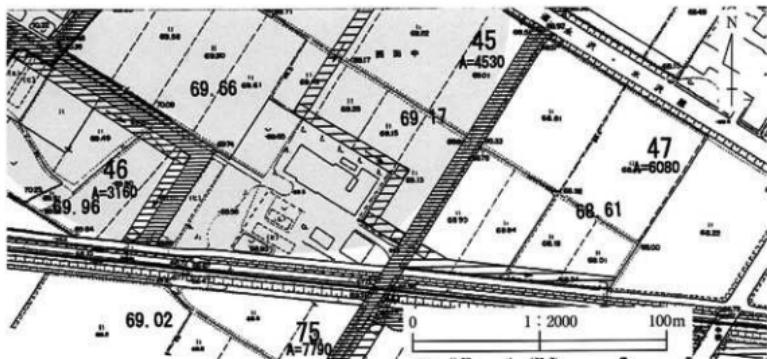
砂利敷道路用地では、焼土を作う土坑が2基発見され、鍛冶に伴う可能性がある。また、調査区北側には堅穴住居跡と考えられる遺構が1基発見された。遺構から遺物は出土しなかったが、堅穴住居跡の近くで、19世紀の産地不明の陶器（鉢）が出土した。

今回、発見された遺構の時期は、近世もしくは平安時代のものと考えられた。

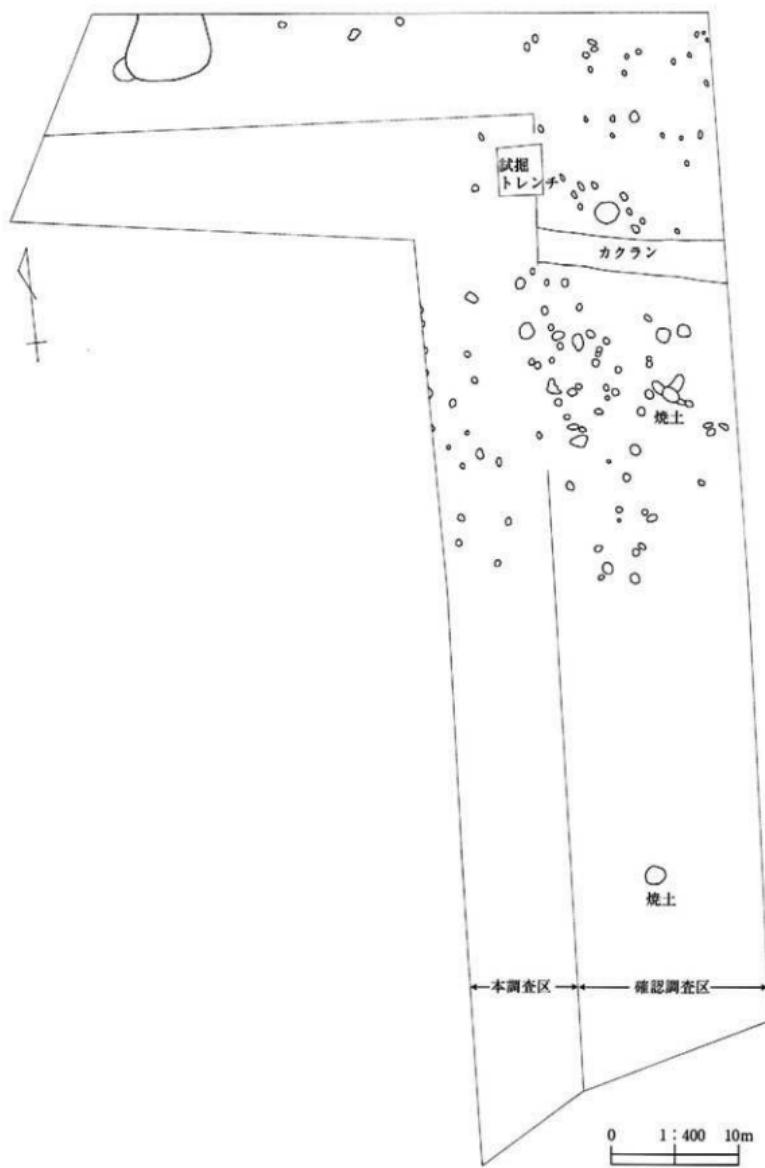
調査区に隣接する畠地において今回、土師器、須恵器が表採された。付近に同時期の遺構群があるものと推定される。



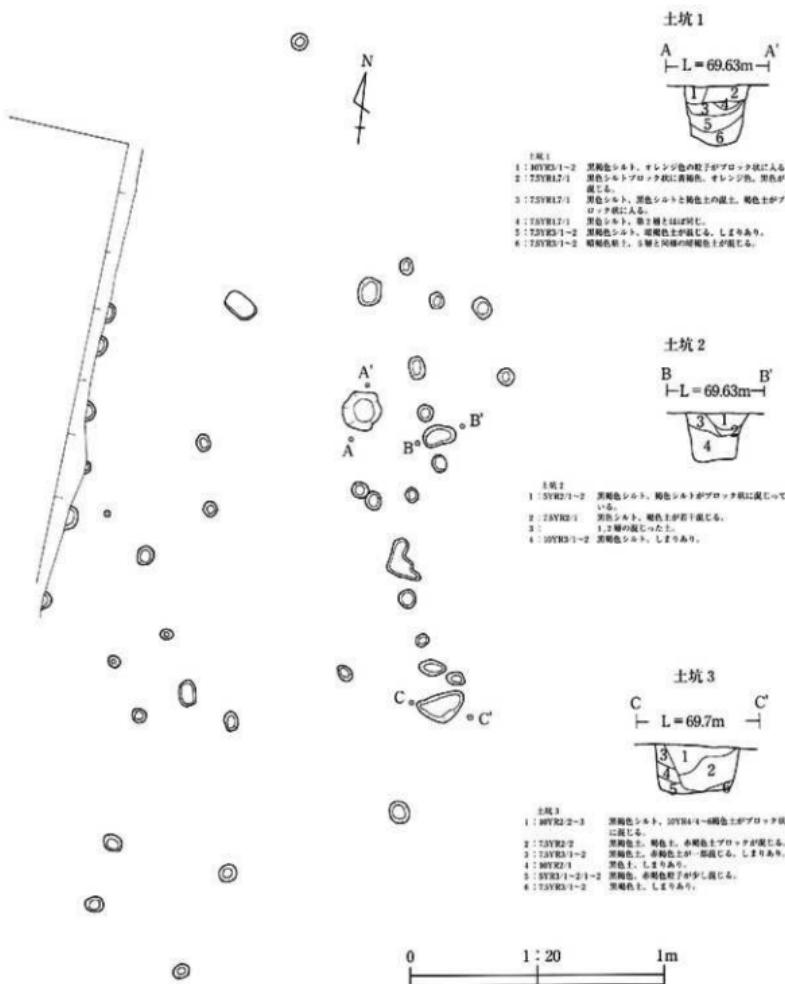
第39図 兵法田遺跡位置図



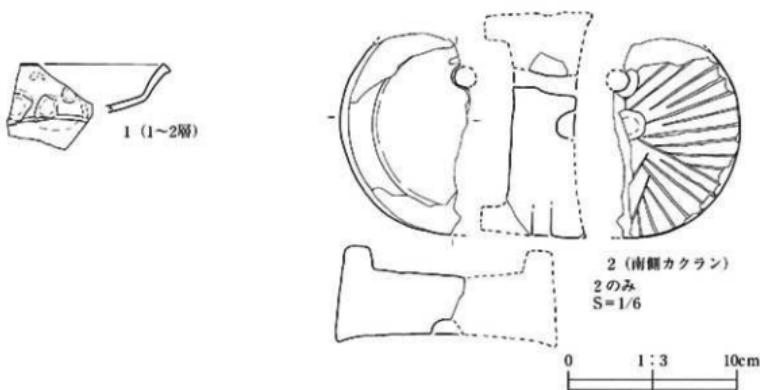
第40図 兵法田遺跡調査区位置図



第41図 兵法田遺跡発掘区



第42図 兵法田遺跡遺構図



第43図 兵法田遺跡出土遺物

## 9 緊急地方道路整備事業

上ノ山遺跡（ME06-2297）隣接地

所在地：花巻市葛字上ノ山地内

事業者：花巻地方振興局土木部

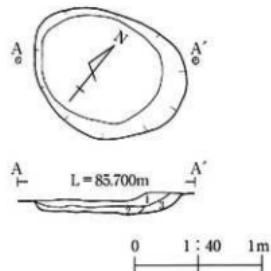
調査期日：平成15年5月28日（水）

遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北新幹線新花巻駅より北東約4.35kmの北上川右岸にある河岸段丘上に立地し、標高は約86m前後を測る。現況は、主に宅地及び水田となっている。今回の調査は、花巻空港建設事業に伴う道路整備事業によるものである。事業予定地の一部は、平成11年9月24日に試掘調査が実施されている。その時点で調査未了であった区域は、上ノ山遺跡隣接箇所であったが、平成14年12月20日に試掘調査を実施した。精査の結果、土坑1基が検出されたため、今回の調査は、記録保存のため発掘調査を実施した。

第III層下面で検出された土坑（1号土坑）の平面プランはやや楕円形を示し、規模は120cm×95cmであり、深さは約8cm程度であった。土坑の中心こそやや深さはあるものの、土坑底部は全体的に平坦であった。土坑埋土の第1層には、5~9mm程度の炭化物粒が認められたが、遺物は発見できなかった。第2層には、第1層の炭化物粒より大きい10~20mm程度の炭化物が含まれていたが、遺物は確認できなかった。第3層には、炭化物は全く含まれていなかった。試掘調査の際にも、遺物は発見できなかったが、今回の発掘調査においても、遺物は全く発見できなかったため、この1号土坑が構築された時期及び性格については不明である。

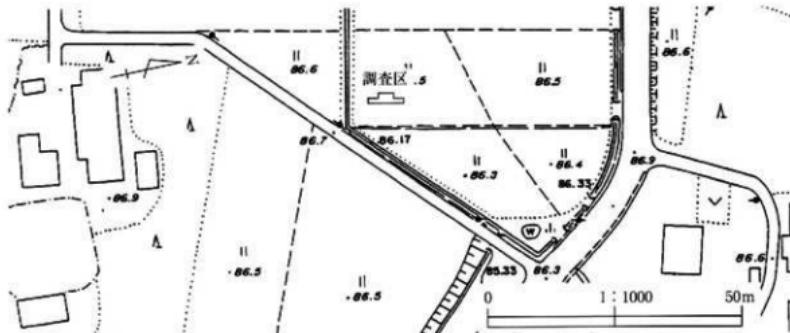


第44図 上ノ山遺跡位置図



第45図 上ノ山遺跡構造図

|   |          |       |         |      |         |
|---|----------|-------|---------|------|---------|
| 1 | 10YR2/1  | 黒粘土   | しまりあり   | 粘性あり | 炭化物粒を含む |
| 2 | 10YR5/1  | 褐灰 粘土 | しまりややあり | 粘性あり | 炭化物粒を含む |
| 3 | 7.5YR5/1 | 褐灰 黏土 | しまりあり   | 粘性あり | 炭化物粒を含む |



第46図 上ノ山遺跡調査区位置図

## 10 国営いさわ南部農地整備事業

二の台遺跡 (NE 44-0230)

所在地：胆沢郡胆沢町小山字二の台地内

事業者：農林水産省東北農政局

いさわ南部農地整備事務所

調査期日：平成15年7月22日(火)～29日(火)

平成15年10月1日(火)～2日(水)

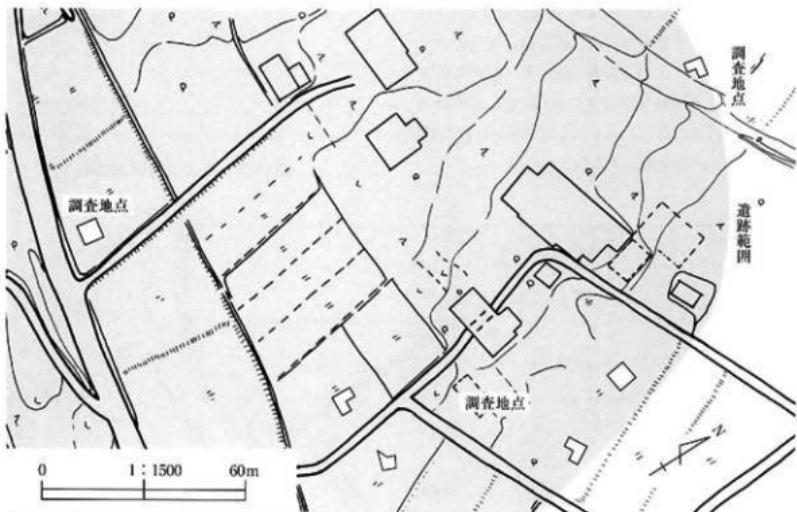
(延べ8日間)

遺跡はJR東北本線前沢駅の北西約8kmに位置し、胆沢扇状地中位段丘面にあたる上野原段丘面に立地する。遺跡の標高は約157m～163mを測り、白鳥川との比高は10mほどである。遺跡の現況は主に水田と畠地そして宅地となっている。

今回の調査はほ場整備事業に伴うものである。発掘調査に先立ち岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、平成14年10月15日～10月30日まで試掘調査を行った結果、陥し穴とみられる遺構が8基確認されていた。ほ場整備事業実施にあたり排水路と切り土で削平されることになった、T12（土坑1基）、T23（土坑1基）、T25（土坑2基）、T29（土坑1基）と、設計変更が生じ盛土予定であった田面が切土されることになったT5の計6基について調査を行った。T25における2基のうち1基の陥し穴状構造は埋土の3層、4層黒褐色粘土質シルト中において明黄褐色粘土の擾乱が顕著であり、確認面は凹凸が多くいた。長軸2.64m、



第47図 二の台遺跡位置図



第48図 二の台遺跡調査区位置図

短軸0.48mで深さは0.2mであったが、不規則な細長い形状から風倒木痕であると判断した。従って今回発掘調査を行った陥し穴状遺構は5基である。T1及びT2については盛土もしくは影響のない削平のため調査は行わないこととした。調査の結果、調査区の基本層序は、第I層が水田耕作上で鈍い黄褐色粘土質シルトからなり、およそ3%の明黄褐色粒を含み層厚は約20cmであった。第II層は明黄褐色粘土と黒褐色粘土質シルトの混合土で層厚は約20cmであった。第III層は旧表土と思われる黒褐色粘土質シルトで、層厚は削平されたところもあり0cm～15cmだった。第IV層は漸移層の暗褐色粘土質シルトで層厚は第III層同様削平されたところもあり約0～20cmだった。第V層は地山で明黄褐色粘土であった。

#### 第1号陥し穴状遺構 (T12)

平面形は溝状を呈しており、長軸2.45m、短軸0.75m、深さは1.12mの規模を持ち、底面は狭く幅は0.1m前後であった。断面形は縦長のTの字形で、遺構の両端は、上場よりも0.3mえぐられる形でプラスコ状に外側に広がっていた。第I層は黒褐色土で一部に地山の明黄褐色土をブロック状に含んでいた。第10層～第12層は、ほとんど地山の明黄褐色粘土と区別できない土質であったが、堅さにしまりがなく部分的に粒状化が見られたので掘り深めたところ黒褐色土の第13層が出てきた。わずかに地山が水に溶けて混じり合った黒褐色土である。層厚は0.08mであった。かつて陥し穴として利用していた頃に表土からこぼれ落ちたものと考えられる。第10層～第12層の明黄褐色土は陥し穴として利用されなくなった後に両方の壁面が崩落して長い時間をかけて自然堆積したものと思われる。遺構の埋土からは遺物は確認されなかったが、形状から溝状陥し穴であり、この周辺には複数の陥し穴状遺構が所在するものと考えられる。

#### 第2号陥し穴状遺構 (T12)

平面形は概ね梢円形で長軸0.92m、短軸0.48m、深さは0.18mであった。底面は2段になっており、時代は不明であるが、小判型の陥し穴が先につくられ、その後自然堆積した跡に、円形の土坑がつくられた可能性が高い。深さが0.18mと浅かったのは前回のば場整備で削平されたものと思われる。

#### 第3号陥し穴状遺構 (T23)

平面形がやや細長めの梢円形で長軸1.95m、短軸0.94m、深さは0.5mの小判型の陥し穴状遺構である。形狀的には、上層部分が削平された小判型陥し穴の様相を呈しており、上層部分を想定すると大型の陥し穴であると思われる。

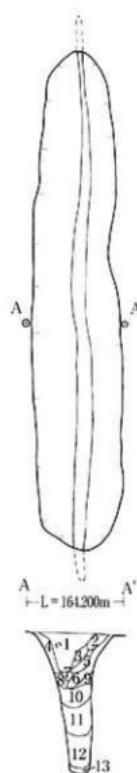
第4号陥し穴状遺構 (T25) は長軸0.58m、短軸0.33mで深さは0.26mだった。これもやはり、上層部分が削平されたと思われる。この遺構の北方0.4mのところに新たに遺構が検出されたが、底が3つに分かれています。一部搅乱が見られたことから木の根痕と思われる。

#### 第5号陥し穴状遺構 (T29)

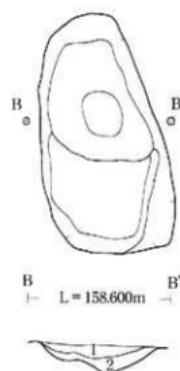
長軸1.4m、短軸0.88mで深さは0.26mだった。平面形は左右ほぼ対称で丸みがかった台形状だった。上層部分は削平されたものと考えられる。

第1号陥し穴状遺構以外の遺構は、深さが0.18m～0.5mの範囲であり浅めであったが、平面形がほぼ左右対称のしっかりした形をしていたことから、上層部分が削平された陥し穴状遺構であると考えられる。これらのことから、周辺の調査区一帯は獵場であったと考えられる。少し離れたところには集落があった可能性もある。もっと広い範囲で詳しい状況がわかれれば、今回検出された遺構の性格が具体的に想定できると思われる。

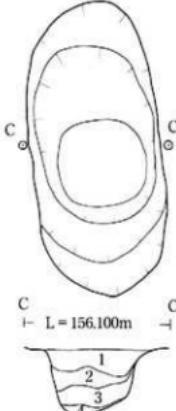
### 第1号断し穴状遺構



#### 第2号陥し穴状遺構

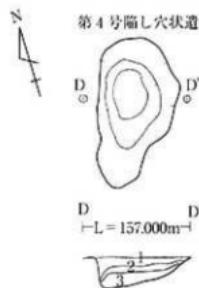


### 第3号陥し穴状遺構

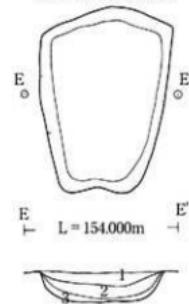


第2回 遊びの秋過橋  
第3回 朝日昇る 2葉褐色  
第4回 朝日昇る 1葉褐色

第4节脑干反射通路



### 第5号陥し穴状遺構



第5号同じく秋穴道蝶  
第1号 80Y32 黒黒色シント 級性あり しまりあり  
第2号 80Y33 黒黒色シント 級性あり しまりあり  
第3号 80Y34 3つに分いた黒黒色 黒黒色シントを枕羽に含む  
略記 みみこ

| 第1号廻し次元通過 |                                    |
|-----------|------------------------------------|
| 第1種       | 1953/3 1回西側斜面を下<br>1953/3 2回西側斜面を下 |
| 第2種       | 1953/3 2回南側斜面を下<br>1953/3 2回北側斜面を下 |
| 第3種       | 1953/3 2回北側斜面を下<br>1953/3 2回南側斜面を下 |
| 第4種       | 1953/3 2回北側斜面を下<br>1953/3 2回南側斜面を下 |
| 第5種       | 1953/3 2回西側斜面を下<br>1953/3 2回北側斜面を下 |
| 第6種       | 1953/3 2回南側斜面を下<br>1953/3 2回北側斜面を下 |
| 第7種       | 1953/3 2回北側斜面を下<br>1953/3 2回南側斜面を下 |
| 第8種       | 1953/3 2回西側斜面を下<br>1953/3 2回北側斜面を下 |
| 第9種       | 1953/3 2回南側斜面を下<br>1953/3 2回北側斜面を下 |
| 第10種      | 1953/3 2回北側斜面を下<br>1953/3 2回南側斜面を下 |
| 第11種      | 1953/3 2回西側斜面を下<br>1953/3 2回北側斜面を下 |
| 第12種      | 1953/3 2回南側斜面を下<br>1953/3 2回北側斜面を下 |

A horizontal number line starting at 0 and ending at  $2\pi$ . There is a tick mark in the middle labeled  $\frac{1}{40}$ .

第49図 二の台遺跡遺構図

## II 試掘調査



# 1 一般国道4号水沢東バイパス改築工事

杉の堂遺跡 (L E 27-0100)

所在地：水沢市東中通り地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成15年8月25日

遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北本線水沢駅より南東約1.5kmに位置し、胆沢扇状地の扇端部にあたる水沢高位段丘に立地する。遺跡の標高は約43m前後を測り、現況は主に、畠地、宅地となっている。本遺跡は、今年度及び平成14年度、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより、発掘調査が実施され堅穴式住居、方形周溝発掘調査が実施され堅穴式住居、方形周溝等、が検出されている。今回の調査区は埋蔵文化財センターの発掘調査区よりさらに約1km南西側になる。今回の調査は、国道4号線東水沢バイパス改築工事に伴うもので、幅170cmのトレーニングを12本設定した(T1～T12)。

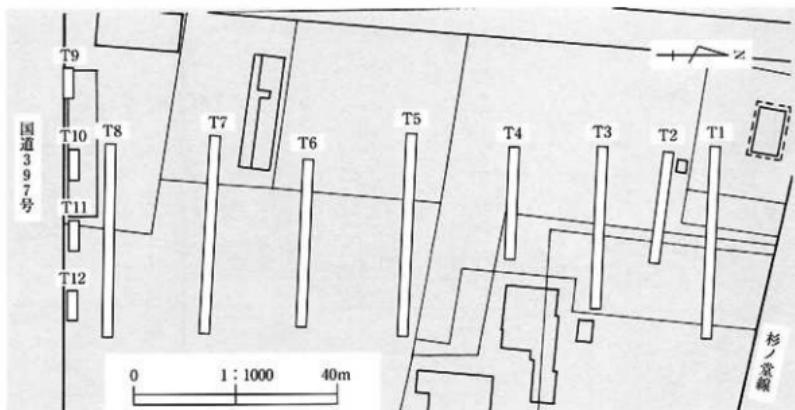
遺構については、T2において、径60×70cmと40×60cmの土坑2基、20×30cmの柱穴状ピット1基が検出された。T6付近では、直径110cmの土坑1基が検出された。この土坑は、トレーニング西端部、宅地造成による盛土下の地山面から検出された。土坑の埋土には5mm以上の炭化物粒が含まれていたが遺物は確認できなかった。T6においてこの土坑以外に遺構・遺物は確認できなかった。

遺物については、T2において、柱穴状ピット埋土上面から須恵器片が、T3において、トレーニング東端部付近の第Ⅱ層下層から純文土器が出土した。出土した土器に結びつく遺構は今回確認できなかった。

埋蔵文化財センターの調査と今回の試掘調査から判断すると住居跡等が検出されなかつたことから遺跡中心部から離れた場所ではないかと思われる。(平成16年度本発掘調査予定)



第50図 杉の堂遺跡位置図



第51図 杉の堂遺跡調査区位置図

## 2-(1) 一般国道46号線盛岡西バイパス改築工事

熊堂B遺跡 (L E 16-2118)

所在地：盛岡市本宮地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成15年11月12日

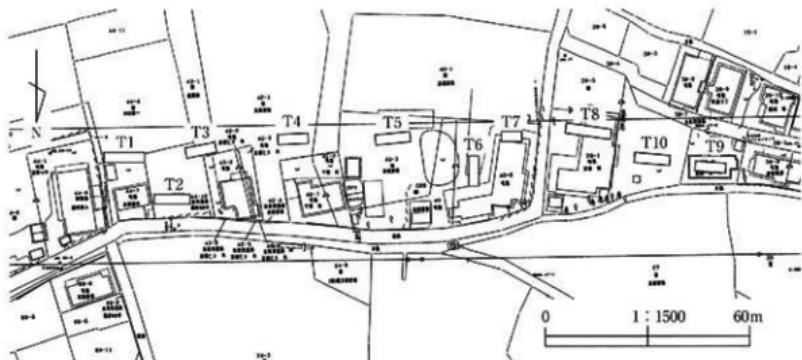
遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北新幹線盛岡駅より南西約2kmに位置する。北上川右岸の河岸段丘上に立地し、標高は124m前後を測る。本遺跡は今年度、財岩手県埋蔵文化財センターが調査を行っている。奈良・平安時代の住居跡、土坑、柱穴、溝跡などが多数検出され、土師器、須恵器、陶磁器類、石器、鐵製品なども多く出土している。調査対象区は遺跡のはば中央にあたり、現況は住宅地である。今回の調査は、国道46号西バイパス建設にかかり、住居移転等により試掘調査可能となったことによりおこなったものである。調査区範囲にトレンチ10本を設定した (T 1～T 10)。

調査の結果、住居跡4棟、柱穴1基、柱穴列(6基)、焼土状構造1基を確認し、土師器数点が出土した。T 1 東端から5m、深さ30cm第Ⅲ層上面で径450cmの隅丸方形住居跡1棟を確認した。T 2 西端から4m、深さ35cmの地点において30cm大の柱穴を確認した。この周囲には第Ⅰ層が無いことから、おそらく住居跡は削平されてしまったと考えた。T 3 東端から7m、深さ40cmの地点で住居跡を確認した。トレンチを広げなかったため土坑の可能性ある。T 5 では、東端から10mで焼土、T 6 では時期不明であるが径35cm大の柱穴列6基を深さ40cmで確認した。T 7 北端、深さ20cmの地点で、住居跡2棟を確認した。

今年度、財岩手県埋蔵文化財センターの調査において、埋土下層から焼土が確認されていることから、T 4 で深堀をした。その結果、旧河道が確認された。調査対象区は周囲の発掘調査などから平安時代の集落の一部である可能性が高い。(平成16年度本発掘調査予定)



第52図 熊堂B遺跡位置図



第53図 熊堂B遺跡調査区位置図

2-(2) 一般国道46号線盛岡西バイパス改築工事

熊堂B遺跡 (L E 16-2118)

所在地：盛岡市本宮字熊堂地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成15年9月3日

遺跡はJR東北本線盛岡駅のほぼ南約2kmの平石川右岸の河岸段丘上に立地している。現況は造成中の土地、宅地等となっている。周囲は財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、盛岡市教育委員会によって十数次の発掘調査が実施されている地区である。

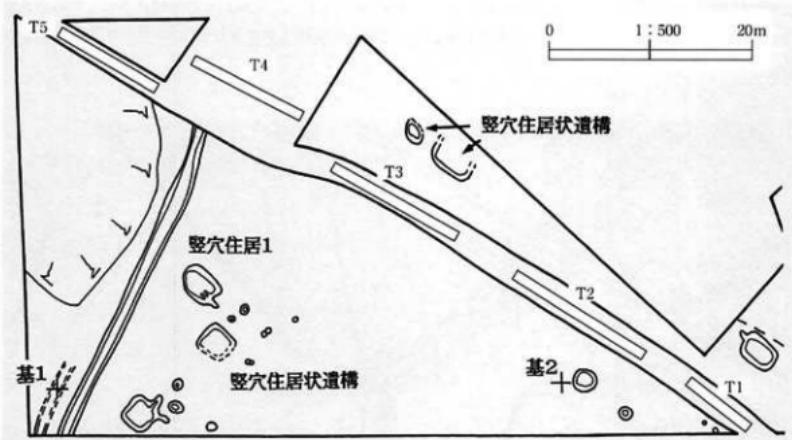
今回、バイパス建設に伴う発掘調査で、宅地移転等の理由で調査未了となつた箇所の試掘調査を実施した。

そのため、理蔵文化財センター発掘調査区に挟まれた生活道路敷・宅地跡の不定形な試掘対象区となった。試掘トレンチは5本設定した。

T1～T3では遺構、遺物は発見されなかった。T4ではトレンチ西端で黒褐色土が埋土となる幅1.1m、深さ0.2m以上の溝が発見された。埋土上部からは土師器片が1点出土した。T5東端では、T4と同様の溝が発見され、それより西側では黒褐色土の落ち込みが検出され、内黒土器壊、須恵器壺破片等、比較的多くの遺物が出土した。深さは0.3m以上あった。なお、T4の溝は埋蔵文化財センター発掘調査で見つかっていた溝2の延長である可能性が高い。(平成15年度本発掘調査)



第54図 熊堂B遺跡位置図



第55図 熊堂B遺跡調査区位置図

### 3 一般国道46号盛岡西バイパス改築工事

台太郎遺跡 (L E 16-2269)

所在地：盛岡市向中野地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査日：平成15年6月18日

遺跡は、東日本旅客鉄道株式会社東北新幹線盛岡駅より南西約2kmに位置する。北上川右岸の河岸段丘上に立地し、標高は120m前後を測る。本遺跡は平成9年度より財岩手県埋蔵文化財センターと盛岡市教育委員会が調査を行っている。平成9年から平成15年の財岩手県埋蔵文化財センターの発掘調査結果をまとめると縄文時代の竪穴住居跡2棟、古代の竪穴住居跡220棟、中世の竪穴住居跡4棟、掘立柱建物27棟、竪穴状造構31棟、土坑753基、堀跡5条、溝跡207条、焼土42基、円形周溝8基、井戸跡14基、畠間状造構2箇所、柱穴状土坑多数等と数多くの遺構確認されている。

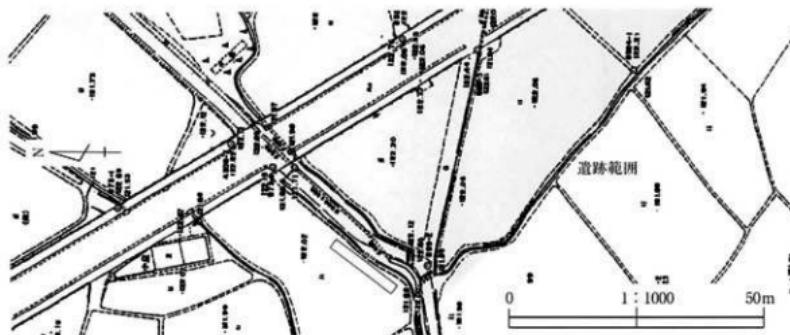
調査対象区は遺跡の西端部にあたる。現況は、付近で行われている工事等の廃土置き場となっている。今回の調査は、遺跡範囲拡大とともに国道46号西バイパス建設用地に要調査区域が生じたことによりおこなったものである。調査区範囲にトレーンチ1本を設定した。

トレーンチ西端から約5m地点、表土から0.75mの深さから溝1が確認された。溝の埋土は黒褐色土で埋土上部で土師器が出上した。幅0.6m以上、長さ6m以上、深さ0.3m以上で調査区北東側に延びていた。また、同じく西端から約6m地点で、表土から0.85mの深さで溝2が確認された。幅0.4m以上、長さ8m以上で調査区北東方面に延びていた。

地形が連続している財岩手県埋蔵文化財センターの調査区で奈良・平安時代の溝が確認されていることから、今回の試掘で確認された溝1・2はこの溝と同一である可能性も考えられる。(平成16年度本発掘調査予定)



第56図 台太郎遺跡位置図



第57図 台太郎遺跡調査区位置図

#### 4 一般国道4号道路改築事業関連調査

高木中館遺跡 (ME36-0218)

所在地：花巻市高木第22地割地内他

事業者：国土交通省岩手河川国道事務所

調査期日：平成15年7月4日～7日

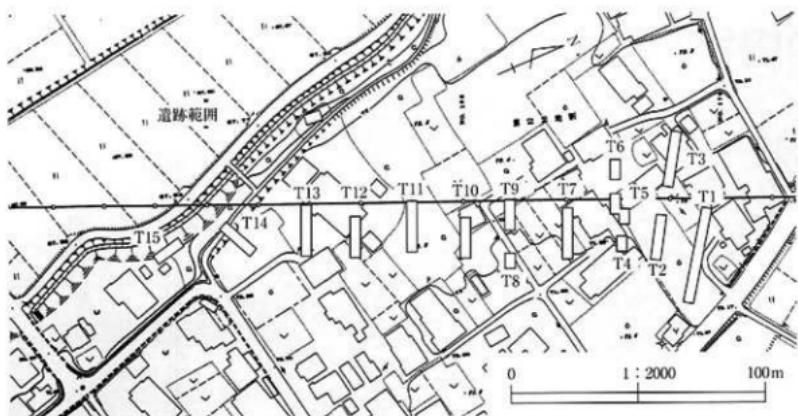
遺跡は、花巻市役所より南東方向約3kmにあり、北上川左岸の河岸段丘縁辺部付近に立地している。遺跡の現況は、宅地、畑地、水田となっている。今回の調査は、一般国道4号花巻東バイパス工事改築工事に伴うもので、住宅基礎、耕作中の畑地等雑物を避けながら、調査対象区域に15本のトレンチを設定した (T1～T15)。

精査の結果、柱穴がT1で3基、T2で2基、T3・T4でそれぞれ1基ずつ、T8・T9でそれぞれ1基ずつ検出され、これらの柱穴状ピットは径20～40cm大で、現表土から約70cm～90cm下の暗褐色土層で検出された。T12では、径30cmの規模を持つ柱穴5基が検出され、なかには埋土に縄文時代晩期の土器片が含まれているものもあった。T13では、現表土から40cm下で、径20cm～40cm大の柱穴が10基検出されている。今回の試掘調査において、柱穴は計24基検出された。柱穴以外の遺構として、T13において径90cm大の規模をもつ土坑1基、T11においては、現表土下約70cmで、幅30cmの溝1条が、T3においては180cm×40cmの規模で、長梢円形のプランを呈する陥し穴状遺構1基が、検出された。調査区内の畑地からは、土師器片1点が表採され、今回の試掘調査では、古代の遺構等は確認できなかったが、調査範囲内に所在している可能性が高いと思われた。

本遺跡名が「高木中館」であり、近接して高木古館等が所在していることから、城館に関連する堀跡等の遺構の有無を確認する目的で、T14及びT15を設定したが、城館跡に結びつくような遺構及び遺物は今回の調査で、確認できなかった。(平成15・16年度本発掘調査予定)



第58図 高木中館遺跡位置図



第59図 高木中館遺跡調査区位置図

## 5 一般国道4号道路改築事業関連調査

長根Ⅰ遺跡 (ME36-1213)

所在地：花巻市東十二丁目地内

事業者：国土交通省岩手河川国道事務所

調査期日：平成15年7月14日

遺跡は、花巻市役所より南南東約3kmに位置し、南流する北上川東岸の氾濫原上にある微高地に立地しており、現況は主に畑地及び宅地となっている。今回の調査は、一般国道4号花巻東バイパス工事改築工事に伴うものである。本遺跡に北接して長根Ⅱ遺跡が、さらに北側には長根Ⅲ遺跡が所在している。

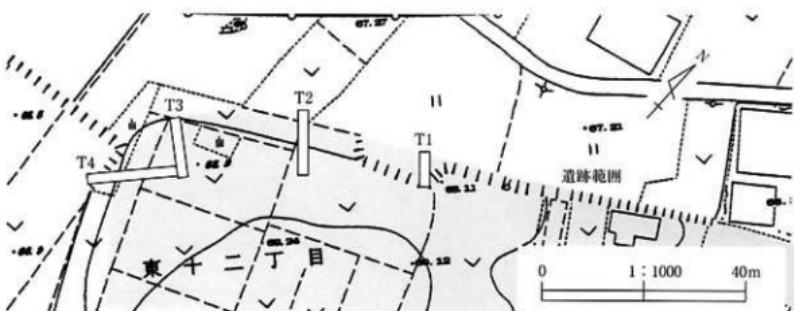
微高地縁辺部斜面から旧田面にかけてT1を設定した。

縁辺部斜面下の旧田面部分では、水田造成のためか、盛土が施されていた。盛土下は、旧河道と思われる円礫を大量に含む暗褐色砂礫層が確認された。T1に並行するように、微高地縁辺部から旧田面部分にかけてT2を設定した。北上川の氾濫によるものと思われる洪水堆積層が厚く認められた。T3及びT4は、それぞれ緩やかな北・東斜面に設定した。T3において、第Ⅱ層上面で、柱穴状ピットが4基検出された。柱穴状ピットは径30~40cmの規模であり、ほぼ円形を示していた。その埋土は暗褐色であった。T4においても、第Ⅱ層上面で、柱穴状ピット15基が検出された。これらの柱穴状ピットの規模は径20~30cm大で、その形状は、ほぼ円形であった。確認のために、15基のうちの1基を半裁した。埋土は暗褐色で、その深さは30cmであったが、遺物は確認できなかった。この第Ⅱ層上面が検出面である。T4の中央部付近から東端部にかけて遺構は、確認できなかった。このトレーンチ東端部は、一段低い田面であったが、表土下約130cmで旧河道と思われる円礫を大量に含む砂礫層が確認できた。

今回の試掘調査では、遺物は確認できなかったが、調査対象区外の現畑地から、土師器片、近世陶磁器片が表揚されたが、遺構に結びつくような遺物が確認できなかったため遺構の構築時期は不明である。(平成15年度本発掘調査)



第60図 長根Ⅰ遺跡位置図



第61図 長根Ⅰ遺跡調査区位置図

## 6 一関遊水地事業衣川左岸築堤工事

接待館遺跡 (N E 65-2343)

所在地：胆沢郡衣川村大字下衣川字七日市場地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

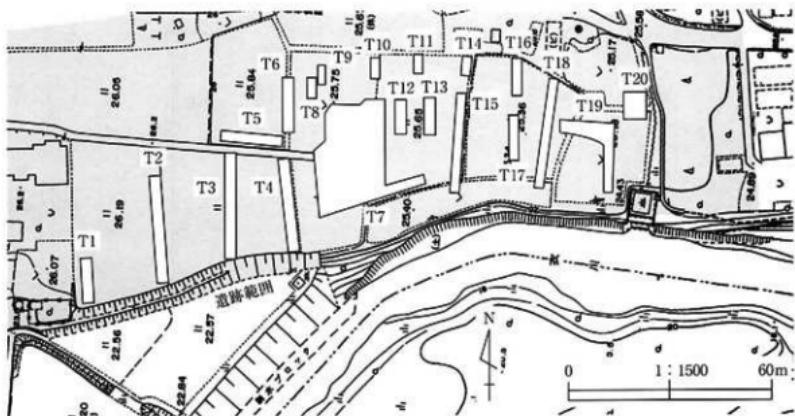
調査期日：平成15年11月27日(木)～12月3日(水)

本遺跡は、衣川村役場の南東約4.4kmに位置し、衣川現河水面との比高約10mの沖積地端部に立地する。今回の調査は、一関遊水地事業衣川左岸築堤工事に係るものであり、築堤予定箇所に20本の試掘トレンチを設定した(T1～20)。

遺跡西側に設定したT1～6では、明確な遺構は検出されなかったが、一部のトレンチから土師器片が出土した。T2ではII層中から灰白色火山灰屑を確認した。遺跡中央部に設定したT7では、柱穴状の土坑が数多く検出されたことから溝状のトレンチを拡大し面的な調査を行った。その結果、土坑2基・柱穴状土坑159基・溝跡2条等を検出した。柱穴状土坑は径20～50cmとややばらつきがあったが、少なくとも掘立柱建物跡4棟を構成するものと考えられ、埋土中にはかわらけ片や陶磁器片が含まれるものがあった。かわらけや陶磁器の年代から、12世紀後半から中世前期の遺構と推測される。掘立柱建物跡とは別に柱列4条が検出されており、幅4mの大きな溝跡と共に中世城館跡に伴う遺構と推測される。掘立柱建物跡の北側からは、角釘が入れられたかわらけを埋土に含む土坑が検出された。地鎮等の祭祀儀礼に関係する遺構と推測される。T10・11では、東西方向の溝跡1条、T16・18では同じく東西方向の並行する溝跡2条を検出した。溝跡はそれぞれ関連する遺構と考えられるが遺構の時期は不明である。T15南側でも幅4m前後の溝跡を検出しており、規模・方向からみてT7で検出された溝跡と連続する遺構と考えられる。遺跡東側に設定したT20では南東～北西方向の埋没した沢跡を検出したが、中世城館跡に伴う堀跡の可能性も考えられる。(平成16年度本発掘調査予定)



第62図 接待館遺跡位置図



## 7 一関遊水地事業関連調査

押切遺跡 (N E 65-2359)

所在地：胆沢郡衣川村大字下衣川地内

事業者：国土交通省岩手河川国道事務所

調査期日：平成15年12月2日

遺跡は、衣川村役場の南東約4.8kmに位置している。遺跡の現況は、主に水田、畑地となっており、衣川の氾濫原である。標高は約21~22m前後を測る。本遺跡の対岸に位置する中尊寺跡遺跡は、平泉町教育委員会により発掘調査が実施されている。平成14年度第65次調査では、縄文時代の階し穴群と近世の護岸・橋脚工事跡が検出されており、対岸から本遺跡まで連続している可能性が高いとされている。

今回の試掘調査は、一関遊水地事業による衣川左岸築堤工事に伴うもので、築堤設置予定箇所が対象である。工事予定区域に6本のトレンチを設定した (T1~T6)。

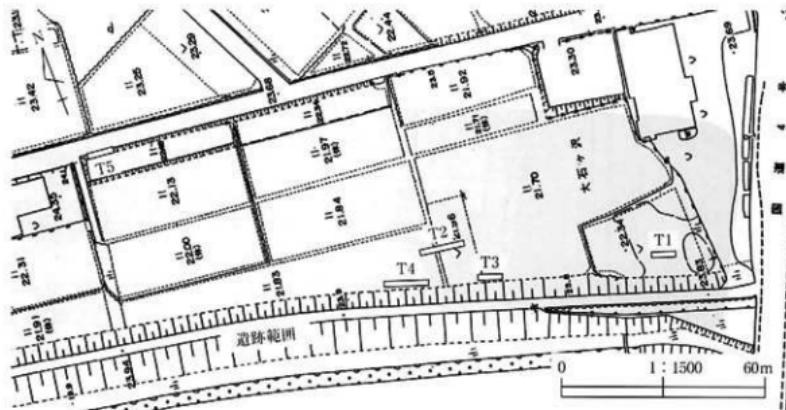
遺跡内において、比較的標高の高い畑地にT1を設定した。精査の結果、第I層である黄褐色砂層（洪水堆積層）の下面で、大量の炭化物、焼土が検出され、掘り下げたところ、羽口及び鉄滓が出土したことから、鍛冶関連遺構であると判断した。

平成14年度の平泉町教委による発掘調査から、検出された橋脚が連続するであろう対岸部分から北方向に伸びていると思われる道路状遺構の所在を確認するためにT2、護岸状遺構の有無を確認するためにT3及びT4を設定し、また遺構の広がりを確認するために、遺跡の北側部分の水田にT5及びT6を設定したが、いずれのトレンチにおいても、水田耕作土、水田床土、灰色砂層、暗褐色粘土質シルトとなっており、洪水による堆積作用は見られたものの、遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、護岸状遺構は、現在の堤体下位に所在するものと思われた。(平成16年度本発掘調査予定)



第64図 押切遺跡位置図



第65図 押切遺跡調査区位置図

## 8 一関遊水地事業関連調査

六日市場遺跡（N E65-2346）

所在地：胆沢郡衣川村大字下衣川地内

事業者：国土交通省岩手河川国道事務所

調査期日：平成15年12月1日

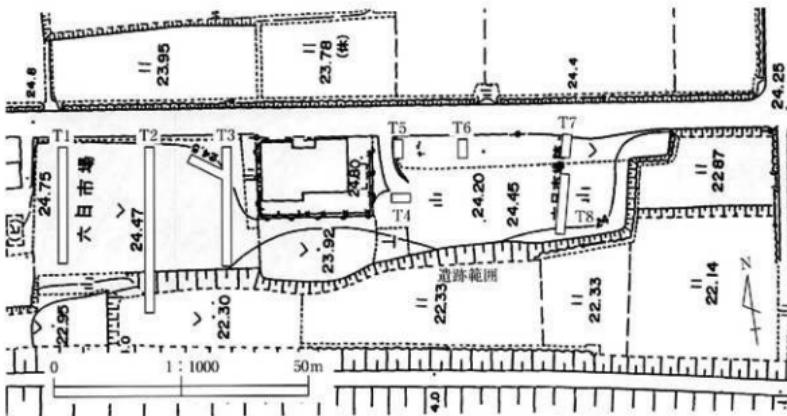
遺跡は、衣川村役場の南東約4.5kmに位置し、衣川によって形成された河岸段丘低位面の縁に立地している。本遺跡は、過去2回にわたり分布調査が実施されている。昭和62年度に衣川村教育委員会が、平成13年度に岩手県立博物館がそれぞれ実施しているが、遺物は確認されておらず、詳細は不明であった。今回の調査は、一関遊水地事業に伴う衣川左岸築堤工事に係るものであり、築堤設置予定箇所に8つのトレンチを設定した（T1～T8）。宅地の西側にある畑地にT1～T3を設定した。

精査の結果、T2及びT3において、上幅約220cm、深さ約200cmの堀が検出され、その方向及び上幅の規模から、連続しているものと思われた。検出された堀の一部を掘り下げたところ、断面形は薬研掘状であった。T2で検出された堀埋土上面には、かわらけ片数点が含まれており、T3では、径40cmの大柱穴が堀に近接して1基検出され、堀に伴う何らかの施設に関係した構造ではないかと思われた。また、T2では、70cm×65cmのほぼ円形の土坑が1基検出された。T1においては、柱穴状ピットが6基検出された。宅地を挟んで東側にある畑地及び水田にT4～T8を設定した。この場所は、かつて低かった水田に盛土を施し田面の標高を上げた場所である。遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、今回の試掘調査で検出された堀は、調査未了区に連続して所在している可能性が高く、その形態等から城館跡等に伴うものと推測された。今回の試掘調査堀が検出されたことから、市場跡とされた本遺跡の性格及び遺跡範囲等について、見直しが必要であると思われた。（平成17年度本発掘調査予定）



第66図 六日市場遺跡位置図



第67図 六日市場遺跡調査区位置図

## 9 農用地総合整備事業 下閉伊地域関連調査

寺野遺跡（K F59-2224）

所在地：下閉伊郡岩泉町二升石寺野地内

事業者：緑資源公團東北支社下閉伊北事業所

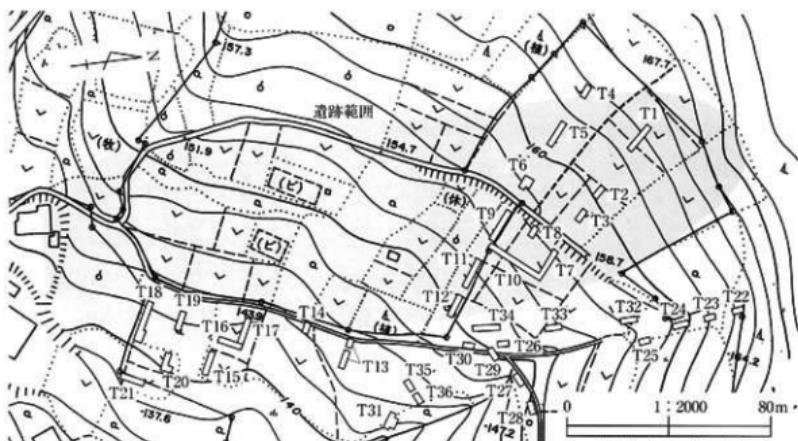
調査期日：平成15年4月23日～24日

平成16年3月8日～9日

遺跡は、JR東日本鉄道旅客鉄道株式会社岩泉二升石駅の北東約1.3kmに位置し、小本川付近まで延びる尾根に隣接した南面する斜面に立地しており、現況は主に畠地となっている。今回の調査は、農用地整備事業に伴うもので、事業対象区域にトレンチを37本設定した（T1～T36）。今回の調査区において、比較的標高の高い畠地に、T1～T6を設定した。T1において、縦穴住居跡2棟が検出されたが、遺物は確認できなかった。T6では、表土直下に土器をわずかに含む黒色土層があり、その下層から、約3×3mの規模をもつ縦穴住居跡が1棟検出され、その埋土には縄文土器が含まれていた。標高140～143mの畠地に、T15～T17を設定した。T15においては、40×40cmの焼土を伴う住居跡が確認され、土器も出土している。T17では、明確なプランは確認できなかったものの、住居跡に伴うと推測した焼土及び縄文土器の遺物包含層が確認されている。T18においては、埋土に縄文時代の土器を含む径310cmの円形プランを呈する縦穴住居跡1棟が、T32においては、埋土に多量の炭化物と縄文時代の土器を含む住居跡1棟が確認された。以上のことから、今回の調査で、遺物を伴わない住居跡が確認された検出面と縄文土器を伴う住居跡が確認された検出面があり、少なくとも検出面は2面あると思われる。また、住居跡が複数検出されたことから、本遺跡は、縄文時代及び他の時代に集落が営まれた場所であったことが判明した。



第68図 寺野遺跡位置図



第69図 寺野遺跡調査区位置図

## 10 農用地総合整備事業 下閉伊地域関連調査

寺沢北遺跡 (K F 59-2281)

所在地：下閉伊郡岩泉町二升石字大根地内

事業者：緑資源公團東北支社下閉伊北事業所

調査日：平成15年12月15日～17日

遺跡は、JR東日本鉄道旅客鉄道株式会社岩泉二升石駅の北北西約1.0kmに位置し、東に向かって山地から延びている尾根上に位置している。遺跡の標高は約130～160mであり、現況は主に畠地となっている。今回の調査は、農用地総合整備事業に伴うもので、農道設置予定箇所及び排水路設置予定箇所を対象とし、現在工作中の畠地、植木等を避けながら、遺跡範囲内及び隣接地に3本のトレーンチを設定した(T1～T3)。緩やかに張り出した尾根上にT1及びT2を設定した。T1においては、遺構及び遺物は確認できなかったが、T2において、表土から約60cm下で、竪穴住居跡1棟が検出され、その炉跡と推定される箇所に径約50cm大の範囲で焼土が確認された。検出された竪穴住居跡周辺からは、遺物は確認できなかった。隣接地ではあるが、T1及びT2を設定した箇所に連続する尾根上にT3を設定した。T3において、表土から60cm下で一辺が230cm以上の規模を持つ竪穴住居跡が1棟検出されたほか、径45cm大の円形土坑1基が検出された。T3においても、遺構に伴う遺物は確認できなかったが、近接する畠地において、縄文時代の土器が多数表採されたことと、今回検出された遺構の埋土の状況及びプラン等から、今回検出された遺構も縄文時代のものであると推測した。

T1～T3を設定した畠地から、標高約132mの現道までつながるように新設農道が計画され、それに伴う排水路設置も予定されているが、斜面があまりに急峻であったために遺構は所在していないと判断し、重機の掘削による調査は実施しなかった。



第70図 寺沢北遺跡位置図



第71図 寺沢北遺跡調査区位置図

## 11 農用地総合整備事業 下閉伊地域関連調査

二升石遺跡 (K F59-2224)

所在地：下閉伊郡岩泉町二升石寺野地内

事業者：緑資源公團東北支社下閉伊北事業所

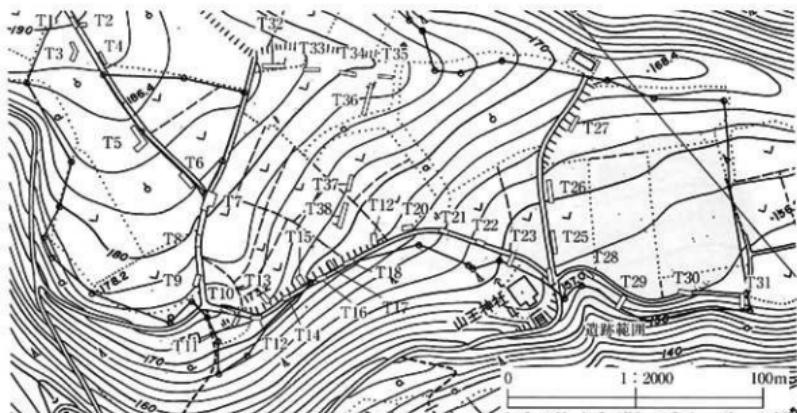
調査期日：平成15年11月6日～7日

遺跡は、岩泉町役場の西方向約5kmに位置し、東流する小本川に向かって延びる尾根の先端部に立地している。遺跡の標高は、約186～156mを測り、遺跡内において約30mほどの比高がある。遺跡の現況は、おもに畑地、果樹園、草地となっている。今回の調査は、農用地総合整備事業に伴うもので、切土予定の畑地、新設及び拡幅予定の農道設置箇所を対象とし、調査対象区に38本の試掘トレンチを設定した (T1～T38)。

T1～T6は、遺跡内において標高の高い尾根沿いに計画されている農道新設箇所に設定した。これらのトレンチにおける層序は、表土、褐色土の地山が露出しており、畑地造成あるいは草地造成時に旧地形が改変されたと推測した。標高180m付近に設定したT7においては、陥落穴状構造1基が検出された。この陥落穴状構造は、長軸約1m、短軸0.5mの長楕円形プランを示し、その埋土は黒褐色土であった。この構造は、表土下約75cm下で検出された。T7における層序は、表土、暗褐色土、褐色土（地山）の順であり、検出面は第Ⅱ層の暗褐色土層であった。山王神社付近から尾根に向かって計画されている農道設置箇所にT24～T27を設定した。T25及びT26から、竪穴住居跡が少なくとも2棟以上検出された。T25では、竪穴住居跡が重複して検出され、径60cmの範囲で焼土も検出されている。住居跡が検出された箇所は、勾配が比較的緩やかな南向きの斜面であり、T26においても重複して竪穴住居跡が検出されていることから、本遺跡における集落が営まれた中心部であると推測した。現在草地となっている標高178m付近に設定したT36では、時期不明であるが径80cmの円形土坑1基が検出された。



第72図 二升石遺跡位置図



第73図 二升石遺跡調査区位置図

## 12 農用地総合整備事業下閉伊地<sup>14</sup>

二升石大根遺跡 (K F59-2262)

所在地：下閉伊郡岩泉町尼額字長畑地内

事業者：緑資源公園東北支社下閉伊建設事業所

調査期日：平成15年11月6日～7日（2日間）

遺跡は岩泉町役場から西へ約3.5kmに位置し、二升石小学校周辺の丘陵地に立地している。

今回の試掘調査対象区の現況は主として畠地で、標高は150m前後である。事業予定範囲のうち、切り土予定地、道路、水路予定地を中心に試掘トレンチを計30箇所設定した。

調査の結果、次の箇所で遺構、遺物が発見された。T4、T5、T11では、火山灰に類似した灰白色粉土状を埋土とする畠間状遺構が発見された。T12においても同様の埋土の遺構が発見され、方形を呈していた。T16では直径0.3m程の柱穴状ピットが2基発見され。擦石、剥片石器が出土した。T17では竪穴住居跡と推定される遺構1基があり、木目状撲糸文土器片が出土した。T18においても縄文土器が出土した。T21、T22、T25では縄文土器を含む遺物包含層が発見された。T28、T29、T30においても畠間状遺構が4条あり、等高線に直行する方向で発見された。埋土はT4よりも若干黒味かかっていた。



第74図 二升石大根遺跡位置図



第75図 二升石大根遺跡調査区位置図

### 13 農用地総合整備事業下閉伊北地域

尼額上野遺跡 (K G50-2071)

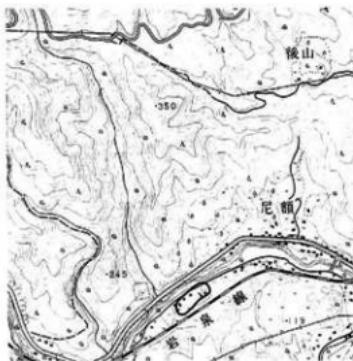
所在地：下閉伊郡岩泉町尼額内地

事業者：緑資源公團東北支社下閉伊北建設事業所

調査期日：平成15年11月10日

遺跡は、岩泉町役場より南西約2.4kmに位置する。小本川に形成された河岸段丘上に位置し、標高は約100m前後を測る。調査区の現況は、畑地及び水田である。今回の調査は、は場整備によるもので、田面掘削箇所、水路敷設箇所、道路予定箇所に15本のトレンチを設定した(T 1 ~ T 15)。

調査対象区は小本川に向かってJR岩泉線を挟んで緩やかに傾斜している。調査区は東側が畑地、西側が水田となっている。水田部分は一度は場整備されている。そのため道構及び遺物の存在する可能性が高い畑地側から調査した。調査の結果、T 2 で土坑1基、T 5 で遺物包含層を確認した。T 2 で確認された土坑は表土直下30cm、直径約70cm、埋土は薄い暗褐色で褐鉄鉱(タカシコゾウ)が混入していた。T 2 周囲の基本層序は第Ⅰ層の耕作土直下第Ⅳ層である。同じような層序はT 2、T 3、T 6、T 8 でも確認できた。T 5 では、基本層序第Ⅲ層から繩文土器が数点出土した。この土層はT 1、T 4、T 7 と今回の調査区上部で確認できた。おそらく、洪水などで遺物などとともに、線路を抉んだ南側から流されて包含層となったと考えた。また、トレンチを広げ周囲を確認した際、他の場所の第Ⅲ層に比べ幾分黄褐色粘土質シルトが幾分色あせていた点、第Ⅲ層が第Ⅴ層と同じ高さにあった点、沢跡らしい黒土があった点などから、沢に土器を含んだ第Ⅲ層が流れ込んで包含層が形成されたと考えられる。T 2 と同じように埋土に褐鉄鉱が混入していた。調査区西側では、水田掘削箇所にT 9、T 10、道路予定箇所にT 11、T 12、T 13を設定し調査したが道構及び遺物は確認されなかった。水路敷設箇所のT 14 では約100cmで第Ⅳ層が確認された。道構及び遺物は確認できなかった。同じくT 15 では地表下約200cmで第Ⅱ層を確認したが安全面を考慮して掘り下げを終了した。水田部分はは場整備のため改変されていることが分かった。



第76図 尼額上野遺跡位置図



第77図 尼額上野遺跡調査区位置図

#### 14 主要地方道盛岡和賀線花巻市笠間地区

金栗 I 遺跡 (ME 44-1350)

所在地：花巻市南笠間地内

事業者：花巻地方振興局土木部

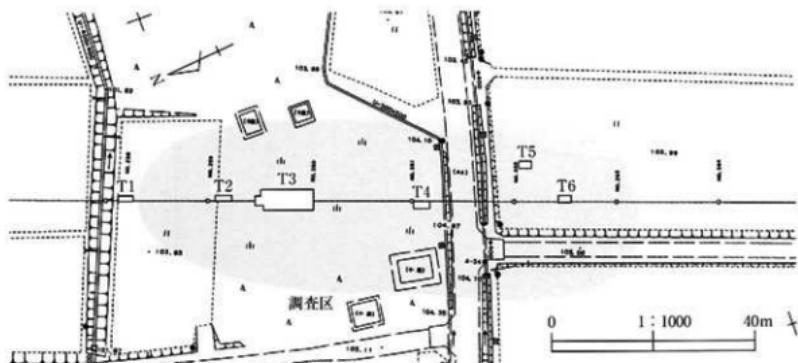
調査期日：平成15年12月17日

遺跡は、JR東北本線花巻駅の南西約7.5kmに位置し、豊沢川右岸の河岸段丘段上に立地し、標高は104m前後を測る。現況は、主に水田、畑地となっている。古代の遺跡として周知されており、分布調査では、土師器、須恵器が出土している。今回の調査は、道路改築工事に伴うもので、道路新設部分が対象である。調査対象区は現在水田として利用されている場所と宅地として利用されていた場所に分けられる。調査対象区に6つのトレンチを設定した (T1～T6)。

調査の結果、T2で大量の炭、T3で土坑1基、柱穴6基、T4で土坑1基を確認した。いずれも、時期を判断する遺物を伴わなかったため時期は不明である。T2は、水田と宅地跡を結ぶ斜面に設定した。T1では、耕作土直下地山であったが、T2では表土直下から炭化物層が確認された。掘りこみ面に焼土を確認できたことから炭窯跡の可能性が考えられる。T3は、宅地跡ほぼ中央に設定した。この場所は、周囲の地形から見て微高地を呈しており、遺構・遺物の所在する可能性が高いと考えた。深さ30cmの地山面で20×20cm大の柱穴を確認した。さらにトレンチを広げたところ、同じような大きさの柱穴を新たに5基確認した。また、同時に大きさ90×90cmの土坑も確認した。埋土は黒色土であった。周囲に黒色土が見られないことから、時期は不明だが宅地造成時に削平を受けていると推測される。T4は、T3での遺構の広がりを確認するために設定した。深さ30cmの地山面において、40×40cm大の土坑を確認した。平面プランはT3の土坑に比べ明確ではなかった。道路を挟んで設定したT5、6の水田部分は、一度は場整備が行われ、宅地跡に比べ約50cm下がっている箇所であった。調査の結果、いずれのトレンチも耕作土直下地山であった。このことから、水田部分は旧地形が大きく改められていると判断した。(平成16年度本発掘調査予定)



第78図 金栗 I 遺跡位置図



第79図 金栗 I 遺跡調査区位置図

## 15 県道一関北上線改築事業

中島遺跡 (ME 86-8847)

所在地：江刺市福瀬字中島地内

事業者：水沢地方振興局土木部

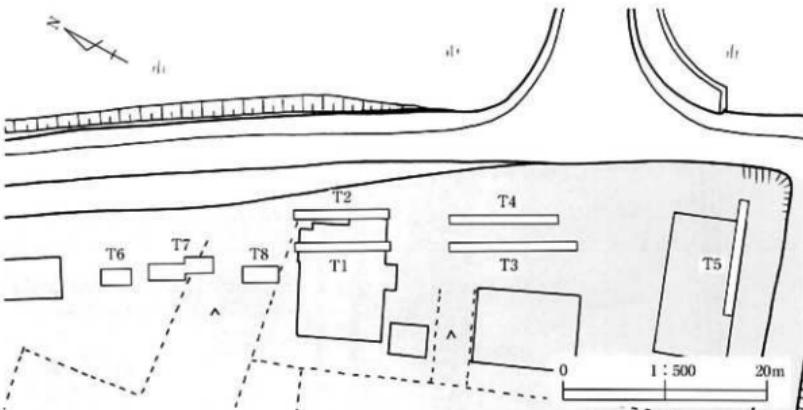
調査期日：平成15年7月15日(火)・10月14日(火)

中島遺跡はJR東日本旅客鉄道磐越西線駅の南西約3.1km、胆沢城跡政府跡北4kmに位置し、北上川左岸の沖積地微高地に立地する。遺跡の標高は48m前後を測り、現況は宅地と畑地になっている。今回の調査は、県道一関北上線の改築事業に伴う道路拡幅工事によるもので、対象箇所に試掘トレンチを8本設定した(T1～T8)。T1では土坑1基、柱穴1基、溝跡1条を検出した。土坑は径110cmの円形を呈し、柱穴は径40cm程であった。溝跡は南北方向のもので幅60cm前後であった。T2では、

2層中から剥片石器が出土したが、T1の溝跡の継ぎは検出されなかった。T4では土坑1基と溝跡1条を検出した。土坑は梢円形を呈し、長軸150cm、短軸100cm程度であった。埋土から土坑墓の可能性が考えられる。溝跡は南北方向で幅3m以上であった。宅地跡に設定したT5では、盛土整地層の下層は、削平を受けた3層ないし4層上面となっていた。明確な造構は検出されなかったが、4層中から縄文土器が出土した。4層下層に縄文時代の包含層が存在している可能性が考えられたので、深堀を行ったが最終的に砂礫層となり、包含層は確認されなかった。T7からは径50cm～120cmの土坑が4基検出され、井戸跡と思われる造構から径30cm～50cm級の疊が多数確認された。検出された造構については、造構周辺や造構埋土から遺物が出土しなかったことから、時期は不明である。瀬谷子窯等が隣接することから、平安時代の造構の可能性が推測される。また、縄文時代の土器・石器等が出土していることから、4層～5層中に縄文時代の包含層が存在する可能性が考えられる。(平成16年度本発掘調査予定)



第80図 中島遺跡位置図



第81図 中島遺跡調査区位置図

## 16 緊急地方道路整備事業

松山前遺跡（NF 68-2270）

所在地：陸前高田市小友地内

事業者：大船渡地方振興局土木部

調査期日：平成15年7月30日

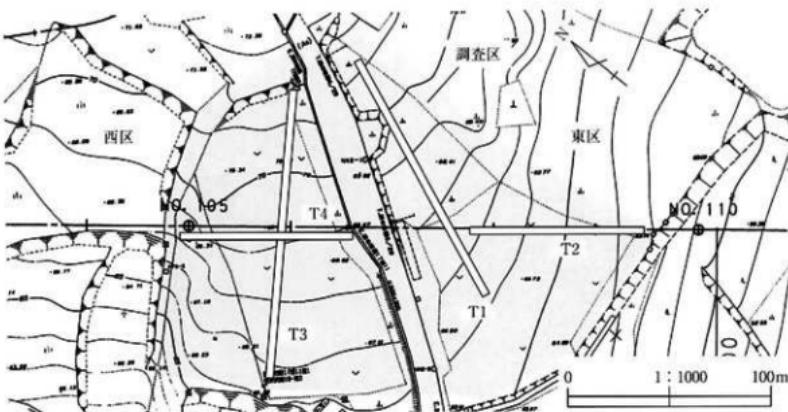
本遺跡はJR大船渡線小友駅の北西約2km、両替漁港の東北東約800mに位置し、遺跡北方の箱根山から連続する山麓地の尾根上緩斜面に立地する。調査区はこれまで主に畑地として利用されており、全域で耕作による擾乱を受けている。尾根頂部を南北に縱断する市道により調査区は東区・西区に分けられる。今回の調査では、両区それぞれに縦横に走るトレンチを設定し、遺構・遺物の遺存状況及び分布状況の確認を行った。

東区は南側に下る緩やかな斜面で、T1・2の2本を設定した。調査の結果、別図の通り住居状遺構2棟・土坑5基・円形周溝2基・柱穴状ピット数基の分布が確認

された。このうちT1中央付近の土坑は覆土に多量の焼土及び炭化物を含み、土師器壺の大型破片を出土した。覆土の主体土は黒褐色シテ（第Ⅱ層相当）で、住居状・他の土坑・柱穴状ピットも同様の覆土を持つことから、これらも同様の時期に帰属する可能性が高い。ただし円形周溝としたものは覆土が第Ⅰ層類似の暗褐色シテであることから遺構とはならない可能性がある。以上のように東区では標高64～68m付近に密な遺構分布が認められた。西区にはT3・T4を設定した。T3は西区中央を縱断する方向に設定したものであるが、表土直下に角礫混じりの黄褐色粘土層（第Ⅳ層・地山）が露出し著しい湧水が見られた。これは、地形図上の等高線の変化から看取されるように、トレンチが丁度沢跡を縱断するよう位置するためであると判断される。T4と直交するT3では沢跡と重複する中央付近が最も低く、両端に向かって徐々に高くなり東区と同様の黄褐色粘土層が地山となっている。今回設定したT3・T4のいずれからも遺構等が検出されなかつたが、東区で遺構分布が確認された地形面は西区の一部へと連続しており、未調査区域に遺構等が分布する可能性は高いと考えられる。（平成16年度本発掘調査予定）



第82図 松山前遺跡位置図



第83図 松山前遺跡調査区位置図

## 17 緊急地方道路整備事業 沼袋地内

沼袋遺跡 (K G 21-0127)

所在地；下閉伊郡田野畠村沼袋地内

事業者；宮古地方振興局岩泉土木事務所

調査期日；平成15年11月5日

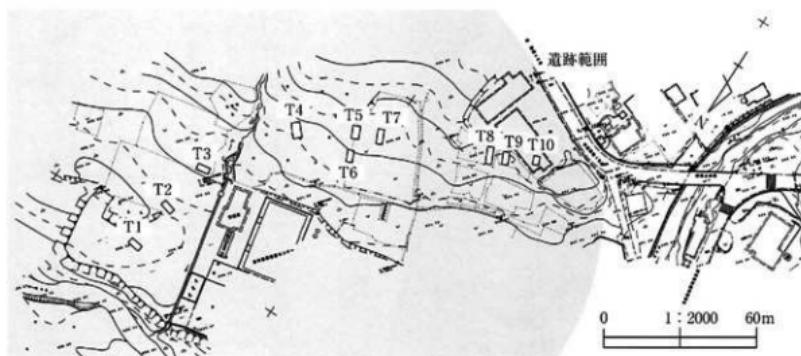
遺跡は、田野畠村役場より北西約5kmに位置し、普代川に形成された沖積地に立地している。標高は約230m前後を測り、現況は主に畑地となっている。今回の調査は、バイパス工事及び道路拡幅に伴うもので、調査対象地域に10本のトレンチを設定した (T1~T10)。

調査の結果、柱穴1基、土坑2基が確認され、縄文土器十数点が出土した。T6で確認された柱穴の大きさは40×40cmあった。確認された場所はT6南東端から250cm、検出面は深さ20cmの暗褐色砂質シルトである。T7はNo.12の杭から8m西に設定した、その道路センター杭付近で90×90cmの土坑1基を確認した。この周囲は耕作土である黒褐色をはがすと赤褐色土が堆積している。検出面はこの赤褐色土で、検出面までの深さ30cmであった。もう一基の土坑は現在畑となっているT9道路のセンター杭付近で確認された。大きさは100×100cmあった。検出面は基本層序第Ⅲ層にあたる暗褐色土である。この上層の黒褐色土(表土直下30cm)中からは縄文時代の土器が十数点出土している。

今回の調査で、遺構及び遺物はT6からT9の間でしか確認されていない。しかし、T4からT10の間は、歩くと土器が表採できることから、遺構がまだある可能性がある。また、現地の地形の判断や等高線から、沢を挟んだT1からT3側にも、広がる可能性がある。試掘で何も確認されなかつたが、トレンチを伸ばして再度確認する必要があると思われる。また、T10の周囲でも地形などから遺構及び遺物が発見される可能性が高い。(平成16年度本発掘調査予定)



第84図 沼袋遺跡位置図



第85図 沼袋遺跡調査区位置図

## 18 経営体育成基盤整備事業

先屋遺跡 (ME 16-1065)

所在地：花巻市西宮野目第8地割地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年12月12日

遺跡はJR東日本東北本線花巻駅から北へ約3kmに位置し、漸川左岸の段丘上に立地し、標高は83～84m程度である。現況は主として水田、宅地、墓地である。

この遺跡はこれまで数次の調査が実施され、次第にその内容が明らかになりつつある。つまり、現在ある屋敷を取り囲むようにコの字形に堀跡があり、それが西側では二重となる。一部では土塁も確認されている。また12～15世紀代の陶磁器、大型建物跡等が発掘されている。

今回、周知の埋蔵文化財包蔵地内で暗渠設置工事が行われることになり、設置箇所での遺構、遺物の有無を確認するため、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査の結果、T3で堀跡が1条、発見された。堀跡は農道の屈曲する角から13～17mの箇所で北西～南東方向で発見され、埋土は褐色シルトで未腐食の木片等を含んでいた。堀の西側は旧用水路等の搅乱、周囲の水田の水の流入により、範囲を確定できなかった。また、堀跡東側に幅2～3mの黄灰粘土が堀跡に沿うように分布しているのが発見され、花巻市教育委員会の発掘調査で発見されていた土塁底部の土と同一のものと判断した。したがって新農道の屈曲する角から21mの箇所まで遺構が存在することになる。

T10では土師器片が出土したが、以前のは場整備時に移動された土の中から出土したもので、流れ込みと考えられる。(工法協議予定)



第86図 先屋遺跡位置図



第87図 先屋遺跡調査区位置図

## 19 ほ場整備事業八重畠地区関連調査

大西遺跡（ME 06-2345）

所在地：神奈川県石巻市八重畠地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年11月13日～14日、平成15年11月27日

遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北本線花巻空港駅の東約2.2kmに位置し、北上川左岸の低位段丘上に立地している。遺跡の現況は、宅地、畑地、水田となっており、標高は81m前後を測る。

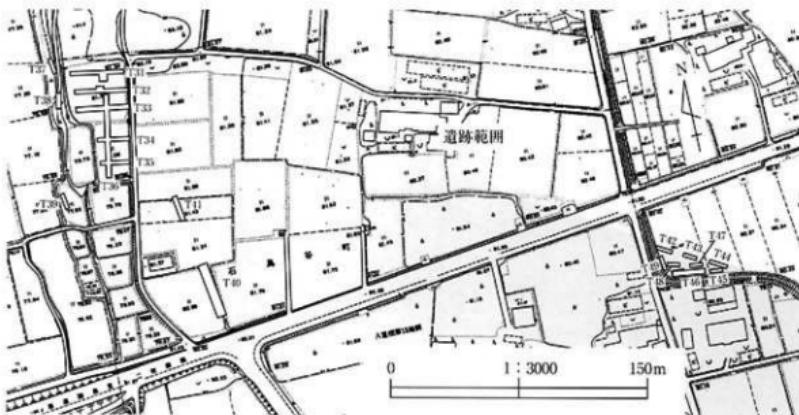
今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、昨年度調査未了となっていた箇所及びパイプライン埋設箇所・水路設置箇所が対象である。調査対象箇所に、19本のトレンチを設定した。（T31～T49；H14年度調査時のものに連続させてある。）

段丘縁の畑地に、T31～T36を設定した。T31～T32にかけて、幅約160cmの溝状遺構が検出されたが、時期及び性格は不明である。T32では、焼土及び炭化物を伴う土坑が1基検出され、その埋土上面には土師器片1点が含まれていた。この土師器片と同時期のものと思われる土師器片数点が、同トレンチ西側で出土しているが、いずれもかつての水田床土下で出土している。

この段丘縁の畑地は、もともと傾斜地で、畑地として利用されていたが、昭和30年代後半に開田されて水田として利用された後、再び畑地として利用されている場所であり、水田造成時に旧地形は改変を受けたと推測されたが、試掘結果から、T36を設定したあたりが周囲と比較して標高の高い部分で、南側には緩やかに傾斜し、西側の段丘縁に向かってはややきつい傾斜していた地形であったと思われた。住居跡等については、今回の試掘調査では確認できなかったが、畑地造成等により、残存状況はあまり良好ではないと思われるものの、地形等から所在している可能性が高いと推測した。（平成16年度本発掘調査予定）



第88図 大西遺跡位置図



第89図 大西遺跡調査区位置図

## 20 経営体育施設整備事業 八重畠地区

關口道路 (ME06-1368)

所在地：稗貫郡石鳥谷町閑口地内

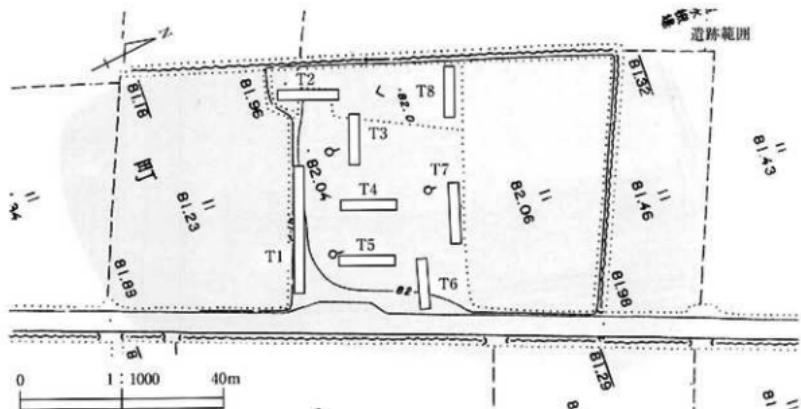
事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年11月26日

遺跡は石鳥谷町役場の南東約2.8kmに位置し、北上川右岸の低位段丘上に立地する。遺跡の標高は81m～82m前後を測り、現況は主に水田と果樹園になっている。今回の調査は、ほ場整備に伴うものであり平成14年の試掘調査により調査未了区となっていた果樹園部分が調査区である。調査対象箇所に9本のトレンチを設定した(T1～T9)。調査区は、果樹園に開墾する際、水はけをよくするために旧耕作土上に40～55cmの盛土をしたところであり、どのトレンチも盛土の下層に旧地形が保たれていた。層序はどのトレンチも基本層序と同様であった。T1からはトレンチ中央部分近くから長軸100cm、短軸45cmの陥没穴状遺構が検出され、T5からは径40cm大と径60cm大的土坑が2基検出された。検出面は第Ⅲ層の黄褐色土の地山上からであり、埋土はにぶい黄褐色土であった。T6からは径30cm大の柱穴状遺構が確認された。埋土はやはりにぶい黄褐色土であった。T9からは径60cm大のほぼ円形状の土坑が検出された。さらに範囲を広げて調査したところ、1mくらいの間隔ではほぼ等間隔で径40cm～60cmの土坑が2基検出された。埋土はにぶい黄褐色土だった。遺構は調査区全域に及ぶものと考え、これまでに設定したトレンチの精査を再度行ったが遺物を確認することはできなかった。調査区は現在果樹園として利用されており、前回のは場整備での削平を受けていない箇所であった。遺構の検出は調査区の南東方向に集中したが、旧地形が比較的保たれていることから調査区全体に埋蔵文化財が所在するものと推測される。



第90図 開口遺跡位置図



第91図 開口遺跡調査区位置図

## 21 経営体育成基盤整備事業 八重畠地区

荒野遺跡 (ME 06-2358)

所在地：神奈川県石巻市八重畠地区内

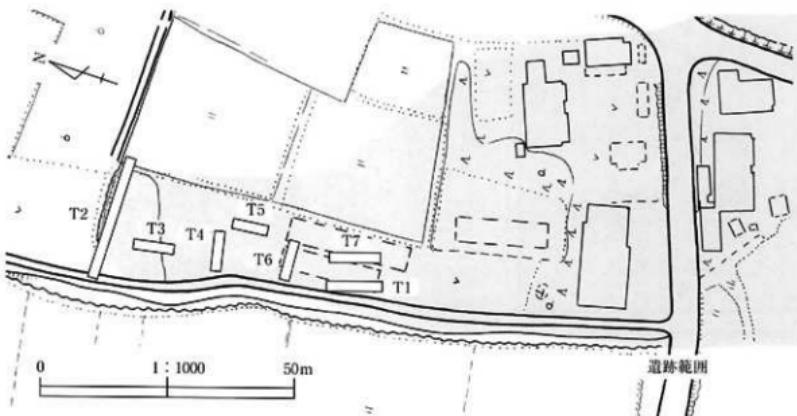
事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年11月26日

遺跡はJR東日本鉄道東北本線花巻空港駅の東方約2.5kmに位置し、北上川左岸の低位段丘上に立地する。遺跡の標高は81m前後を測り、現況は主に宅地、水田、畑地となっている。今回の調査は、は場整備に伴うものであり、平成14年の試掘調査により調査未了区となっていた畑地部分が対象である。調査対象区に7本の試掘トレンチを設定した。該当箇所は、表土直下地山になっており、前回のは場整備において削平され、その上に山砂を含む盛土をしたところである。どのトレンチも基本層序と同様の層序をしていた。T1からは径20cm大の柱穴状土坑2基、径30cm大の柱穴状土坑を1基、径40cm大の土坑を2基、径50cm大の土坑を3基、径60cm大の土坑を2基検出した。検出面は、盛土直下の地山であり、埋土の色は地山の黄褐色よりやや黒いぶい黄褐色であった。T2はパイプを埋設する箇所であることから全面試掘を行った。トレンチの西側部分は5cm前後の礫が第II層上面に確認されたことから、深く削平を受けていると思われた。東側に進むにつれて、礫はなくなりトレンチ東端において陥入穴状造構を検出した。規模は長軸が180cmで短軸が60cmで、表土から検出面である地山までの深さは30cmであった。T6からは、径60cmと径50cm級の土坑2基検出し、T7からは50cm級が2基と60cm級が2基検出された。いずれの検出面も表土直下の30cmであり、埋土は暗褐色土のシルト質で微量の炭化物を含んでいた。遺構の検出がほぼ全域にわたることから調査区全域を要本調査範囲とした。



第92図 荒野遺跡位置図



第93図 荒野遺跡調査区位置図

## 22 ほ場整備事業八重畠地区関連調査

中村遺跡 (ME 06-2387)

所在地：稗貫郡石鳥谷町八重畠地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

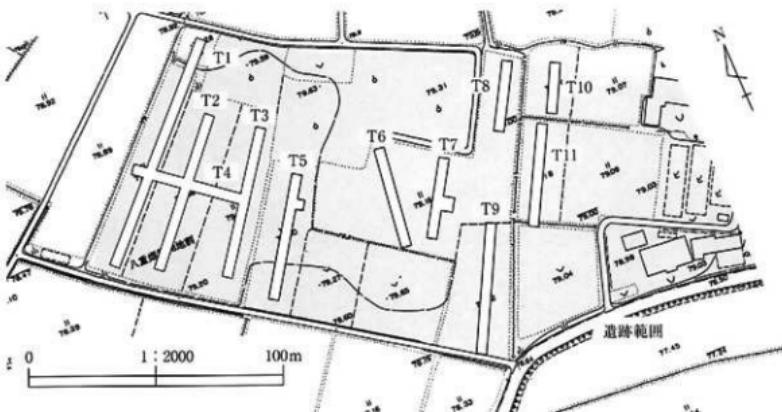
調査期日：平成15年11月26日～27日

遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北本線花巻空港駅の東約2.7kmに位置し、遺跡の南側を西流する北上川により形成された河岸段丘の低位面縁辺部に立地している。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、昨年度調査未了となっていた箇所が対象である。切土予定の田面、砂利敷農道設置予定箇所を調査区とし、13本のトレンチを設定した (T1～T13)。遺跡範囲内の西端部にある水田に、T1～T4を設定した。いずれのトレンチにおいても表土（耕作土）、暗灰色粘土層（水田底土）、褐色粘土質シルト（検出面）、黄褐色粘土質シルトであった。

遺構及び遺物が確認できなかったため、トレンチ内において、十数か所程可能な限り、重機で深堀を行ったところ、第IV層は3m以上は堆積していることがわかった。遺跡内中央部に近い水田部分にT6～T11を設定した。T1～T4を設定した田面より、標高が約0.8mほど低い田面である。第III層の上面では、遺構及び遺物は確認できなかつたが、約10cmほど掘り下げたところ、T7において径30cmの大柱穴が2基、T8において径20cmの大柱穴が4基確認された。T10においては、径15cmの柱穴が確認され、その埋土には縄文時代の土器片が含まれていた。遺跡の南縁辺部にかけてT9を設定したところ、農道設置予定箇所において、表土直下で大量の炭化物粒及び焼土が確認され、その上面から縄文土器が出土した。残念ながら過去の水田造成により地形改変を受けているため、明確なプランを確認することはできなかつたが、堅穴住居跡であると推測した。検出された遺構及び遺物は、褐色粘土質シルト層の上面から約10cmほど掘り下げたところで検出されている。



第94図 中村遺跡位置図



第95図 中村遺跡調査区位置図

## 23 中山間地域総合整備事業 町井地区関連調査

畠中遺跡（ME 38-0373）

所在地：和賀郡東和町町井2区地内

事業者：花巻地方振興局農林部農村整備室

調査日：平成15年10月30日～31日、平成15年11月28日

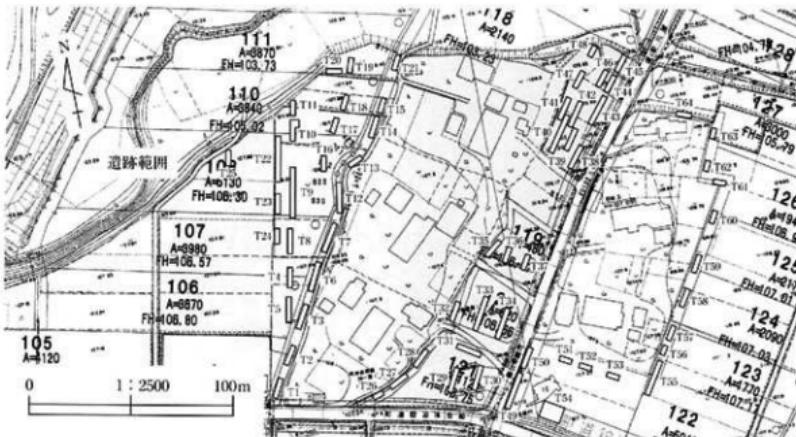
遺跡は、東和町役場から南東へ約1.8km離れた河岸段丘の縁辺部に立地しており、遺跡の北側約10mを猿ヶ石川が西流している。遺跡の標高は、106m前後を測り、現況は宅地、水田及び畠地となっている。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、切土となる田面、農道抵幅予定部分及び排水路設置予定箇所が対象である。遺跡範囲及びその隣接地に幅約220cmのトレーニチを48本設定した（T1～T48）。宅地部分を境にして西側の水田部分（西側調査区）のトレーニチにおける層序は、表土（水田耕作土）、暗青灰色土（水田底土）、青灰色粘土質シルトの順であった。北側の縁辺部に設定したトレーニチにおいては、粘土質シルト下層に、砂礫層があらわれた。かつて、このトレーニチを設定した箇所には、沢が流れ水車小屋があったとの話を地元の人から伺った。

宅地部分から西側の畠地部分（西側調査区）についてであるが、旧來の遺跡範囲隣接地に設定したトレーニチから、遺構及び遺物が確認された。T10においては、時期不明であるが、径80cm大の円形土坑1基が検出された。T18においては、第Ⅱ層及び第Ⅲ層から縄文時代中期のものと思われる数十点の土器片が出土し、径80cm大の円形土坑1基が検出された。T15においては、縄文土器片1点が出土したが、遺構は確認できなかった。西側調査区において最も標高の高い畠地からは、掘立柱建物1棟が検出された。これらのことから、住居跡等の集落が所在している可能性があると推測した。（平成16年度本発掘調査予定）



第96図 畠中遺跡位置図



第97図 畠中遺跡調査区位置図

## 24 ほ場整備事業 江釣子第一地区関連調査

新平遺跡 (ME55-0081)

新平屋敷遺跡 (ME55-0062)

所在地：北上市江釣子地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年5月6日～13日

遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北新幹線北上駅より北東約6.6kmに位置し、北上川支流の新堀川が形成した沖積地上に、舌状に張り出した丘陵上に立地している。新平遺跡は、過去に発掘調査が実施され、その発掘成果等から古代駅家擬定地として、遺跡の一部が昭和38年に県指定史跡の指定を受けている。本遺跡は、平成12年度実施の分布調査により、遺跡範囲が拡大している。

また、新平屋敷遺跡は、近世の環濠屋敷として名高く、土塁も一部残存している。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、水路敷設箇所、農道新設箇所及び切土予定の田面を対象とし、調査対象区域に159本のトレンチを設定した (T1～T159)。

この報告では、新平屋敷遺跡周辺で検出された遺構及び出土遺物が、新平遺跡あるいは新平屋敷遺跡どちらに属するか明確な区分を見いだせなかっただため、一括で報告するものである。標高91m前後を測る水田に設定したT24では、縄文土器及び土師器が出土し、堅穴住居跡2棟が表土から110cm下で検出された。その煙出部と思われる部分には焼土が認められた。T26においては、表土から35cm下で住居跡1棟が検出され、この遺構の周囲から縄文土器も出土している。T25では、住居跡は検出されなかったが、縄文土器の遺物包含層(厚さ約50cm)が確認された。現在畑地となっている箇所にT29を設定した。T29においては、遺構は確認できなかっただが、この畑地の表土には多量の土器片が含まれていることを確認した。T24～T26、T29での調査で検出された遺構等から、この範囲においては、少なくとも古代と縄文時代の2枚の遺構検出面が所在すると思われる。

標高87m～90m前後の水田部分に設定したT22、T57、T131、T156、T157でも古代のものと推測される住居跡状遺構が検出された。現在、本遺跡は、盛土を施された県道で東西に隔てられているが、地形は連続しており、検出状況から、トレンチを設定しなかった部分にも住居跡等の遺構が所在しているものと思われる。T16～T17、T58～T59では、連続していると思われる溝跡が検出された。

県道を隔てた東側部分についてであるが、新平屋敷遺跡南側の現在農道となっている旧道沿いに設定したT99において、幅70～80cm程の溝が検出された。この旧道は、新平屋敷の環濠脇を通っていたようであるが、駅家擬定地までの重要路であったことから、T99において検出されたこの溝は、道路付属施設(道路側溝)の可能性もあると推測した。

低地の水田に設定したT120では、トチノミ、クルミ等の堅果類の種皮、種子類及び多くの炭化物と人為的に切り倒された樹木が出土し、その近くでは溝跡が検出されており、トレンチ設定箇所以外にも埋蔵文化財が所在している可能性が高い。

以上のことから、本遺跡は、縄文時代と古代の大規模な集落跡であると思われる。(平成16年度本発掘調査予定)



第98図 新平・新平屋敷遺跡位置図



第99図 新平・新平屋敷遺跡調査区位置図

## 25 ほ場整備事業 二子地区関連調査

中島遺跡 (ME 56-1263)

所在地：北上市二子町字中島地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査日：平成15年5月6日～5月7日

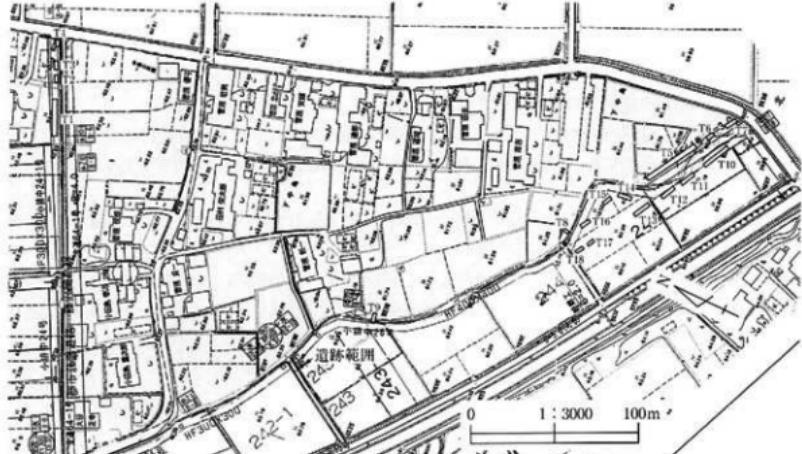
遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北新幹線北上駅より北東約3.6kmに位置し、北上川支流の大堀川左岸の微高地に立地しており、西川目遺跡と隣接している。標高は、61m前後を測り、現況は主に畠地及び水田となっている。

今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、農道及び排水路設置予定箇所が対象である。調査対象区及び遺跡隣接箇所に18本のトレンチを設定した (T1～T18)。

T1～T4は、北側の砂利敷農道及び排水路設置予定箇所に設定した。トレンチにおける層序は、水田耕作土である表土、暗褐色土、漸移層、地山である褐色土となっていた。これらのトレンチからは、遺構及び遺物は確認できなかった。T5～T8は、南側の砂利敷農道予定箇所が対象である。T5からは、焼土を伴う竪穴住居跡1棟、土坑1基が検出された。住居跡は、1辺が約3m前後で、隅丸方形のプランを示していた。住居跡の埋土には、土器片が含まれており、炭化物粒も多く含まれていた。T6～T7では、遺構及び遺物は確認できなかったが、T8～T9は、給水栓設置予定箇所に設定した。T8において、表土下の盛土層から摩滅した土器片が出土したが、畠地造成時に流れ込んだものと思われる。遺跡範囲外ではあったが、表土に遺物が散在していた隣接の水田にトレンチを設定した (T10～T18)。層序は、水田耕作土、泥炭層、グライ化した粘土層であり、遺構は確認できず、遺物は流れ込んだものと推測した。(工法協議予定)



第100図 中島遺跡位置図



第101図 中島遺跡調査区位置図

## 26 ほ場整備事業 二子地区間連調査

山口遺跡（ME36-2394）

所在地：北上市更木、花巻市東十二丁目地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年12月15日～16日、12月25日～26日、

平成16年1月7日、20日～21日、

2月9日～10日 計9日

遺跡は、JR東日本鉄道株式会社東北本線村崎野駅の北東方向約4kmに位置し、北上川によって形成された自然堤防上の立地しており、現況は水田及び宅地となってい。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うものであるが、ほ場の詳細設計がまだ完成する前に行ったものであり、水路設置予定箇所及び盛土予定以外のすべての田面を対象に、旧来の遺跡範囲を中心に遺構の抜がり等を確認しながら、調査を実施した。調査対象区域に68本のトレンチを設定した（T1～T68）。

精査の結果、旧来の遺跡範囲を越えて、遺構の抜がりが確認された。遺跡内において、比較的標高の高い田面に設定したT15では、表土直下20cmで古代の竪穴住居跡が2棟重複して検出され、検出面の理土上面には土師器片が含まれていたが、遺構埋土のはほとんどは、過去の開田及びほ場整備事業による削平を受けていた。T17においては、表土下約80cmで竪穴住居跡が1棟検出された。柱穴の多くも、標高の比較的高い田面で確認されている。T20では、幅40cmで、5×5mの規模の方形周溝が1基検出された。この方形周溝が検出された水田も比較的標高の高い水田である。また、T20を設定した田面の東側のT13では、埋土上面に十和田a降下火山灰が理土上面に見られる溝が1条検出された。歴史状遺構の一部ではないかと推測し、周間に同様の遺構があるかどうかトレンチを拡大して確認しようとしたが、過去に行われたほ場整備事業等で受けた地形変更のためか、確認できなかった。

遺跡範囲隣接地である南側の水田に設定したT40では、縄文時代の陥穴状遺構が検出されたが、遺物等は、今回の調査では確認できなかった。

遺跡範囲隣接地である北側の水田に設定したT52～T67では、地山まで約1m以上もあった。これらのトレンチからは、遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、今回の試掘調査によって遺構が集中して検出されたのは、現在比較的標高の高い水田であり、この水田は北上川によって形成された自然堤防部分と推測され、集落は、この自然堤防上に広がっていたと考えられる。

また、この集落部分と推定される区域の北側で方形周溝が1基検出されていることから、墓域がこの集落部分の北側に所在していた可能性が高いと思われる。

さらに、T13で検出された十和田a降下火山灰が見られた溝は、その形状及び規模から歴史状遺構の一部である可能性を否めないことから、集落内における生産の場として畠地が、T13を設定した水田周辺に所在していたと推測した。

本遺跡は、縄文時代と古代の複合遺跡であることが今回の調査により判明した。



第102図 山口遺跡位置図



第103図 山口遺跡調査区位置図

## 27 経営体育成基盤整備事業 更木新田地区

市の川I遺跡 (ME 46-0343)

所在地：花巻市南篠間地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年12月16日

遺跡は、JR東日本鉄道線東北本線村崎野駅より北東約4.7kmに位置し、北上川左岸の沖積地微高地に立地している。標高は67m前後を測る。現況は主に水田となっており、今回の調査は、ほ場整備に伴い実施したもので、遺跡の範囲を確定することを目的とし、田面及び、排水路新設箇所が対象である。排水路は既存の土側溝を掘削して新設するが、来年も使用するため、土側溝から1m離した場所にトレーンチを設定した。調査対象区に25本のトレーンチを設定した (T1~T25)。

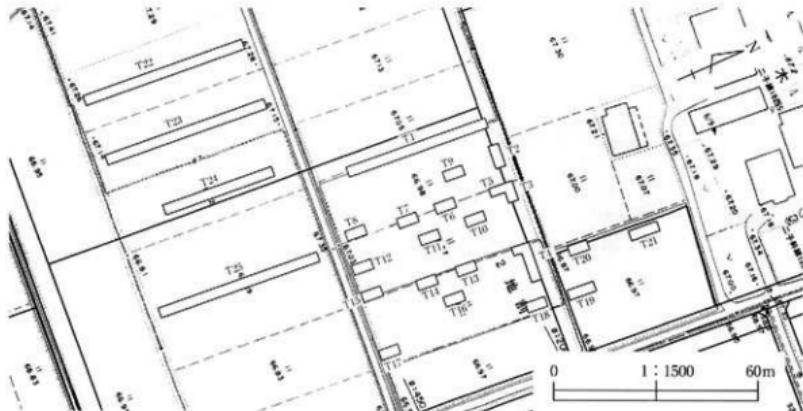
調査の結果、排水路新設箇所のT2において、西端から1.2m、深さ60cmの地点で、平面が長軸3m短軸1.5mの楕円形の土坑1基、長軸2m短軸0.7mの楕円形の土坑1基を確認した。埋土は共に黒褐色であった。トレーンチを広げ遺構の有無を確認したが、調査した田面では確認できなかった。T2から調査未了区の田面方向に向かって緩やかに高くなっていることから、遺構は調査未了区に広がることが推測される。

T12において、耕作土中から縄文土器が2片出土した。耕作土中から出土したこと、トレーンチを広げ遺構を確認したが無かったこと、他の試掘箇所では、縄文の遺物、遺構は基本層序第IV層もしくはV層で確認されていることなどから考えて、遺構に伴うものではないと判断した。この周囲は、昭和初期に開田されていくことから、周間に縄文の遺跡が存在することが推測される。

そのほかのトレーンチからは、遺構及び遺物は確認できなかった。



第104図 市の川I遺跡位置図



第105図 市の川I遺跡調査区位置図

## 28 経営体育成基盤整備事業 更木地区

小川屋敷遺跡 (M E 46-0325)

所在地：北上市更木新田地内

事業者：北上地方振興局農村整備事務所

調査日：平成15年12月15日(月)・16日(火)

平成16年1月20日(火)・21日(水)

＊ 2月9日(月)・10日(火)

遺跡は北上市役所の北東約6.8kmに位置し、北上川左岸の沖積平野に立地する。遺跡の標高は67m前後で、現況は主に水田と宅地になっている。今回の試掘調査は、ほ場整備事業に伴い農道及び水路設定箇所、切土となる田面が対象であり、事業予定箇所に試掘トレンチを46本設定した (T1～T46)。

調査の結果、T23、T26、T33、T36から竪穴住居跡を検出した。規模は一辺3.5m～最大8mの円形又は方形状で、いずれの住居跡も埋土に焼土を含んでいた。T33とT36の住居跡からは土師器が出土した。T34からは階下穴が検出されたが、その規模は長軸375cm、短軸40cmで溝状を呈するものであった。T23では、径35cmと径50cmの円形土坑2基と60cm×35cm、58cm×42cmの楕円形の土坑2基を検出した。また、トレンチを横断する形で幅が55cm～35cmの溝跡を検出している。T25からは径80cmの円形の土坑を検出し、T32からは、110cm×80cmの土坑を検出している。T35からは径35cmの土坑を検出し、T45からは20cm×30cmと70cm×50cmの楕円形の土坑を2基、径40cmの土坑を1基検出した。調査区一帯は、遺構が多数検出され遺物も出土していることから、この一帯は古代の集落であった可能性が高い。



第106図 小川屋敷遺跡位置図



第107図 小川屋敷遺跡調査区位置図

## 29 経営体育成基盤整備事業 更木新田地区

小川屋敷遺跡隣接地 (ME 46-0335)

所在地：北上市更木新田地内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査日目：平成16年1月21日

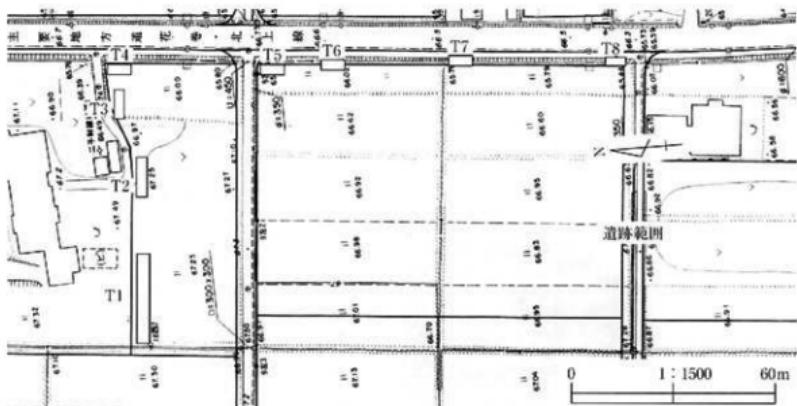
調査対象区は、JR東日本鉄道株東北本線村崎野駅より北東約4.7kmに位置し、北上川左岸の沖積地微高地に立地している。標高は67m前後を測る。現況は、主に水田となっている。今回の調査は、は場整備に伴い実施したもので、遺跡の範囲を確定することを目的とし、田面及び、排水路予定箇所が対象である。調査対象区に8本のトレーニングを設定した (T1~T8)。

調査の結果、古代の住居跡4棟、溝2条、土坑2基を確認した。T1では、古代の住居跡1棟、土坑1基、溝1条を確認した。住居跡は、20cmの深さで確認した。大きさは350×350cmの規模であった。土坑は深さ30cmで確認した。大きさは40×40cmで埋土に土師器の底部と炭化物を含んでいたことから、古代の遺構と考えられる。溝は、幅25cmでトレーニング内での長さは10mあった。時期は不明である。T2を設定した場所は表土が基本層序第Ⅲ層の黒色土で、耕作土直下20cmで古代の住居跡1棟を確認した。埋土は暗褐色土で焼土ブロック、暗褐色ブロック、炭化物を含んでいた。T3では、古代の住居跡を確認した。埋土に土師器を含んでいた。T4では、表土直下80cmで、土坑1基を確認した。長軸140cm、短軸70cmの大きさであった。T6では、表土直下50cmで住居跡1棟を確認した。埋土は暗褐色で土師器片を含んでいた。T7では、深さ80cmで溝1条を確認した。埋土に炭化物が含まれていたことから竈の煙道部の可能性も考えられる。

調査対象区周辺からは、住居跡、土坑等、多くの遺構が確認されていることから、遺跡の中心部分と考えられ、道路を挟んで東側の水田部分にも遺跡が広がる可能性もあると考えられる。



第108図 小川屋敷遺跡位置図



第109図 小川屋敷遺跡隣接地調査区位置図

### 30 ほ場整備事業更木新田地区

#### 駒板遺跡 (ME36-2371)

所在地：花巻市東十二丁目字地貫田内

事業者：北上地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年12月15日～12月16日（2日間）

遺跡は遺跡は花巻市役所から南東に4.7kmの北上川左岸に形成された自然堤防上に立地し、標高はおよそ67m前後を測り、北上市との市境にある。現況は主として水田である。平成12年の分布調査によって発見された遺跡であり、過去には縄文時代（晩期）の土器、石器が発見されていた。

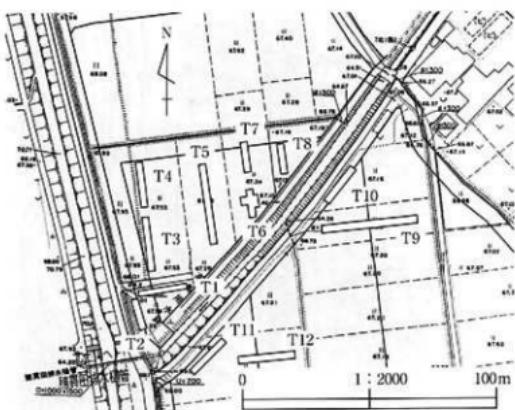
今回、ほ場整備事業実施にあたり、埋蔵文化財との事前調整のため、試掘調査を実施した。T4における基本

層序は第1層：耕作土、灰褐色土、層厚25cm、第2層：褐色土、層厚15cm、第3層：褐色土と黒褐色土の混土、層厚23cm、第4層：黒褐色土、層厚37cm、第5層：茶褐色土、層厚38cmであった。

T1では、縄文時代に属する直径2.4m以上の竪穴住居跡1棟、T2でも縄文時代の直径2.5m以上の竪穴住居跡1棟が発見され、それぞれ縄文土器（中期～後期）が出土した。T3では、須恵器壺を埋設した円形ピット1基、縄文時代の遺物包含層、T4では内黒土師器を含む遺物包含層、縄文時代の遺物包含層、直径 $0.8 \times 0.5$ m、深さ0.3m以上の規模の縄文時代に属する円形ピット1基、T5は黒褐色土から縄文土器が出土し、遺物包含層であることが判明した。T6では長さ4.7m以上、巾0.5mの溝跡1条、 $0.9 \times 1.8$ m、深さ0.5mの長方形円形のピット、 $0.3 \times 0.5$ mの範囲に焼土のまとまりがあった。T7では遺構、遺物は確認できなかったが、T8と同様の層序であった。T8では、全面に縄文時代の遺物包含層があったが、T3よりは含まれる土器の量が少なかった。また直径0.3m以上の範囲に炭化物が集中していた。T10では黒褐色シルトが縄文時代の遺物包含層となっているが、土器はそれほど多く含まれていなかった。その他のトレンチでは遺構、遺物とも発見されなかった。



第110図 駒板遺跡位置図



第111図 駒板遺跡調査区位置図

### 31 農用地総合整備事業下閉伊北地域関連調査

上和野遺跡（K F69-0139）

所在地：下閉伊郡岩泉町二升石字上和野内  
事業者：緑資源機構東北支社下閉伊北事業所

調査日：平成15年11月6日

遺跡は岩泉町西部の二升石地区の小本川左岸の丘陵斜面に立地している。奈良時代～平安時代の散布地として周知されており、過去に土師器や石器が発見されていた。遺跡の標高は177～183m程度で、主に畠地として利用されている。

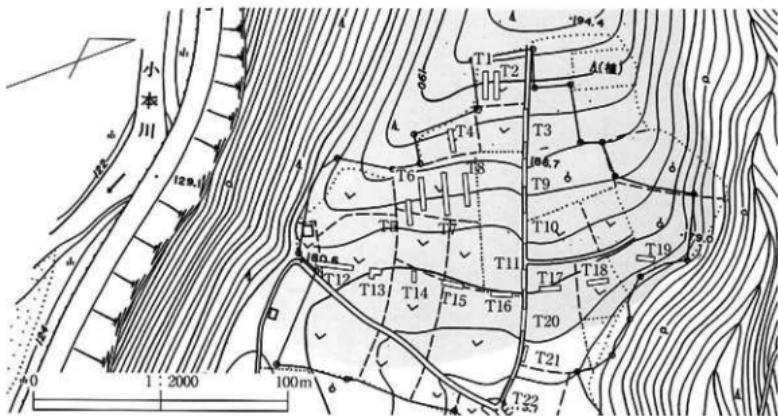
今回、畠地整備実施にあたり、埋蔵文化財の有無と範囲を確認するため、試掘調査を実施した。試掘トレンチは合計22本設定した。

その結果、次の箇所で遺構、遺物が発見された。T1、T2、T4、T5、T16、ではピットが合計10基発見され、直径20cmのものが多く、40cmを超えるものもあった。T13では陥し穴状遺構が1基、発見された。T17では長軸70cmの焼土が1基見つかり、周囲から土師器が1点出土した。T3では竪穴住居跡1棟があり、長さは2.5m程度、焼土を含む埋土の深さは26cmで、遺物は出土しなかった。T10でも竪穴住居跡1棟があり、長さは3.5m以上で、埋土は45cmの厚さで、須恵器が1点出土した。トレンチ下方に直径70cm以上の焼土があり、礫も見られたことから、カマドの一部である可能性が高い。T11ではトレンチ長軸方向に直行する溝があり、幅35cm程度であった。周囲の堆積土も、T10の住居跡堆土に類似しており、住居跡の周溝と考えられる。

以上のことから奈良～平安時代の集落が存在することが判明した。陥し穴状遺構も発見されていることから縄文時代の遺構が存在する可能性も高い。



第112図 上和野遺跡位置図



第113図 上和野遺跡調査区位置図

### 32 経営体育成基盤整備事業 白山地区

内屋敷遺跡 (N E 47-0163)

所在地：伊沢郡前沢町白山字内屋敷地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

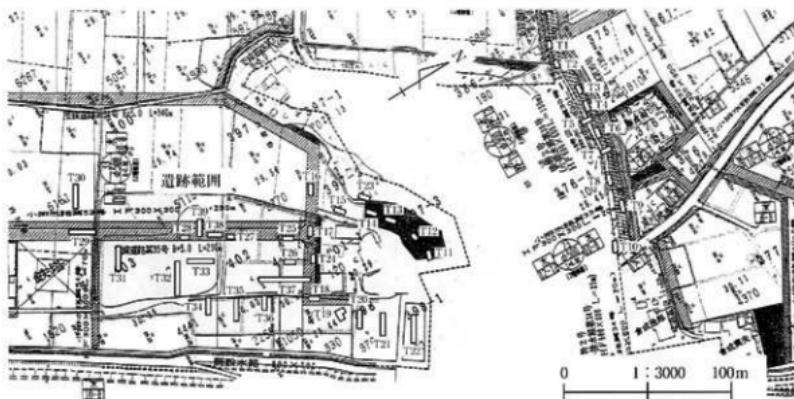
調査期日：平成15年10月22日、11月14日、12月15日

遺跡は前沢町役場の北東約4.6kmに位置し、北上川右岸の沖積地微高地上に立地する。遺跡の標高は29m前後で、現況は宅地と水田になっている。今回の調査は、は場整備事業に伴う水路の埋設工事によるもので該当箇所に試掘トレチを39本設定した (T 1 ~ T39)。T19から溝状の土坑と繩文土器を検出した。形状を把握するためにトレチの幅を広げたが、規模が大きく形状はつかめなかった。T21からは、径22cmの円形状の遺構が1基検出され、T24からは、径約30cmの円形状の遺構が1基検出された。T25の中央部分から、薬研堀に類似する堀状遺構を検出した。上幅約2mで検出面からの深さは1.4mで、埋土の上部に灰白火山灰ブロック層がレンズ状に堆積していた (十和田a降下火山灰に類似)。したがって当該遺構の年代は10世紀初頭よりもさかのほるものと推測される。T27の南端部で、被熱赤変した棒状器と土師器小型甕が出土した。T28からは第Ⅱ層中から土師器片を検出している。T29~T39の調査区は、旧表土にあたる層が確認されなかつたことから、水田造成の段階において地形変更を受けている場所であった。T37において、堀状遺構と径120cm大的土坑が1基検出されている。

これらのことから遺跡の中心部分は、T37で検出された堀状遺構を挟んで南側の旧地形が比較的残存している畑地と、T19の溝及び土坑が検出した周辺と考えられる。(平成16年度本発掘調査予定)



第114図 内屋敷遺跡位置図



第115図 内屋敷遺跡調査区位置図

### 33 は場整備事業白山地区関連調査

川前遺跡 (N E 47-0042)

所在地：群馬県前沢市白山字川前地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成15年12月18日

遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南東約2.3kmに位置し、北上川右岸の沖積平野にある微高地に立地している。現況は畑地であり、遺跡の周囲は水田となっている。今回の調査は、は場整備事業に伴うもので、切土予定の畑地及び隣接する田面に7本のトレンチを設定した (T1 ~ T7)。

T1、T3及びT4を畑地に設定したところ、T3及びT4において、約4mの規模を持つ方形周溝1基が、第Ⅲ層下面で検出された。周溝の幅は、約120cmほどで、隅丸方形のプランを呈しており、その埋土には、土師器片が含まれていた。周溝のプランを確認するために、T4を水田部分まで掘りたが、過去のは場整備等によって受けた地形変更により、周溝の一部は、削平されていた。

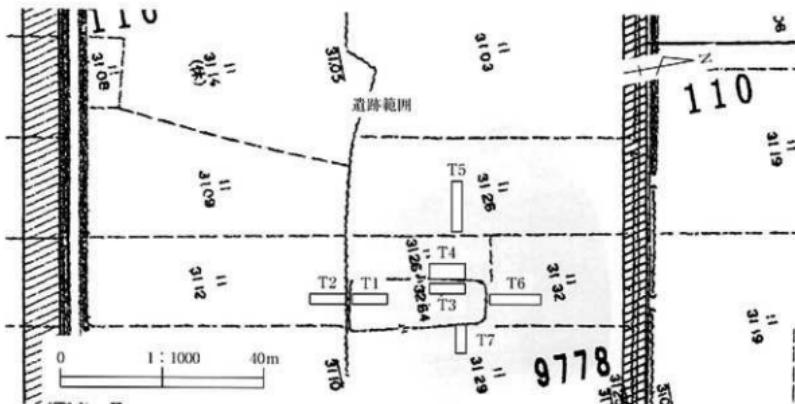
遺物は、T3の第Ⅲ層から、土師器片が数点出土しているほか、畑地から摩滅した土器片2点が表採された。

T2、T5~T7を方形周溝が検出された微高地脇の水田に設定した。いずれのトレンチにおいても、層序は、水田耕作土、表土、水田底土、地山である褐色土の順となっており、水田においては、すでに地形変更が行われていたことが伺え、遺構及び遺物は確認できなかった。

以上のことから、本遺跡において、旧地形が良好に残存している部分は、T1、T3及びT4を設定した微高地のみであり、その周間に所在する水田部分においては、地形が変更されており、旧地形は残存していないと判断した。(平成16年度本发掘調査予定)



第116図 川前遺跡位置図



第117図 川前遺跡調査区位置図

### 34 は場整備事業白山地区関連調査

道上遺跡（NE47-0045）及び隣接地

所在地：胆沢郡前沢町白山字川前地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成15年12月18日

平成16年3月1日～8日

遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の南東約2.3kmに位置し、北上川右岸の沖積平野にある微高地に立地している。現況は、主に畑地及び水田となっており、標高は約31m前後を測る。今回の調査は、は場整備事業に伴うもので、切土予定の細地及び田面、農道及び排水路設置箇所が対象となる。

平成15年12月8日に、旧来の遺跡範囲内外を対象に試掘調査を実施したところ、遺跡範囲を越えて遺構及び遺物が確認されたことに加え、遺跡範囲内の地形等の観察から、旧地形が比較的良好に残存していると判断し、平成16年3月1日～8日に追加試掘調査を実施したものである。調査対象箇所に、合計133本のトレンチを設定した（T1～T133）。

旧来の遺跡範囲内には、T129～T133を設定した。T130においては、時期は不明であるが、埋土及び炭化物粒を大量に含む土坑4基が検出された。現在の畑地から田面まで連続するようにT131を設定した。T131においては、径30cm大の柱穴が6基検出され、200×130cmの規模で隅丸長方形のプランを持つ土坑1基が検出された。この土坑が検出された周辺から、トレンチの南端部にかけて、土師器片数点、近世のものと考えられる染付の陶器片1点が出土し、トレンチ南端部周辺では、検出面に多くの土師器片が含まれていた。T132においては、柱穴が7基、埋土に土師器片及び炭化物粒を多く含む120×70cmの楕円形を呈する土坑1基が、T133では、柱穴1基が検出された。

旧来の遺跡範囲を越えて遺構及び遺物が確認されたこと等から、遺跡隣接地で埋蔵文化財が所在する可能性が高いと思われる区域に、128本のトレンチを設定した（T1～T128）。これらのトレンチを設定した区域の大半は、現在水田であり、過去には場整備等が実施されていたが、遺構及び遺物が広く確認された。検出された遺構は、竪穴住居跡31棟、土坑類49基、柱穴状129基、溝跡18条、古代の包含層及び縄文時代の陥し穴1基である。竪穴住居跡は、現在畑地及び宅地となっている微高地上のみならず、周囲の田面でも検出されている。田面で検出された竪穴住居跡の残存状況は良好ではなかったことから、過去のは場整備事業等による地形変更を伺わせた。

また、土坑、溝、柱穴状等の遺構も広範囲において検出され、遺物についても広範囲から出土している。

以上のことから、本遺跡は北上川によって形成された自然堤防上に営まれた古代の集落跡であることが推測され、それぞれの遺構の属する時期は明確ではないものの、検出された遺構数及びその範囲から、集落の規模は大規模であったと思われた。また、陥し穴状遺構が1基検出されたこと、その検出された遺構から離れているが、田面から縄文時代のものと思われる土器片1点が出土していることから、縄文時代の集落等も本遺跡に近接して所在している可能性があると推測した。

本遺跡は、縄文時代と古代の複合遺跡であることが、試掘調査結果から判明した。（平成17年度本発掘調査予定）



第118図 道上遺跡位置図



第119図 道上遺跡調査区位置図

35 経営体育成基盤整備事業 増沢東部

金打遺跡 (ME97-1314)

所在地：江刺市岩谷堂地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成15年11月4日、5日、14日、25日

遺跡は江刺市役所の北東約2.8kmに位置し、人首川右岸の低位段丘上に立地する。遺跡の標高は51m～54mで現況は主に水田と宅地になっている。今回の試掘調査はほ場整備事業に伴い農道及び排水路設定箇所、切土となる田面が対象で、該当箇所に試掘トレンチを92本設定した(T1～T92)。調査の結果、T11とT32から土坑が検出された。T11で検出した土坑は、第Ⅲ層上からで長軸は80cm、短軸は70cmの円形で、埋土はグライ化が進みやや青灰色を呈していた。T32は長軸150cm、短軸140cmではば円形の土坑であった。この地区は昭和30年代にはほ場整備を受けており、切土だった面は表土直下地山で、盛土が行われた地区は旧耕作土が残っている箇所もあった。T32一帯は耕作土(盛土)の20～30cm下は地山になっていた。T41、45、46、50、51、71、72、81、89からは绳文土器が出土した。出土した層は第II層の黒灰色土下層からであった。上器の出土した一帯は幅が2mほどの畦道の直下、もしくは周辺であり、量は比較的多く広域にわたっていた。多くの田面が前回のほ場整備において削平を受けた中で、この畦道とその周辺は、旧地形をそのまま生かす形で作られた可能性が高い。T81から出土した土器は、摩滅しており周辺から出土しないこと、削平の際に地山が削られた箇所であることから流れ込みと判断した。(平成16年度本发掘調査予定)



第120図 金打遺跡位置図



第121図 金打遺跡調査区位置図

### 36 経営体育成基盤整備事業増沢東部地区

### 新地野道下遺跡 (ME97-0393)

所在地：江阴市岩谷堂地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成15年11月25日、12月17日（2日間）

遺跡は江刺市役所から北東へ約3kmの入首川右岸の低段丘上に立地している。現況は水田、採草地等で、東側に接する水田から約3m程の比高があり、標高は55~60m程となっている。

今回の試掘調査は場整備事業実施に伴い、排水路及び切り土予定田区を対象した。試掘トレンチは計9箇所設定した。

### 第122図 新地野道下遺跡位置図

調査の結果、何れの箇所も過去の造立て削平を受けていたが、T1、T2では遺構、遺物が発見された。T1の北側において2.2m×1.8m以上、深さ0.25mの堅穴住居跡1棟とそれに伴う柱穴が確認された。埋土からは绳文時代前期の土器が出土した。また同じトレンチから上坑4基が発見され、1.7m×0.6m~0.6m×0.3mの規模であった。埋土に炭化物が多く含まれるものもあった。T3では近代以降の陶器片1点、T4、T5では比較的新しい時期と考えられる溝跡等があった。以上のことから绳文時代前期を中心とした遺跡であることが判明したが、同じ地区に益沢院という地名も残っていることから藤原氏関係の遺構も付近に存在する可能性が高い。(平成16年度本发掘調査予定)



第122図 新地野道下遺跡位置図



第123図 新地野道下遺跡調査区位置図

### 37 ほ場整備事業白山地区関連調査

岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡 (ME97-0364)

所在地：江刺市岩谷堂地内

事業者：水沢地方振興局農政部農村整備室

調査日：平成15年11月4～5日、11～12日

遺跡は、江刺市役所の北東約3kmの人首川右岸の扇状地上に立地し、標高は55～60mを測る。現況は、主に水田となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、農道及び排水路設置箇所、切土予定の田面が対象である。調査対象区及び遺跡隣接箇所に66本の試掘トレンチを設定した (T1～T66)。

精査の結果、T62において平安時代前期と推定される水田跡が、T11においては、時期不明の土坑1基が検出され、T44においては縄文晩期の土器片数点が出土した。

水田跡についてあるが、表土直下20cm下で、下和田a降下火山灰層が確認され、その下層に水田耕作土と推定される黒色土層が検出され、トレンチを田面へ掘りたところ、平安時代のものと推定される田面及び畦畔が表土下20cmで検出された。T11で検出された土坑は、長軸100×短軸70cmの長楕円形のプランを示していくが、造構の三分の一は、稻干し用杭による搅乱を受けていた。周囲に、他の造構及び遺物は確認できなかった。

T44で出土した縄文土器であるが、表上から約85cm下の暗青灰色砂層から出土した。周囲に造構は確認できなかった。この層の下は青灰色砂礫層であり、礫の大きさ及び砂等の観察から、旧河道であると推定した。これらの土器片は、摩滅が激しく、旧河道部に堆積した砂層から出土していることから、旧河道の上流部から流れ込み、流れの緩やかになった箇所にとどまつたものと判断した。(平成16年度本発掘調査予定)



第124図 岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡位置図



第125図 岩谷堂柳沢Ⅱ遺跡調査区位置図

### 38 広域農道整備事業東磐井地区

大登 I 遺跡 (O F 02-1059)

所在地：東磐井郡千厩町小梨字大登地内

事業者：千厩地方振興局農林部農村整備室

調査期日：平成15年12月5日

遺跡は、JR東日本大船渡線小梨駅から南東へ3.2kmの丘陵上と、それに接する水田面に位置している。現況は水田と荒れ地になっている。

この遺跡は昭和30年代末に暗渠排水工事を行った際に、水田下から多量の縄文土器や石棒が出土し、地元の学校教員や児童により遺物採取、保管が行われ、地元で話題になった遺跡である。

今回、周知の埋蔵文化財包蔵地内で残土捨て場設置工事が実施されることになり、それに先立ち、事業予定地内の埋蔵文化財の有無を確認するため、試掘調査を実施した。

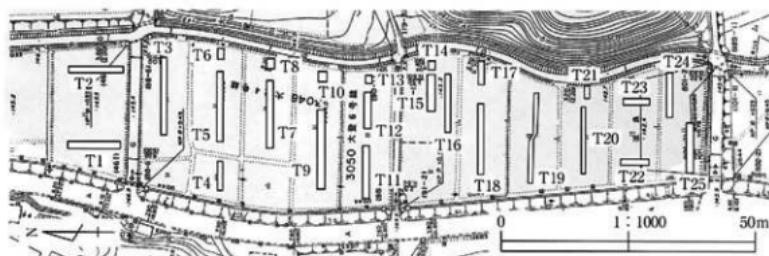
その結果、T8、T10、T12～T14で縄文時代後期～晩期の遺物包含層1箇所が発見された。T8では比較的大きめの縄文土器、T10、T13でも縄文土器、T12では多量の土器、石器、剥片、T14では縄文土器1点が出土した。

遺物が含まれていたのは、黒もしくは褐色系統の土で、範囲はT8では水田端から29m、T10では水田端から5m、T12では3.5m、T14では同じく3.5mの所までの範囲であった。T8では、昭和30年代末に設置された暗渠によって、遺物包含層が一部破壊されていた。

この他の箇所では遺構、遺物とも発見されず、木片等を含む厚い粘土層等が堆積し、その中に縦横無尽に暗渠が巡らされていた。暗渠は深いものだと地表から1m程の深さに設置されたものもあった。なお、事業予定地内の標高が高い地区の基盤は風化した花崗岩層、標高の低い方は砂礫層となっている。(工法協議予定)



第126図 大登 I 遺跡位置図



第127図 大登 I 遺跡調査区位置図

### 39 中山間地域総合整備事業 日頃市西地区

舟野遺跡 (N F 28-0244)

所在地：大船渡市日頃市地内

事業者：大船渡地方振興局農林部

調査期日：平成15年10月20日～21日

平成15年12月3日～4日

調査対象地区は、JR東日本旅客鉄道㈱大船渡線盛駅より北西約5kmに位置する。鶴来川支流の沢に形成された斜面に立地し、標高は112～127mを測る。現況は、水田である。今回の調査は、は場整備に伴うもので、切土田面、水路敷設箇所に33本のトレンチを設定した (T1～T33)。

調査の結果、沢を挟んで北側からは、大型住居跡1棟、竪穴住居跡1棟、墓坑1基を確認した。T6で確認した竪穴住居跡は表土直下20cmの深さで、直径4mの大きさであった。T7の大型住居状遺構は、確認できたのはプランの一部だけであったが、半径だけで7mもあった。遺構に沿って柱穴4基と溝と思われる遺構も確認された。遺構に伴う周溝と柱穴と考えられる。T6、T7それぞれの遺構は、縄文土器を数点伴って検出されていることから、縄文時代の遺構と考えられる。T14では、表土直下110cmで、50×50cm大の土坑を確認した。埋土は暗褐色土で炭化物粒を含んでいた。礫を伴っていたことから墓坑と判断した。沢を挟んで南側からは、陥し穴状遺構1基、土坑1基を確認した。陥し穴はT20西端表土直下55cmで確認した。大きさは長軸190cm、短軸50cmであった。土坑はT22南端から12m、表土直下120cmで確認した。大きさは径60cm、円形であった。遺構の検出状況などから調査区全体を考えると、沢を挟んで北側は住居跡などが確認されたことから、人々の生活の場であり、南側は陥し穴などが確認されたことから狩猟の場であったと推測される。T15北端から10m、表土直下50cmでは場整備前に使用されていたと思われるコンクリートの枠を確認した。また北端では盛土の厚さが30cmだったものが、南端では約130cmあった。このことなどから、旧地形は様々な事業により大きく改変されていることが分かった。



第128図 舟野遺跡位置図



第129図 舟野遺跡調査区位置図

#### 40 中山間地域総合整備事業 日頃市西地区

平山遺跡 (N F 28-0282)

所在地：大船渡市日頃市内

事業者：大船渡地方振興局農林部

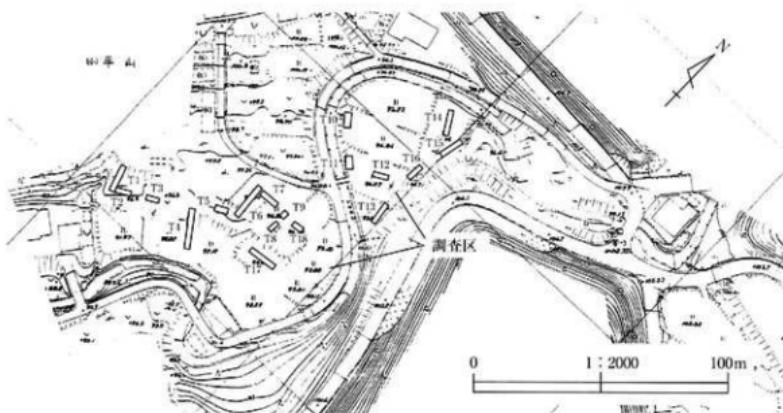
調査期日：平成15年12月3日～4日

調査対象区は、JR東日本旅客鉄道㈱大船渡線盛駅より北西約4.8kmに位置する。郷道川に形成された河岸段丘上に立地し、標高は91～95mを測る。現況は、主に水田である。今回の調査は、ほ場整備に伴うもので、切土田面、水路敷設箇所に18本のトレンチを設定した (T1～T18)。

調査の結果、平山3工区において、土坑1基、焼土跡2基を確認し、縄文土器數十点が出土した。土坑は、T7東端より2m、深さ30cmで確認し、大きさは45×45cmであった。この遺構が確認された田面は、前回のは場整備において、基本層序の第Ⅱ・Ⅲ層が削平されており耕作土直下地山であった。土坑は、この地山面で確認した。焼土跡2基はT9南端より1m、深さ30cmにおいて確認し、大きさは30×30cm、20×20cmであった。この田面は、耕作土直下に基本層序第Ⅱ層が残っている。遺構はこの面で確認した。遺構に伴う遺物が確認されていないことから時期は不明である。この面より下層の基本層序第Ⅲ層からは縄文土器が出土している。T2は表土直下基本層序第Ⅲ層であった。この層から縄文時代の土器が數点出土した。慎重に土を除去していくが、遺構は確認できなかった。T3に向かって層が深くなっていることや、埋土に崖縁性の礫が混じることから、この周辺は沢であったと考えられる。調査対象区で旧表土が残っているのはT2、3、8、9周辺のみで、その他の場所は、表土直下地山、あるいは表土直下基盤層であった。また、T17では、旧河道が確認された。以前のは場整備の際に旧地形が大きく変更されていることが分かった。以上のことを含め判断すると遺跡本体は今回調査した地点より上位に位置すると考える。川を挟んで向かい側の調査対象区は、旧河道、崖縁性の沢などは確認できたが遺構及び遺物は確認することができなかった。



第130図 平山遺跡位置図



第131図 平山遺跡調査区位置図

#### 41 中山間地域総合整備事業日頃市西地区関連調査

中宿遺跡 (N F 18-2197)

所在地：大船渡市日頃市字上宿地内

事業者：大船渡地方振興局農林部

調査期日：平成15年12月3日～4日

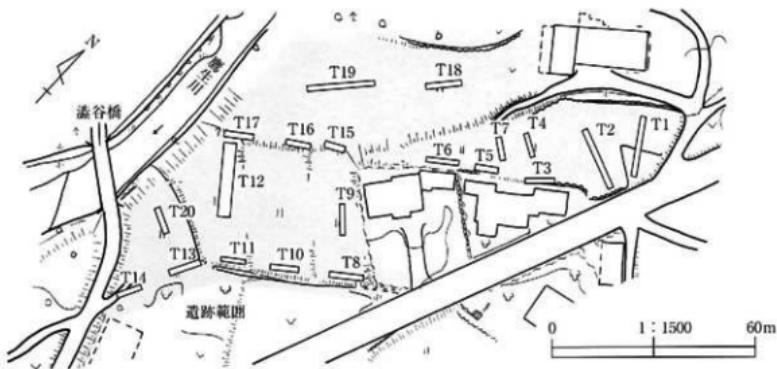
遺跡は、大船渡市役所の北北西約6.4kmに位置し、調査区は2箇所にわたるが、どちらも鷹生川左岸に立地している。今回の調査は、は場整備事業に伴い、切土予定の田面、排水路及び砂利敷農道設置予定箇所を対象とし、調査対象区域にトレンチを35本設定した (T1～T35)。盛土予定の田面にも、トレンチを設定したが、掘削を伴わず、盛土を施して掘削を伴わない排水路予定路線には、トレンチは設定しなかった。

今回の調査対象区域は、旧来の遺跡範囲内ではないが、地形等から埋蔵文化財所在の可能性が高いと判断された区域である。T1～T20は、鷹生川左岸の河岸段丘面に設定した。鷹生川との比高は4mほどある区域である。T1～T9における層序であるが、水田造成のためか、田面を上げるためにかなり厚い盛土を施した水田が一部あるもの (T4を設定した田面)、ほとんどは水田耕作土、水田床土、黄褐色砂疊層 (旧河道) の順となっており、一部のトレンチにおいては、水田床土、黄褐色砂疊層、黄褐色砂層、旧河道と推測される砂疊層となっていた。

T10～T12を設定した水田は、かつて畠地であった箇所である。水田床土の下には、旧表土と思われる黒色土、黄褐色砂疊層となっており、T12においては、表土内から、绳文土器及び敲石、近現代の陶磁器が出土した。表土下には、水田造成時のものと思われる盛土層があり、その下の第IV層から绳文土器片十数点が出土したが、遺物に結びつくような遺構は確認できなかった。さらに掘り下げたところ、径約130cm大的円形土坑が旧河道と思われる面で検出された。検出状況から、この土坑は、当時の生活面から掘り込んで砾を抜き取って構築したものと判断した。(工法協議予定)



第132図 中宿遺跡位置図



第133図 中宿遺跡調査区位置図

#### 42 下似田貝遺跡調査地区関連調査

下似田貝遺跡 (MF35-2363)隣接地

所在地：遠野市上湖町土渕字下似田貝地内

事業者：遠野地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成15年11月20日、12月3日～4日

下似田貝遺跡は、遠野市役所の北北東約5kmに位置し、足洗川を挟んで南側に位置しているため、下似田貝遺跡との地形的な連続性はないものと推測されるが、河岸段丘上の縁に位置しているという地形的条件等から、埋蔵文化財所在の可能性が高いと判断し、調査に至ったものである。段丘縁部分に設置予定の水路、砂利敷農道予定箇所及び切土予定の田面に15本のトレンチを設定した(T1～T15)。

精査の結果、T8及びT9にかけて、表土(耕作土)、黒色土の下に、十和田a降下火山灰が堆積しており、この面において畝間状造構が表土下40cmで検出された。この畝間状造構は、火山灰から平安時代のものであると判断した。他の造構及び遺物は確認できなかった。T10～T12のトレンチ中央部分から南端にかけて、表土、黒色土、褐色土の下に十和田a降下火山灰の堆積が見られたことから、畝間状造構が所在しているかどうかをトレンチを掘りたが、畝間状造構は所在せず、他の造構及び遺物も確認できなかった。掘り下げたところ、十和田a降下火山灰層の下には暗青灰褐色土層が見られ、その下は川の氾濫によって堆積したと思われる砂層が確認された。

以上のことから、T10～T15を設定した箇所で見られた十和田a降下火山灰は、足洗川の後背湿地に堆積したものであると推測した。

今回検出された畝間状造構が平安時代の畠地であるならば、この造構に関連する集落は近接して所在しているのではないかと推測した。(工法協議予定)



第134図 下似田貝遺跡位置図



第135図 下似田貝遺跡隣接地調査区位置図

#### 43 中山間地域総合整備事業 湯屋地区

駒場沢遺跡 (MF21-1014)

所在地：上閉伊郡守村達曾部地内

事業者：遠野地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成15年11月20日・21日

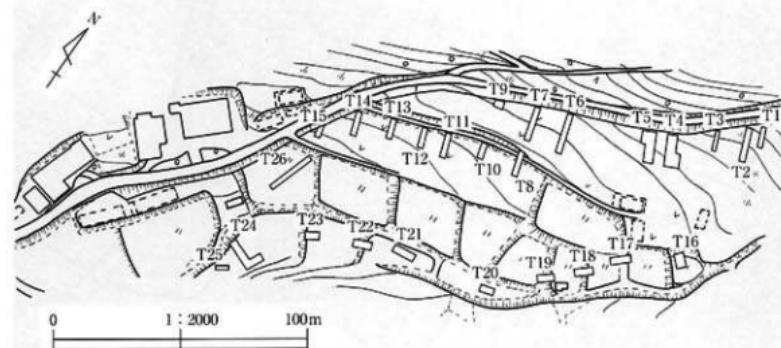
調査対象地域は、宮守村役場より北西約6kmに位置する。湯屋川の支流の沢に形成された緩やかな斜面に立地し、標高は約240m前後を測る。調査区の現況は、水田及び畑地となっている。平成13年度の分布調査で遺構、遺物は発見されなかったが、埋蔵文化財包蔵地の可能性が高い場所とされた地域である。平成15年度に現地踏査した結果、摩滅はしているが縄文土器数点、石器数点を表採したことから、埋蔵文化財包蔵地であることを確認した箇所である。今回の調査は、ほ場整備によるもので、畑地、田面掘削箇所、道路・水路設置箇所が対象である。調査対象箇所に26本の試掘トレンチを設置した (T1～T26)。

T3では北端から4m、深さ20cmの地点で土坑一基を確認した。同時に縄文土器が出土したことから、縄文時代の遺構と思われる。T5北端から130cm、深さ20cmの地点で古代の住居跡が確認された。大きさは一辺約3mの隅丸方形、焼性は弱いが焼土を伴い、埋土に十和田aと思われる火山灰が混じる。このトレンチからは、住居跡と同じ検出面でから縮小穴状遺構も確認されている。T9では、深さ20cmから住居跡1棟を確認した。この付近の基本層序は表土直下地山で遺構上面は畑地の耕作のため削平されていた。埋土にはT5の住居跡と同じように十和田aと思われる火山灰が混じる。この遺構の埋土から須恵器が出土した。T11では、約50×50cmの焼土を深さ60cm、基本層序第Ⅲ層上面で確認した。プランは明確ではなかったが住居跡に伴うものと判断した(住居状遺構)。T14でも古代の住居跡と思われる遺構を表直下15cmで確認した。遺構は削平されており、半分が残るだけであった。

水路設置予定箇所は現況の水路とほぼ同じルートを通るため、平行する道路設置箇所にトレンチを設定したが、沢筋で遺構及び遺物は確認できなかった。T26から西側は地形が急に落ち込み、急斜面になることからトレンチは設定しなかった。調査結果から、縄文と古代の複合遺跡であることが確認された。



第136図 駒場沢遺跡位置図



第137図 駒場沢遺跡調査区位置図

#### 44 経営体育成基盤整備事業大川目地区

中田遺跡（J F 28-2299）

所在地：久慈市大川町地内

事業者：宮古地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成15年11月10日～11日（2日間）

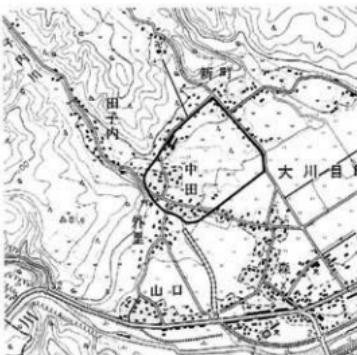
遺跡は、久慈市役所から西へ5.5kmの距離の久慈川左岸の沖積平野と標高21～25mの丘陵が接する位置にあり、現況は水田等になっている。

は場整備事業実施にあたり、事業予定地内の埋蔵文化財の有無を確認するため、切り土予定田面、水路、農道予定地を中心にして99本の試掘トレーニングを設定した。

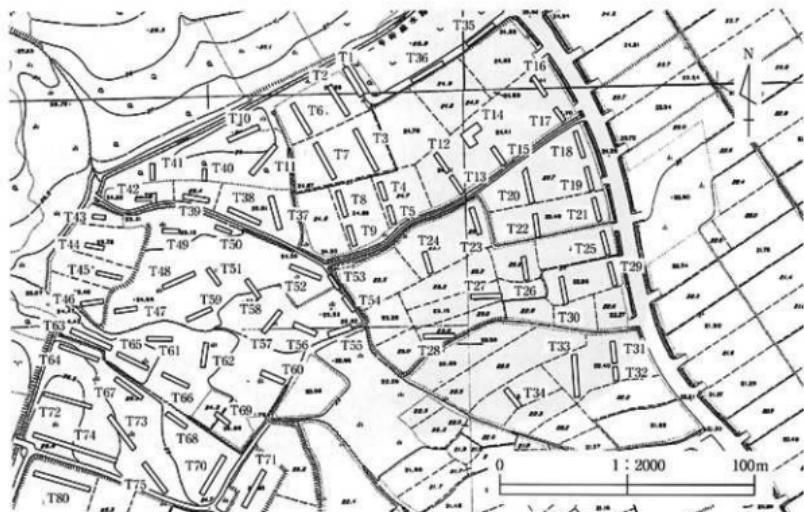
調査の結果、T7、T14、T37、T74では直径0.3～1.5m程のビットが1基ずつ、T63～65では直径0.85～1.1m

程の複数のビットが発見されたが、遺物は出土しなかった。これらの試掘トレーニングが設定されたのは遺跡範囲の中でも、標高が高い箇所で、これより標高の低い箇所では遺構、遺物は確認されず、試掘調査の層序観察からも沢状地形、谷地状地形と推定され、粘土や砂屑が厚く堆積していた。

また事業予定地外のT35、T36北側の畑地では土器、T80～T83西側の畑地では土師器、鉄滓が表採された。  
(平成16年度本発掘調査予定)



第138図 中田遺跡位置図



第139図 中田遺跡調査区位置図

#### 45 農免農道整備事業

上野場3遺跡 (IF 61-2348)

所在地：九戸郡軽米町大字晴山字上野場地内

事業者：二戸地方振興局農政部二戸農村整備室

調査期日：平成15年10月10日

遺跡は軽米町北部の晴山地区にあり、青森県境に近い場所である。遺跡付近の標高は210m前後を測り、現況は畑地と山林が中心である。岩手県遺跡台帳には縄文時代（後期・晚期）の散布地として登録されている。

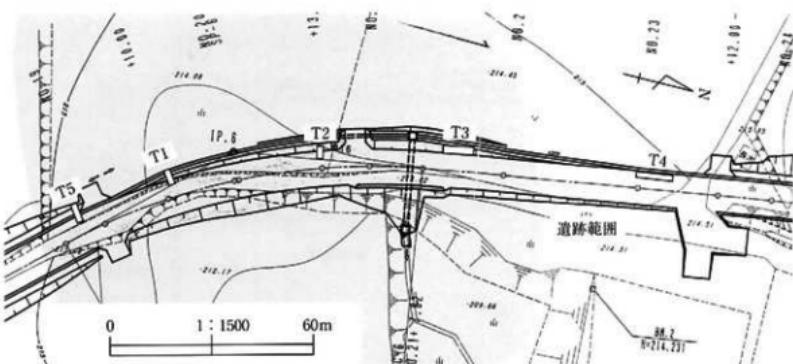
今回、農道建設にあたり事業予定地の埋蔵文化財の有無を確認するため試掘調査を行った。試掘トレンチは合計5箇所設定した（T1～T5）。その結果、T2～T4において埋蔵文化財が確認された。T2では現地表から

1m下で、東西方に黒褐色土埋上の陥穴状遺構が2基確認され、片方の規模は幅50cm、長さ170cm以上であった。周囲から縄文時代前期と晚期の土器が出土した。T3では表土下に黒褐色土（90cm）があり、遺物量が比較的少ない遺物包含層が発見された。いわゆるゴロタと呼ばれる南部浮石層は、地表下160cm程の所に堆積していた。T4ではT3と同様に遺物包含層が確認されたが、厚さは50cmと薄くなっていた。ここでは、農業用機械によると思われる掘削がところどころ見受けられ、擾乱の様相を呈していた。擾乱は地表下110cmまで及んでおり、南部浮石層は地表下100cmのところで確認された。T4より奥に露頭があり、土層観察が可能であったが、遺物、遺構とも確認できなかった。T1では遺構、遺物とも発見されず。黒色土が200cm程、堆積しており、周囲の地形から谷地形に流れ込んだ土が厚く堆積している箇所と判断した。T5は、遺構、遺物とも発見されず、南部浮石層は地表下50cmで確認されており、黒色土の堆積が薄い。

調査区は、縄文時代前期と晚期の土器が出土し、陥穴状遺構が検出していることから、近くに竪穴住居跡が所在する可能性も有り、縄文時代の集落であったことも予想される。（平成16年度本発掘調査予定）



第140図 上野場3遺跡位置図



第141図 上野場3遺跡調査区位置図

#### 46 農免農道整備事業

サイカツ平遺跡（JE36-2025）

所在地：二戸郡淨法寺町長袖地内

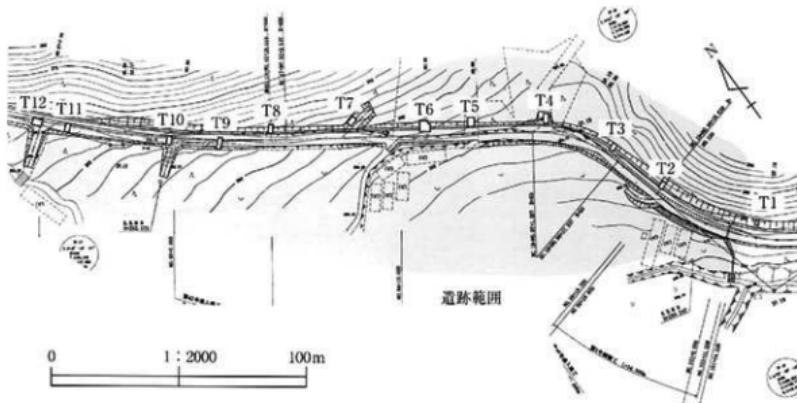
事業者：二戸地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成15年5月27日

遺跡は淨法寺町役場の南西約3kmに位置し、安比川左岸の丘陵地帯に立地する。現況は主に山林となっており一部の緩斜面に畠地が広がっている。今回の試掘調査は、農免道の建設に伴うもので、該当箇所に試掘トレンチを12本設定した（T1～T12）。調査区の北側に当たる現道の山側に試掘トレンチのT1～T8を設定した。表土下に黒褐色土の堆積が見られたが遺構・遺物とも確認することはできなかった。T9以降は緩斜面の縁辺部に設定した。T9では表土層下の黒褐色土層中で直径約30cmの焼土遺構を検出した。表土から検出面までの深さは50cmで、焼土遺構の周囲には第Ⅱ層の明褐色土と第Ⅲ層の褐色粘土層をブロックに含む、平坦な硬化面を確認した。これを床面とする竪穴住居跡の可能性が推測される。T10はT9と類似した堆積状況を示し、地形的に連続するものと考えられるが遺構・遺物とも確認することはできなかった。T11・T12は層間に灰白色火山灰層を挟んだ黒褐色粘土質シルトが厚く堆積し、人頭大の礫が乗ったグライ化した基本層序の第Ⅲ層の褐色粘土層が底面となっている。堆積状況や現地形の起伏から沢跡と考えられる。T11の黒色土中からは、縦位の燃糞紋を地紋に持つ繩文土器片が1点出土している。以上のことから、竪穴住居跡と思われる焼土遺構を検出したT9は、T11・T12で検出された沢跡と北側の丘陵緩斜面に挟まれた面に位置することから、これに連続する調査区中央部一帯はかつて集落であった可能性が高いと思われる。（平成16年度本発掘調査予定）



第142図 サイカツ平遺跡位置図



第143図 サイカツ平遺跡調査区位置図

#### 47 緊急地方道B（雪寒）整備事業

大道口遺跡（I F 65-2176）

所在地：九戸郡軽米町大字上館地内

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成16年2月6日

遺跡は、軽米町役場より東南約8.7kmに位置する。丘陵の東緩斜面に立地し、標高は285m前後を測る。調査区の現況は、水田及び細地となっている。平成10年度、平成12年度、道路拡幅に伴い試掘調査を実施している。平成12年度の試掘調査では、縄文土器片が出土し、土坑1基が確認されている。今回の調査は、道路拡幅に伴うものである。調査対象箇所に3本のトレンチを設定した。

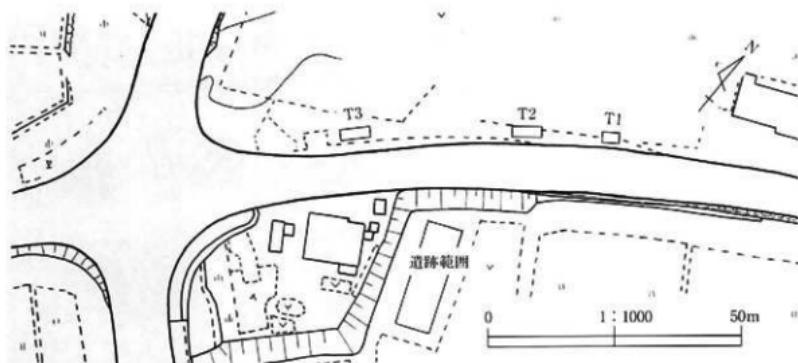
調査の結果、丘陵の先端部に設定したT3から、陥り穴状造構1基を確認した。T3の基本層序第II層黒褐色土層下位は、間の層が失われており、第VI層の淡黄褐色土となっていた。陥り穴状造構は淡黄褐色土の上面、地表面から深さ80cmで確認されている。長さは、200cm以上、幅（短軸）は、約150cmの梢円形を呈していた。埋土は、基本層序第III層、IV層にあたる黒色土と橙色バミスの互層であった。

東側から延びる丘陵と西側から延びる丘陵がぶつかった場所にT1、T2を設定した。T1及びT2では、表土直下約100cmで橙色バミスを確認した。その下層に造構がないか第VI層の地山まで下げたが、確認できなかった。湧水があったこと、地形から判断して、T1、T2を設定した場所は沢跡と判断した。

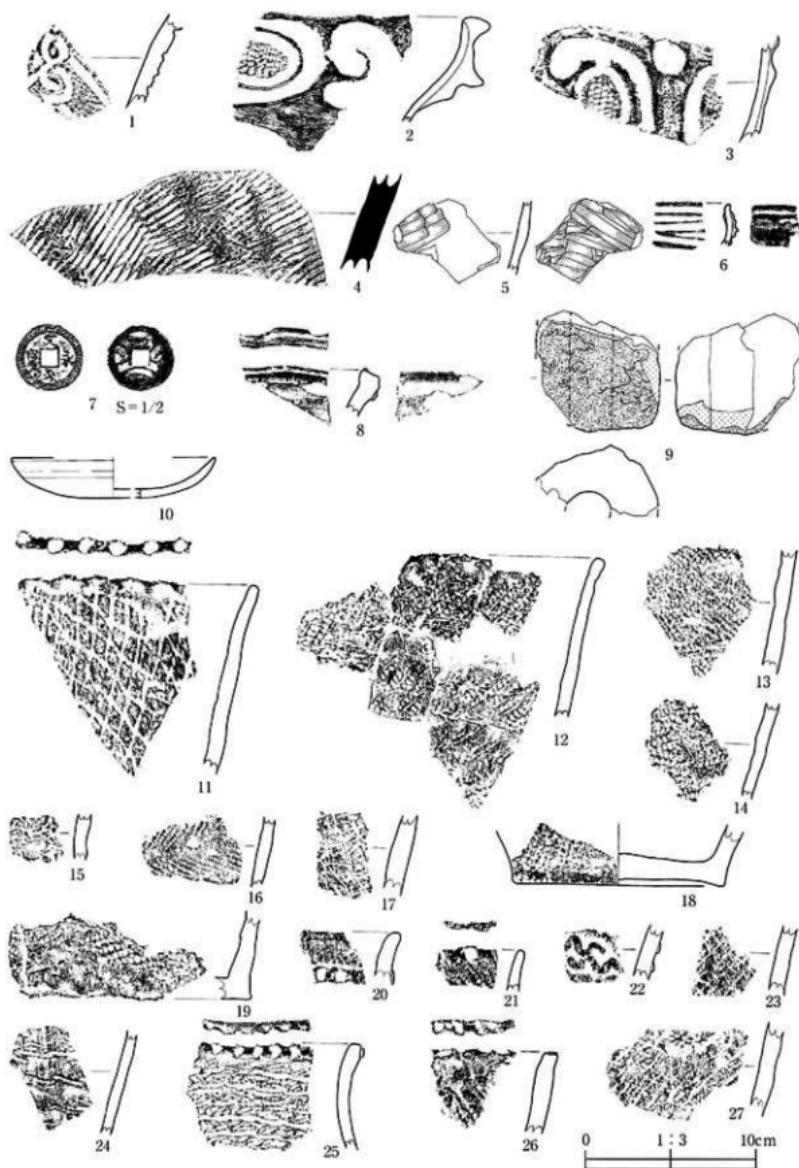
今回の調査の結果、遺跡本体は、沢を挟んで西側に延びる丘陵部上面ではないかと推測される。



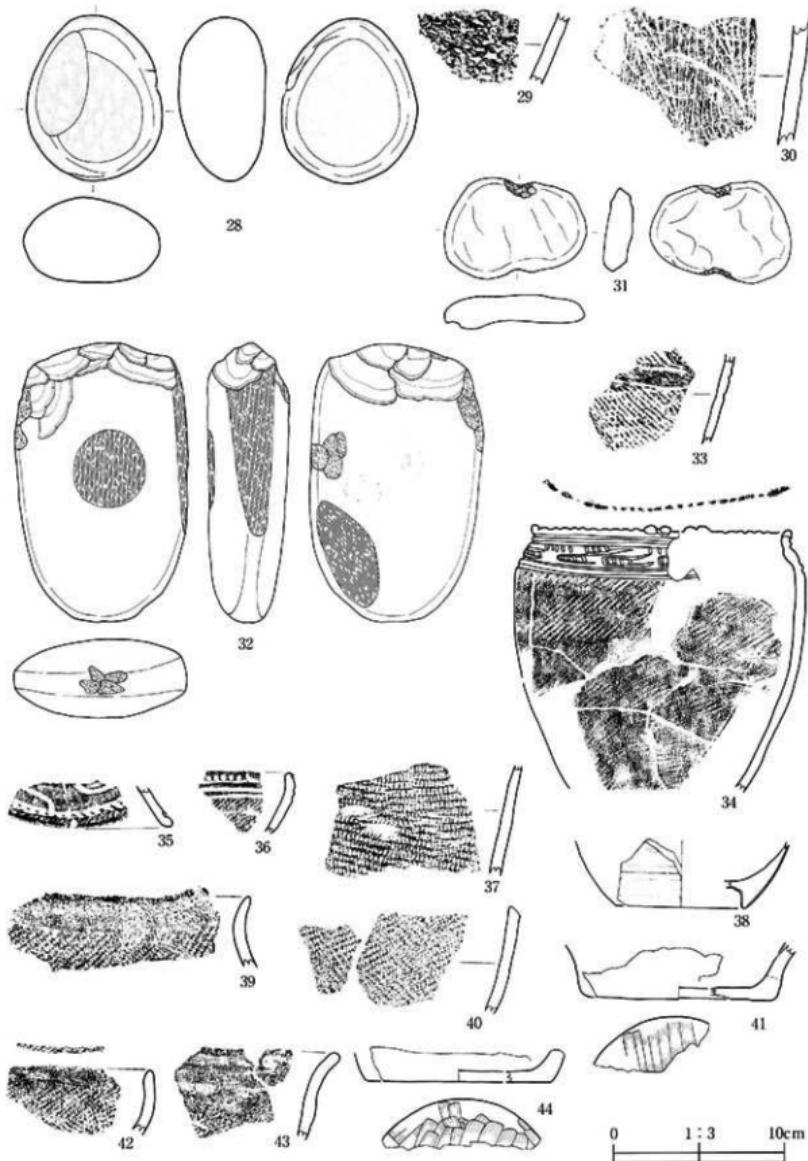
第144図 大道口遺跡位置図



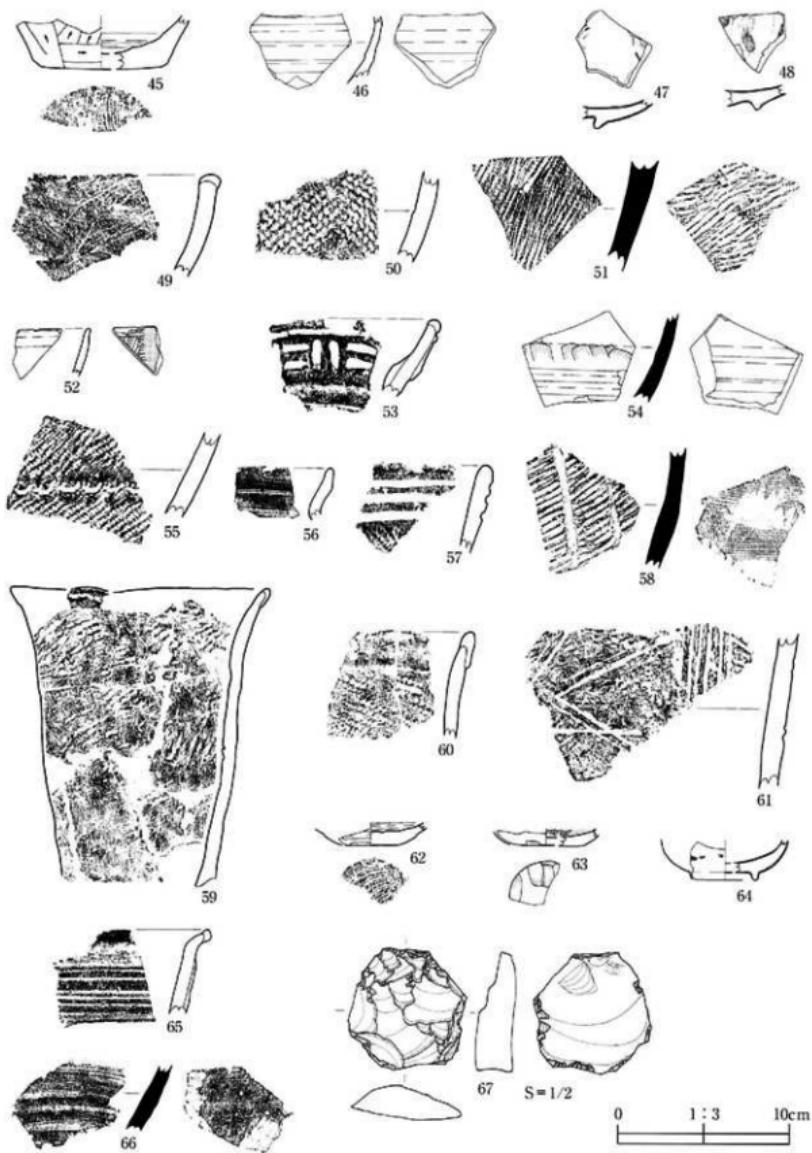
第145図 大道口遺跡調査区位置図



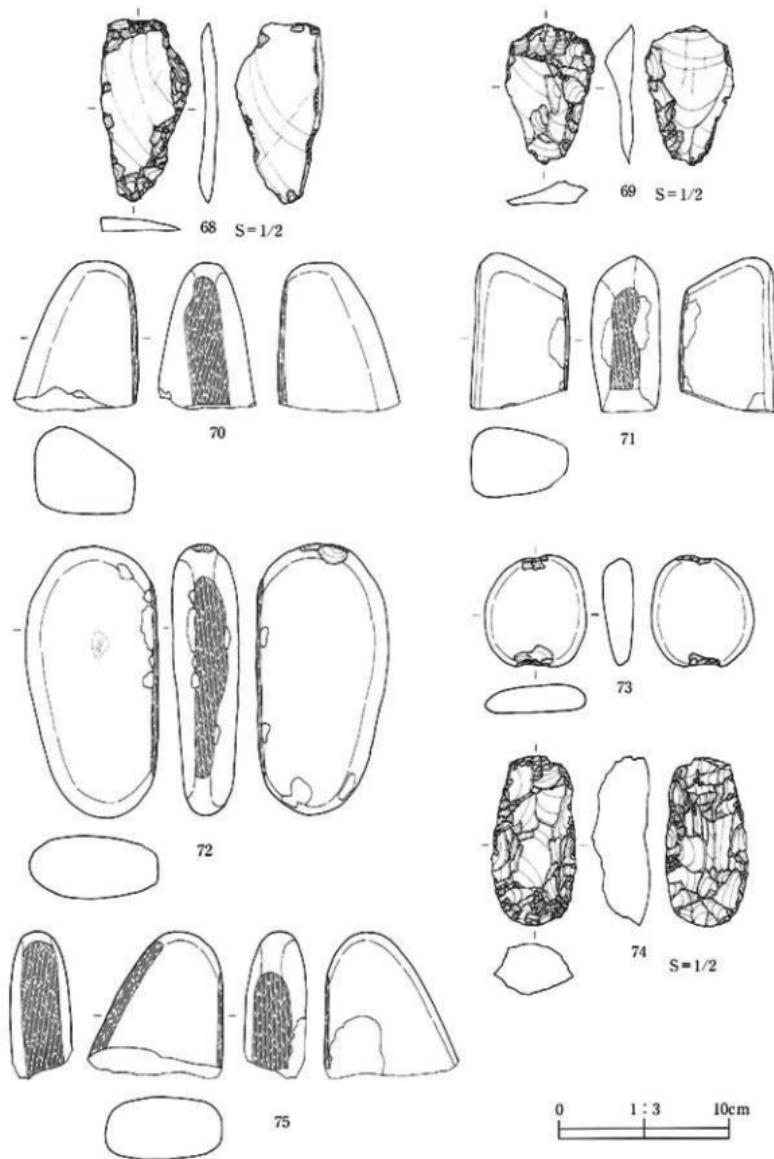
第146図 県内遺跡試掘調査出土遺物 1



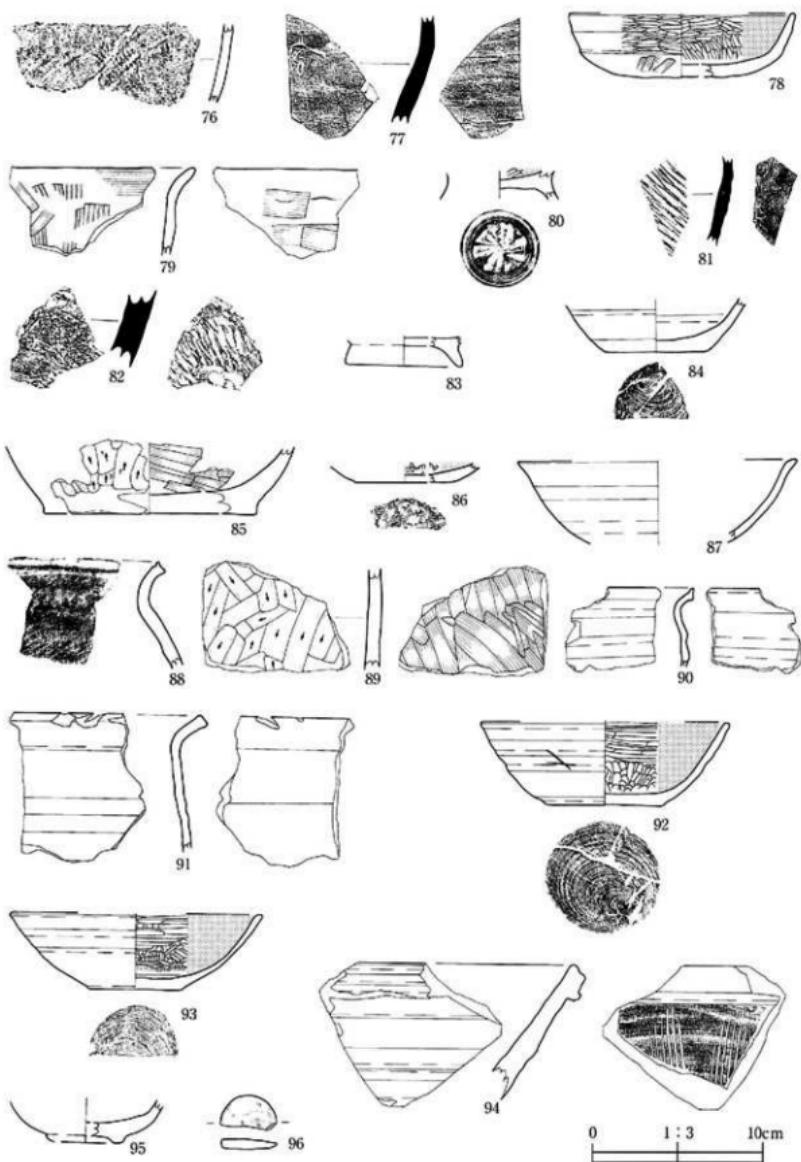
第147図 県内遺跡試掘調査出土遺物 2



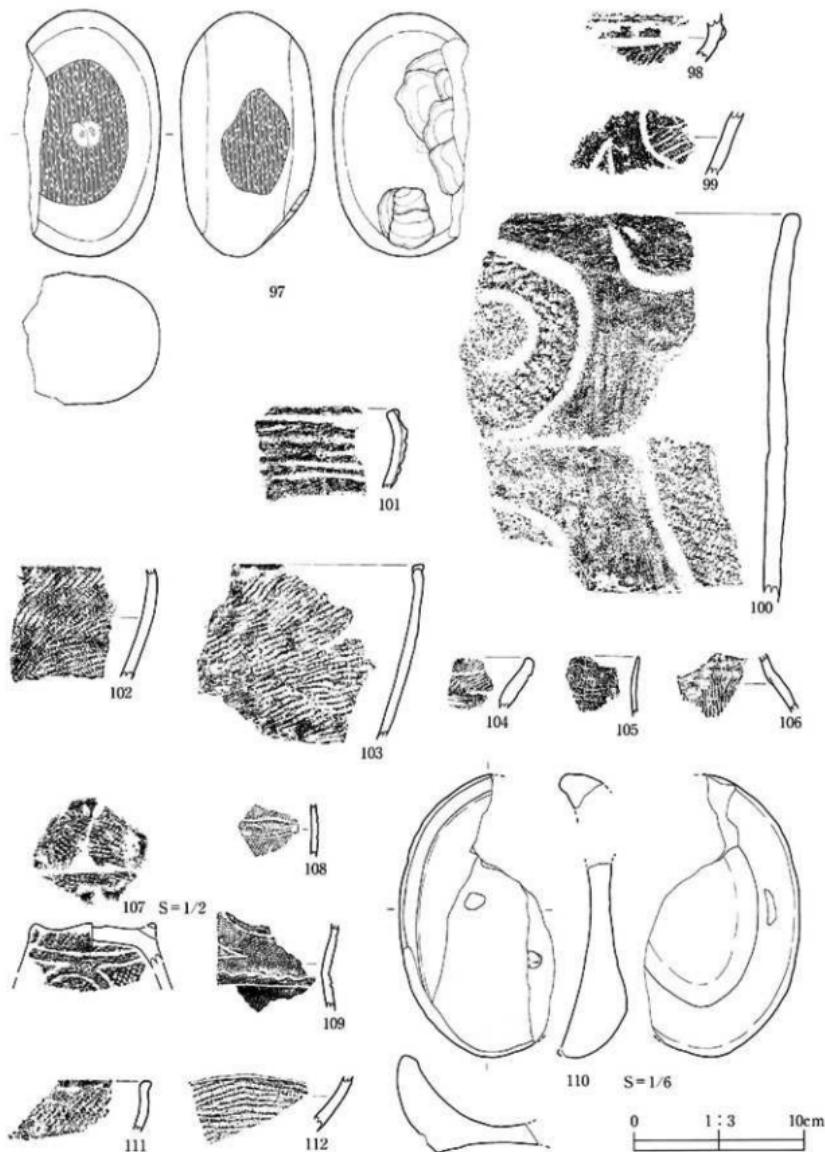
第148図 県内遺跡試掘調査出土遺物 3



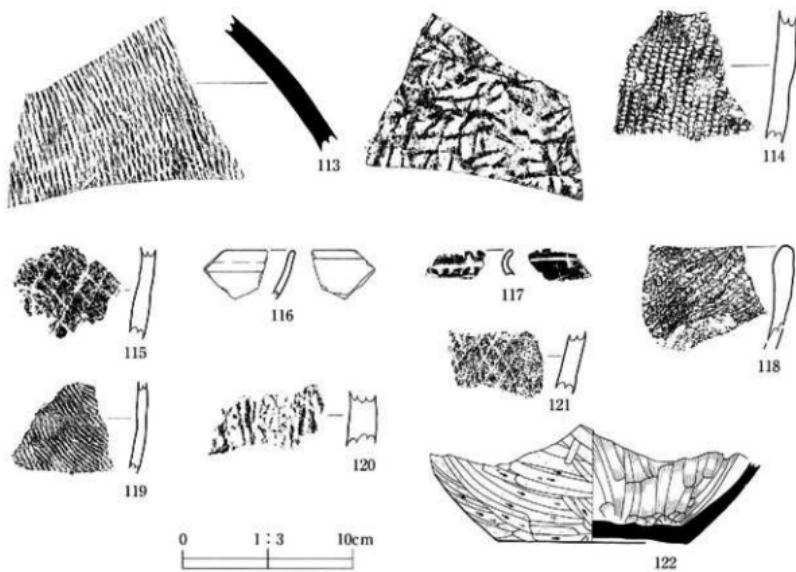
第149図 県内遺跡試掘調査出土遺物 4



第150図 県内遺跡試掘調査出土遺物 5



第151図 県内遺跡試掘調査出土遺物 6



第152図 県内遺跡試掘調査出土遺物 7

県内遺跡試掘調査出土遺物

| 番号 | 遺跡名    | 出土地点・器種・特徴     | 番号 | 遺跡名     | 出土地点・器種・特徴       |
|----|--------|----------------|----|---------|------------------|
| 1  | 移の堂道路  | T2. 楔文後期前葉     | 21 | 寺野道路    | 表様、深鉢、波状口縁、R.L.  |
| 2  | 移の堂道路  | T3. 楔文中期中葉     | 22 | 寺野道路    | T17. 包含層 深鉢、貼付   |
| 3  | 移の堂道路  | T3. 楔文中期中葉     | 23 | 寺野道路    | T17. 包含層 深鉢 捺糸   |
| 4  | 熊堂B道路  | T5. 須忠器型       | 24 | 寺野道路    | T17. 包含層 深鉢      |
| 5  | 熊堂B道路  | T9. 土師器型       | 25 | 寺野道路    | 表様 深鉢、絞繩文        |
| 6  | 高木中館道路 | T4. 楔文晚期大割A式   | 26 | 寺野道路    | 表様 深鉢、撚糸文        |
| 7  | 高木中館道路 | 文久永寶銅錢         | 27 | 寺野道路    | 表様 深鉢、附加条        |
| 8  | 長根I道路  | 近世陶器           | 28 | 寺野道路    | 表様 磨石            |
| 9  | 押切道路   | T1. 羽口I        | 29 | 二升石道路   | T1 III層上面、無節     |
| 10 | 六日市場道路 | T2. 主師器坏       | 30 | 二升石大根道路 | T17. 本日状撲糸文      |
| 11 | 寺野道路   | T1 L1縁部、網目状撲糸文 | 31 | 二升石大根道路 | T17 敵磨石          |
| 12 | 寺野道路   | T1 口縁部、綾格文     | 32 | 二升石大根道路 | T16 石筆           |
| 13 | 寺野道路   | T1 楔文L.R       | 33 | 沼袋道路    | T9 包含層II層中、無節    |
| 14 | 寺野道路   | T1 楔文L.R.L     | 34 | 大西道路    | T10 III層中、大割B.C式 |
| 15 | 寺野道路   | T1 原体不明        | 35 | 大西道路    | T10 III層中、台部     |
| 16 | 寺野道路   | T1 羽状撲糸L.R     | 36 | 大西道路    | T10 III層中、沈難文    |
| 17 | 寺野道路   | T5 墓土、原体不明     | 37 | 中村道路    | T2 L.R (多条)      |
| 18 | 寺野道路   | T6 底部、嗣代、L.R.L | 38 | 畠中道路    | T2 理土中 陶器        |
| 19 | 寺野道路   | T16 底部、嗣代、L.R  | 39 | 畠中道路    | T18 L.R          |
| 20 | 寺野道路   | 表様 深鉢、撲糸文、隕荷   | 40 | 畠中道路    | T18 羽状L.R        |

| 番号 | 遺跡名  | 出土地点・器種・特徴     | 番号  | 遺跡名       | 出土地点・器種・特徴                      |
|----|------|----------------|-----|-----------|---------------------------------|
| 41 | 畠中遺跡 | T18 底部         | 83  | 山口遺跡      | T17 溝埋土上部 高台坏                   |
| 42 | 畠中遺跡 | T18 羽状LR       | 84  | 山口遺跡      | T39 須恵器坏底部                      |
| 43 | 畠中遺跡 | T18 原体不明       | 85  | 小川屋敷遺跡    | T1 土師器                          |
| 44 | 畠中遺跡 | T18 底部         | 86  | 小川屋敷遺跡    | T3 土師器坏底部                       |
| 45 | 新平遺跡 | T5 土師器         | 87  | 小川屋敷遺跡    | T6 土師器坏                         |
| 46 | 新平遺跡 | T5 土師器甕        | 88  | 小川屋敷遺跡    | T6 土師器坏                         |
| 47 | 新平遺跡 | T17 近世陶器       | 89  | 小川屋敷遺跡    | T6 土師器坏                         |
| 48 | 新平遺跡 | T18 表上、近世陶器    | 90  | 小川屋敷遺跡    | T6 土師器坏                         |
| 49 | 新平遺跡 | T18 付近 表様、土師器  | 91  | 内屋敷遺跡     | 不明 土師器 ロクロ                      |
| 50 | 新平遺跡 | T21 梓文L R      | 92  | 道上遺跡      | T39 オリ石                         |
| 51 | 新平遺跡 | T23 須恵器        | 93  | 道上遺跡      | T16 土師器坏 内黒                     |
| 52 | 新平遺跡 | T23 土師器坏、内黒    | 94  | 道上遺跡      | T122 オリ鉢                        |
| 53 | 新平遺跡 | T24 包含層、沈線文    | 95  | 道上遺跡      | T122 四隅破                        |
| 54 | 新平遺跡 | T25 包含層、須恵器甕   | 96  | 道上遺跡      | T125 円盤状石製品                     |
| 55 | 新平遺跡 | T25 蔽織文L R     | 97  | 道上遺跡      | T39 磨石                          |
| 56 | 新平遺跡 | T25 土師器甕       | 98  | 金打遺跡      | T10 口縁部、沈線文                     |
| 57 | 新平遺跡 | T26 RL、平行沈線文   | 99  | 金打遺跡      | T16 口縁部、沈線文                     |
| 58 | 新平遺跡 | T26 須恵器甕       | 100 | 金打遺跡      | T19 口縁部、大木A式                    |
| 59 | 新平遺跡 | T29 純文L R      | 101 | 谷谷堂駒沢II遺跡 | 純文晩期                            |
| 60 | 新平遺跡 | T29 純文L R      | 102 | 大登I遺跡     | T8 純文L R                        |
| 61 | 新平遺跡 | T29 沈線文        | 103 | 大登I遺跡     | T10 沈線文RL                       |
| 62 | 新平遺跡 | T31 土師器系切り     | 104 | 平山遺跡      | T3 L R→沈線文、内面ナデ                 |
| 63 | 新平遺跡 | T130 土師器坏内黒    | 105 | 平山遺跡      | T3 附加条、内面ナデ                     |
| 64 | 新平遺跡 | T130 近世陶器      | 106 | 平山遺跡      | T3 純文L R、内外面ナデ                  |
| 65 | 新平遺跡 | T133 土師器甕      | 107 | 平山遺跡      | T2 盖 突起4つ、うち貫通穴2箇所、L R→沈線文、内面ナデ |
| 66 | 新平遺跡 | T133 須恵器甕      |     |           |                                 |
| 67 | 新平遺跡 | T18 二次加工ある調片   | 108 | 平山遺跡      | T7 L R→沈線文、内面ナデ                 |
| 68 | 新平遺跡 | T15 スクレイパー     | 109 | 平山遺跡      | 表様 L R→沈線文、三角形文                 |
| 69 | 新平遺跡 | T17 付近表様、洞片石器  | 110 | 平山遺跡      | T8 退拂埋土 石皿                      |
| 70 | 新平遺跡 | T28 付近表様 スリ石   | 111 | 中宿遺跡      | 土坑埋土上面、L R                      |
| 71 | 新平遺跡 | T28 スリ石        | 112 | 中宿遺跡      | 土坑埋土上面、L R→平行沈線文、純文晩期大木A式       |
| 72 | 新平遺跡 | T28 磁石器 磁打面・磨面 |     |           |                                 |
| 73 | 新平遺跡 | T28 付近 表様      | 113 | 駒場沢遺跡     | T5 須恵器                          |
| 74 | 新平遺跡 | T29 石べラ        | 114 | 駒場沢遺跡     | T8 純文R L                        |
| 75 | 新平遺跡 | 農造表様、滑り面あり     | 115 | 駒場沢遺跡     | T8 刺目状撚糸文                       |
| 76 | 中島遺跡 | T21 深鉢         | 116 | 駒場沢遺跡     | 不明 环                            |
| 77 | 中島遺跡 | T21 須恵器甕       | 117 | 上野場3遺跡    | T2 深鉢胴部、純文晩期前葉                  |
| 78 | 中島遺跡 | 表様 土師器坏 内黒     | 118 | 上野場3遺跡    | T3 深鉢胴部、純文L R                   |
| 79 | 中島遺跡 | 表様 土師器甕        | 119 | 上野場3遺跡    | T3 深鉢胴部、純文R L                   |
| 80 | 中島遺跡 | 表様 高台坏 内黒      | 120 | サイカツ平埴遺跡  | 燃系文                             |
| 81 | 中島遺跡 | 表様 須恵器甕        | 121 | 駒場遺跡      | T2 深鉢 燃系文                       |
| 82 | 中島遺跡 | 表様 須恵器甕        | 122 | 駒場遺跡      | T3 北端 2層中 須恵器 深鉢？ 内面の底に鉄片着      |

## 分布調查一覽

1. 上海之人類遺物 著者：南洋林地委員會林務處

調査期日：昭和15年4月15日

著者名：臺灣地方林務局總調查科

| No. | 通路口 - F       | 道跡名   | 時代 | 遺物・遺物 | 種別  | 備考       |
|-----|---------------|-------|----|-------|-----|----------|
| 1   | M E 06 - 0302 | 施內內道路 | 中洪 |       | 城塹跡 | 石鳥嘴字相田の風 |
| 2   | M E 06 - 0300 | 施諾施道路 | 中洪 |       | 城塹跡 | 石鳥嘴字相田の風 |
| 3   | M E 06 - 0208 | 江管道路  | 韓文 |       | 遺物地 | 石鳥嘴字江管   |
| 4   | M E 06 - 0123 |       | 平安 | 鐵器    | 遺物地 | 石鳥嘴字江管   |

2. 中山國總括介遺物 著者：南洋林地委員會

調査期日：昭和15年4月28日

著者名：臺灣地方林務局總調查科

| No. | 通路口 - F | 道跡名 | 時代 | 遺物・遺物 | 種別  | 備考   |
|-----|---------|-----|----|-------|-----|------|
| 1   |         |     |    |       | 遺物地 | 過路なし |

3. 動官省新規開拓地調查委員會

調査期日：昭和15年5月12日

著者名：臺灣地方林務局新規開拓地委員會

| No. | 通路口 - F       | 道跡名    | 時代 | 遺物・遺物 | 種別  | 備考        |
|-----|---------------|--------|----|-------|-----|-----------|
| 1   | J F 07 - 2294 | 上承川引道路 | 韓文 |       | 遺物地 | 西郭町二ツ尾地内  |
| 2   | J F 17 - 0306 |        | 迄井 | 瓦片    | 遺物地 | 大野町大字迄井地内 |

4. 村落間水路網沿地性農具集落

調査期日：昭和15年5月12日～16日

著者名：大野村

| No. | 通路口 - F       | 道跡名     | 時代      | 遺物・遺物  | 種別  | 備考                 |
|-----|---------------|---------|---------|--------|-----|--------------------|
| 1   | J F 17 - 0337 | 大浪 1 号耕 | 韓文      |        | 遺物地 | 大野村 1 字水引第 10 地塊地内 |
| 2   | J F 17 - 0339 | 大浪 1 号耕 | 韓文 - 白代 | 土陶器、瓦片 | 遺物地 | 大野村 1 字水引第 10 地塊地内 |

5. 村落水路網沿地性農具集落

調査期日：昭和15年5月15日～16日

著者名：大野村

| No. | 通路口 - F       | 道跡名   | 時代      | 遺物・遺物 | 種別  | 備考            |
|-----|---------------|-------|---------|-------|-----|---------------|
| 1   | K F 01 - 0317 | 志田引道路 | 韓文      |       | 遺物地 | 島崎町 1 字本志田引地内 |
| 2   | K F 01 - 0320 | 御足道路  | 韓文 - 韓生 | 弦生土器  | 遺物地 | 島崎町 1 字本志田引地内 |

6. 平原田上治田水路工事委

調査期日：昭和15年5月23日

著者名：島崎町

| No. | 通路口 - F       | 道跡名   | 時代 | 遺物・遺物 | 種別  | 備考          |
|-----|---------------|-------|----|-------|-----|-------------|
| 1   | J G 10 - 0264 | 木原方道路 | 韓文 |       | 遺物地 | 久慈町木原方字木原方内 |
| 2   |               |       |    |       | 遺物地 |             |

|                               |            |           |       |       |     |             |
|-------------------------------|------------|-----------|-------|-------|-----|-------------|
| 8. 基盤地盤被災事案                   |            |           |       |       |     |             |
| No.                           | 道路コード      | 道路名       | 時代    | 遺構・遺物 | 性質  | 備考          |
| 1                             | J_F93-1292 | 人ノ道跡      | 縄文    |       | 散在地 |             |
| 9. 精密地形測量標示案                  |            |           |       |       |     |             |
| No.                           | 道路コード      | 道路名       | 時代    | 遺構・遺物 | 性質  | 備考          |
| 1                             | L_E87-0228 | 寺沢跡       | 縄文・奈良 |       | 柱洞  |             |
| 2                             | L_E87-0229 | 小瀬川遺跡     | 古代    |       | 散在地 | 新潟市新津市寺沢町内  |
| 3                             | L_E78-2050 | 鶴越(深堀)・船堀 | 中世    |       | 散在地 | 新潟市新津市寺沢町内  |
| 4                             | L_E78-2059 | 牛ノ瀬跡      | 中世～近世 |       | 城郭跡 | 新潟市新津市寺沢町内  |
| 10. 深水防除事業「引田地区」              |            |           |       |       |     |             |
| No.                           | 道路コード      | 道路名       | 時代    | 遺構・遺物 | 性質  | 備考          |
| 1                             |            |           |       |       | 未特定 | 通路なし        |
| 11. 治山修善計画                    |            |           |       |       |     |             |
| No.                           | 道路コード      | 道路名       | 時代    | 遺構・遺物 | 性質  | 備考          |
| 1                             | M_E96-2255 | 新東寺下木道    | 古代    |       | 古墳  | 新潟市東区新東寺内   |
| 2                             | M_E96-2133 | 金ヶ崎城      | 中世    |       | 城郭跡 | 金ヶ崎城内       |
| 12. 特定交通安全施設整備事業「北上田跡区歩道整備工事」 |            |           |       |       |     |             |
| No.                           | 道路コード      | 道路名       | 時代    | 遺構・遺物 | 性質  | 備考          |
| 1                             | L_D96-1043 | 小坂        | 縄文    |       | 散在地 | 新潟市南魚沼郡湯沢町内 |
| 2                             | L_D96-0059 | 伴田        | 縄文    |       | 散在地 | 新潟市南魚沼郡湯沢町内 |

13 三棱冠貝形動脈瘤（空管瘤）之整復手術

調査期間：昭和16年1月26日～2月3日(1)～25.11

立案者：岡山交通省東北地方整備局 三飼國道事務所

| No. | 通路名        | 道路名     | 時代    | 通路・道路 | 種別  | 所在地               | 備考 |
|-----|------------|---------|-------|-------|-----|-------------------|----|
| 1   | L.G41-2394 | 金沢N     | 绳文    |       | 散布地 | 官古山金沢第4施設跡ヶ崎      |    |
| 2   | L.G43-2384 | 金沢田     | 绳文・古代 |       | 散布地 | 官古山金沢第4施設跡ヶ崎      |    |
| 3   | L.G43-2363 | 金沢U     | 古代    |       | 散布地 | 官古山金沢第2施設ヶ崎       |    |
| 4   | L.G41-2312 | 金沢I     | 绳文    |       | 散布地 | 官古山金沢第2施設ヶ崎       |    |
| 5   | L.G43-2369 | 糸の樽     | 绳文    |       | 散布地 | 官古山金沢第1施設ヶ崎       |    |
| 6   | L.G43-1257 | 八木沢野坂   | 绳文    |       | 散布地 | 官古山八木沢野坂          |    |
| 7   | L.G41-1244 | 八木沢野坂II | 绳文    |       | 散布地 | 官古山八木沢野坂II        |    |
| 8   | L.G43-1206 | 八木沢野坂 I | 绳文・古代 |       | 散布地 | 官古山八木沢野坂I         |    |
| 9   | L.G43-0228 | 八木沢野坂   | 古代    |       | 生垣地 | 官古山八木沢野坂3施設中H4    |    |
| 10  | L.G41-0206 | 八木沢II   | 绳文    |       | 散布地 | 官古山八木沢3施設中H4      |    |
| 11  | L.G33-2392 | 田原里     | 绳文・古代 |       | 散布地 | 官古山田原里3施設中H4      |    |
| 12  | L.G33-2363 | 木戸井内窓   | 绳文・古代 |       | 散布地 | 官古山木戸井内窓14施設各J1井内 |    |
| 13  | L.G33-2214 | 木戸井内窓   | 古代    |       | 散布地 | 官古山木戸井内窓14施設各J1井内 |    |
| 14  | L.G33-2360 | 田原里     | 绳文    |       | 散布地 | 官古山田原里3施設中H4      |    |
| 15  | L.G33-2166 | 長山大曲田証  | 古代    |       | 散布地 | 官古山長山大曲田7施設       |    |
| 16  | L.G33-2162 | 長山下谷地   | 绳文・古代 |       | 散布地 | 官古山長山下谷地8施設11谷地   |    |

14 簡用通合修復手術

調査期間：昭和16年3月19日

立案者：東京医師会附属病院

| No. | 通路名        | 道路名 | 時代 | 通路・道路 | 種別  | 所在地     | 備考 |
|-----|------------|-----|----|-------|-----|---------|----|
| 1   | K.G01-2015 | 楓牛I | 绳文 |       | 散布地 | 菅代村楓牛I  |    |
| 2   | K.G01-2113 | 楓牛  | 绳文 |       | 散布地 | 菅代村楓牛II |    |

15 特定交通安全施設整備事業 丸尾田地区歩道整備工事

調査期間：昭和15年12月8日

立案者：北上地方高規制工事局

| No. | 通路名        | 道路名 | 時代 | 通路・道路 | 種別  | 所在地        | 備考 |
|-----|------------|-----|----|-------|-----|------------|----|
| 1   | L.D99-1013 | 小坂  | 绳文 |       | 散布地 | 西内村南小坂39地原 |    |
| 2   | L.D99-2060 | 神田  | 绳文 |       | 散布地 | 西内村南小坂38地原 |    |

## 平成15年度試験調査一覧

| No. | 調査期間           | 事業名                           | 事業者              | 施設名        | 所在地 |
|-----|----------------|-------------------------------|------------------|------------|-----|
| 1   | 平成15年4月1日～4日   | 注馬要塞整備 (H15-1)竹庭地区(西野原野)等小字地区 | 水沢地方振興局農林部農業課    | 占城上野道跡     | 前沢町 |
| 2   | 平成15年4月11日     | 篠崎要塞整備 (H15-1)竹庭地区(西野原野)等小字地区 | 岩手県教育委員会農業科学校財務課 | 教育研究道路     | 盛岡市 |
| 3   | 平成15年4月22日～24日 | 藤川地区合意整備事業 (H15-1)竹石(山根)      | 北上地方振興局農林部農業課    | 山根道跡       | 呉泉町 |
| 4   | 平成15年5月1日      | 中山間地域合意整備事業 (H15-1)竹石(山根)     | 北上地方振興局農林部農業課    | 大曾通跡       | 北上町 |
| 5   | 平成15年5月2日      | 注馬要塞整備                        | 北上地方振興局農林部農業課    | 御用道路       | 北上町 |
| 6   | 平成15年5月7日      | かんべ小字堤木美多 烏野野石地区              | 北上地方振興局農林部農業課    | 茶室道跡       | 北上町 |
| 7   | 平成15年5月16日～7日  | 注馬要塞整備 (H15-1)竹庭地区(西野原野)      | 北上地方振興局農林部農業課    | 南御前道路      | 北上町 |
| 8   | 平成15年5月16日～7日  | 注馬要塞整備 (H15-1)竹庭地区(西野原野)      | 北上地方振興局農林部農業課    | 中野道跡       | 北上町 |
| 9   | 平成15年5月16日～13日 | 注馬要塞整備 (H15-1)竹庭地区(西野原野)      | 北上地方振興局農林部農業課    | 新所半牛坂道跡    | 北上町 |
| 10  | 平成15年5月18日     | 一般国道8号小鳥谷バイパス改築工事             | 国土交通省青森県土木部計画課   | 中野道跡       | 一戸町 |
| 11  | 平成15年5月18日     | 道脇安達引葉                        | 信岡地方振興局農業課       | 里上本通(中野道跡) | 新里町 |
| 12  | 平成15年5月16日     | 通常歩行用                         | 油                | 雪          | 安代町 |
| 13  | 平成15年5月16日     | 道舗砂防事業                        | 油                | 雪          | 安代町 |
| 14  | 平成15年5月20日     | 両側6m×6m改築工事                   | 信岡地方振興局土木部岩手営業所  | 所治1通跡      | 西俣町 |
| 15  | 平成15年5月20日     | 両側6m×4m改築工事                   | 信岡地方振興局土木部岩手営業所  | H2250-2357 | 西俣町 |
| 16  | 平成15年5月22日     | 所治1通(御前原)改築工事                 | 西                | 町中野道跡      | 西俣町 |
| 17  | 平成15年5月25日     | 県免免税整備事業第2尾崎地区                | 二戸地方振興局農林部農業課    | 沼田道跡       | 桂木町 |
| 18  | 平成15年6月3日      | 急地力道整備事業 石鳥谷町(三郷地)地区          | 花巻地方振興局農業課       | 石鳥谷町       |     |
| 19  | 平成15年6月6日      | 伊川郷 12号紫雲渓河川改修事業              | 花巻地方振興局農業課       | 江利吉        |     |
| 20  | 平成15年6月6日      | 河川支流改修田中裏                     | 下北地方振興局農業課       | 東山町        |     |
| 21  | 平成15年6月6日      | 御前原地区改修事業                     | 国土交通省青森ダム工事事務所   | 相沢町        |     |
| 22  | 平成15年6月10日     | 私営ふるさと創造整備事業新井原地地区            | 北上地方振興局農林部農業課    | 本賀来道跡      | 深内村 |
| 23  | 平成15年6月17日     | 緊急地方道路整備タービブ                  | 本洪地方振興局農業課       | 七間宿道跡      | 江利町 |
| 24  | 平成15年6月18日     | 一般国道免許改修西所治バイパス改築工事           | 国土交通省青森県土木部      | 盛岡市        |     |
| 25  | 平成15年6月19日     | 河川支流改修事業                      | 葛                | 所治免通跡      | 总色町 |
| 26  | 平成15年6月19日     | 河川支流改修事業                      | 葛                | 御前道跡       | 总色町 |
| 27  | 平成15年6月22日     | 免許高須合併事業第2期地区                 | 二戸地方振興局農林部農業課    | 利根川町       |     |
| 28  | 平成15年6月26日     | 中山間地域合意整備事業日出代地区              | 久慈地方振興局農林部農業課    | 山形村        |     |
| 29  | 平成15年6月30日     | 藤川地区合意整備事業                    | 相資済会公团東之社土木工事支社  | 田野柳村       |     |

| No | 調査項目           | 事業名                 | 事業者                      | 道 民                      | 所在地                      |
|----|----------------|---------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 30 | 平成15年7月1日      | 町道山形山園路除雪工事         | 西 宮 古 地 方 振興局 土木部 人頭課    | 西 宮 古 地 方 振興局 土木部 人頭課    | 西 宮 古 地 方 振興局 土木部 人頭課    |
| 31 | 平成15年7月1日      | 地方特定道路整備事業          | [8] 土交省岩手河川国道事務所         | [8] 土交省岩手河川国道事務所         | [8] 土交省岩手河川国道事務所         |
| 32 | 平成15年7月1日～7月1日 | 一般国道4号危険車両バス改修工事    | [9] 土交省岩手河川国道事務所         | [9] 土交省岩手河川国道事務所         | [9] 土交省岩手河川国道事務所         |
| 33 | 平成15年7月8日～11日  | 一般国道4号危険車両バス改修工事    | [10] 土交省岩手河川国道事務所        | [10] 土交省岩手河川国道事務所        | [10] 土交省岩手河川国道事務所        |
| 34 | 平成15年7月10日～14日 | 一般国道4号危険車両バス改修工事    | [11] 土交省岩手河川国道事務所        | [11] 土交省岩手河川国道事務所        | [11] 土交省岩手河川国道事務所        |
| 35 | 平成15年7月14日     | 一般国道4号危険車両バス改修工事    | [12] 土交省岩手河川国道事務所        | [12] 土交省岩手河川国道事務所        | [12] 土交省岩手河川国道事務所        |
| 36 | 平成15年7月14日     | 砂防事業                | 宮 古 地 方 振興局 土木部 防災科行大臣通報 | 宮 古 地 方 振興局 土木部 防災科行大臣通報 | 宮 古 地 方 振興局 土木部 防災科行大臣通報 |
| 37 | 平成15年7月7日      | 砂防事業                | 宮 古 地 方 振興局 土木部 防災科      | 宮 古 地 方 振興局 土木部 防災科      | 宮 古 地 方 振興局 土木部 防災科      |
| 38 | 平成15年7月10日     | 国民いきわく南高農地整備事業      | 農林水産省いきわく南高農地整備事業事務所     | 農林水産省いきわく南高農地整備事業事務所     | 農林水産省いきわく南高農地整備事業事務所     |
| 39 | 平成15年7月11日     | 国民いきわく南高農地整備事業      | 農林水産省いきわく南高農地整備事業事務所     | 農林水産省いきわく南高農地整備事業事務所     | 農林水産省いきわく南高農地整備事業事務所     |
| 40 | 平成15年7月13日     | 砂防事業                | 大船渡地方整備局 砂防課             | 大船渡地方整備局 砂防課             | 大船渡地方整備局 砂防課             |
| 41 | 平成15年7月15日     | 緊急砂防道路整備事業          | 本莊地区水災対策担当課              | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      |
| 42 | 平成15年7月17日     | 砂防事業                | 本莊地区水災対策担当課              | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      |
| 43 | 平成15年7月17日     | 村石地区水災対策担当課         | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      |
| 44 | 平成15年7月17日     | 砂防事業                | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      |
| 45 | 平成15年7月17日     | 村石地区水災対策担当課         | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      |
| 46 | 平成15年7月18日     | 村立防災消防団事業           | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      |
| 47 | 平成15年7月18日     | 村立防災消防団2年度事業        | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      | 本 莊 地 方 振興局 土木部 人頭課      |
| 48 | 平成15年7月18日     | 緊急砂防道路整備事業          | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               |
| 49 | 平成15年7月22日     | 国民いきわく南高農地整備事業      | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               |
| 50 | 平成15年7月23日～29日 | 国民いきわく南高農地整備事業      | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               |
| 51 | 平成15年7月23日     | 国民いきわく南高農地整備事業      | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               |
| 52 | 平成15年7月25日～28日 | 国民いきわく南高農地整備事業      | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               | いさわ市農業整備事業               |
| 53 | 平成15年7月30日     | 学校施設保全事業(公立本莊小・中学校) | 宮手原教育委員会社会事務局学校財務課       | 宮手原教育委員会社会事務局学校財務課       | 宮手原教育委員会社会事務局学校財務課       |
| 54 | 平成15年7月30日     | 学校施設保全事業(公立本莊小・中学校) | 宮手原教育委員会社会事務局学校財務課       | 宮手原教育委員会社会事務局学校財務課       | 宮手原教育委員会社会事務局学校財務課       |
| 55 | 平成15年7月30日     | 緊急砂防道路整備事業          | 大船渡地方整備局 土木部 防災課         | 大船渡地方整備局 土木部 防災課         | 大船渡地方整備局 土木部 防災課         |
| 56 | 平成15年7月30日     | 緊急砂防道路整備事業          | 大船渡地方整備局 土木部 防災課         | 大船渡地方整備局 土木部 防災課         | 大船渡地方整備局 土木部 防災課         |
| 57 | 平成15年7月31日     | 地域活性化支援整備事業         | 住田町                      | 住田町                      | 住田町                      |
| 58 | 平成15年7月31日     | 地域活性化支援整備事業         | 住田町                      | 住田町                      | 住田町                      |
| 59 | 平成15年8月6日      | 海岸第1ダム建設工事          | 浪野地方振興局 土木部 防災課          | 浪野地方振興局 土木部 防災課          | 浪野地方振興局 土木部 防災課          |
| 60 | 平成15年8月25日     | 地方特定道路整備事業(赤崎村付近)   | 久慈地方振興局 土木部 防災課          | 久慈地方振興局 土木部 防災課          | 久慈地方振興局 土木部 防災課          |

| No. | 調査年月日           | 事業名                   | 事業費            | 着工日           | 開通日   | 所在地 |
|-----|-----------------|-----------------------|----------------|---------------|-------|-----|
| 61  | 平成15年8月29日      | 経営体行革基盤整備事業           | 北上地方振興局農林村營業室  | 北上地場道         | 北上・石井 |     |
| 62  | 平成15年8月25日      | 一般国道1号本線(ハイウェイ)改良工事   | 国土交通省岩手河川国道事務所 | 約6ヶ月後         | 水沢市   |     |
| 63  | 平成15年8月28日      | 主要地方道在毛いと島海岸区舗面整備設置工事 | 毛屯地方振興局土木部     | 自然整備          | 花巻市   |     |
| 64  | 平成15年9月3日       | 一般国道在り野調理所ハイウェイ改築工事   | 国土交通省岩手河川国道事務所 | 令和新規          | 盛岡市   |     |
| 65  | 平成15年9月5日       | 長者保育公園内施設整備工事         | 長一地区振興局農林村營業室  | 令和新規          | 松尾村   |     |
| 66  | 平成15年9月12日      | 中山間地域総合整備事業せいさい山地区    | 水沢地方振興局農林村營業室  | 各種既存道路        | 黒沢町   |     |
| 67  | 平成15年9月20日      | 一般国道在り野調理所ハイウェイ改築工事   | 千厩地方振興局農林村營業室  | 約1ヶ月後         | 千厩町   |     |
| 68  | 平成15年9月20日      | 特定交通安全施設整備事業          | 毛屯地方振興局土木部     | 下毛子道路         | 花巻市   |     |
| 69  | 平成15年9月29日      | 特定交通安全施設整備事業          | 船地区            | 毛屯地方振興局土木部    | 令和新規  | 花卷市 |
| 70  | 平成15年10月1日      | 在毛小学校整備事業             | 毛屯地方振興局農林村營業室  | 明治1道路         | 毛巻市   |     |
| 71  | 平成15年10月3日      | 中山間地域総合整備事業ハイウェイ改築工事  | 人前渡地方振興局農林村營業室 | 約1ヶ月後         | 田代町   |     |
| 72  | 平成15年10月7日      | 遠野場ドーム建設事業            | 遠野地方振興局土木部     | 高崎道路          | 遠野町   |     |
| 73  | 平成15年10月8日      | 河川災害防災工事              | 一級河川大門川河川区域    | 毛屯地方振興局土木部    | 下毛山道路 | 美郷町 |
| 74  | 平成15年10月8日      | 施設特定作業(公安)            | 毛屯地方振興局農林村營業室  | 馬鹿川前野道路       | 石鳥谷町  |     |
| 75  | 平成15年10月8日      | 施設特定作業(公安)            | 毛屯地方振興局農林村營業室  | 馬鹿川前野道路       | 石鳥谷町  |     |
| 76  | 平成15年10月9日      | 未認可道路のためハンドハウスマイン     | 岩手県林業技術センター    | 昭和10年道路       | 久慈市   |     |
| 77  | 平成15年10月10日     | 難免原道整備事業              | 難免原地区          | 二郎山道路         | 桂木町   |     |
| 78  | 平成15年10月10日     | 難免原道整備事業              | 難免原地区          | 二郎山2通路        | 桂木町   |     |
| 79  | 平成15年10月14日     | 緊急地方道整備事業一関北上線        | 水沢地方振興局農林村營業室  | 令和新規          | 江刺市   |     |
| 80  | 平成15年10月14日     | 道路改修事業                | 宮古地方振興局農林村營業室  | 中里道路          | 新里村   |     |
| 81  | 平成15年10月16日     | 経営体行革基盤整備事業           | 盛岡地方振興局農林村營業室  | 昭和60-0123     | 石鳥谷町  |     |
| 82  | 平成15年10月16日     | 経営体行革基盤整備事業           | 盛岡地方振興局農林村營業室  | 三井道路          | 石鳥谷町  |     |
| 83  | 平成15年10月16日     | 経営体行革基盤整備事業           | 盛岡地方振興局農林村營業室  | 上曾根道路         | 石鳥谷町  |     |
| 84  | 平成15年10月16日-17日 | 経営体行革基盤整備事業           | 水沢地方振興局農林村營業室  | 佐佐間道路         | 本沢町   |     |
| 85  | 平成15年10月20日-21日 | 中山間地域総合整備事業           | 大朝地方振興局農林村營業室  | 大朝野道路         | 大朝渕市  |     |
| 86  | 平成15年10月20日-21日 | 中山間地域総合整備事業           | 大朝山地区          | 時化性あり         | 大朝渕市  |     |
| 87  | 平成15年10月22日     | 経営体行革基盤整備事業           | 白山地区           | 水沢地方振興局農林村營業室 | 令和新規  | 南沢町 |
| 88  | 平成15年10月22日     | 経営体行革基盤整備事業           | 白山地区           | 内野色道路         | 黒沢町   |     |
| 89  | 平成15年10月22日     | 経営体行革基盤整備事業           | 白山地区           | 田代山道路         | 前沢町   |     |
| 90  | 平成15年10月23日     | 永田畠整備管理点検補修特別事業       | 水沢地方振興局農林村營業室  | 上島宿跡          | 押出町   |     |
| 91  | 平成15年10月23日     | 永田畠整備管理点検水封蓋特別事業      | 水沢地方振興局農林村營業室  | 長倉根道路         | 黒沢町   |     |



| No. | 調査期間           | 事<br>業<br>名                      | 事業者<br>名                     | 施<br>設<br>名           | 所<br>在<br>地 |
|-----|----------------|----------------------------------|------------------------------|-----------------------|-------------|
| 123 | 平成15年1月1日～7日   | 鶴川聯合整備事業伊北地域                     | 社資産機械下田伊北作務所                 | 五石大根<br>上原道路          | 岩泉町         |
| 124 | 平成15年1月10日～11日 | 鶴川聯合整備事業伊北地域                     | 社資産機械下田伊北作務所                 | 上原道路                  | 岩泉町         |
| 125 | 平成15年1月10日～11日 | 鶴川聯合整備事業伊北地域                     | 社資産機械下田伊北作務所                 | 尼富上野道路                | 岩泉町         |
| 126 | 平成15年1月10日～11日 | 鶴川聯合整備事業伊北地域                     | 社資産機械下田伊北作務所                 | 清野野古道路                | 岩泉町         |
| 127 | 平成15年1月10日～11日 | 中山間地域合整備事業                       | 北上地方振興局農林部森林整備室              | 北上河岸道路                | 北上町         |
| 128 | 平成15年1月10日～11日 | 中山間地域合整備事業                       | 北上地方振興局農林部森林整備室              | 万字道路                  | 北上町         |
| 129 | 平成15年1月10日～11日 | 中山間地域合整備事業                       | 北上地方振興局農林部森林整備室              | 内田川里見道路               | 北上町         |
| 130 | 平成15年1月10日     | 利尻山駒ヶ岳山麓整備工事                     | 限<br>制                       | 町馬山道路                 | 西根町         |
| 131 | 平成15年1月10日     | 利尻山駒ヶ岳整備工事                       | 人<br>人<br>内<br>制<br>制        | 人<br>人<br>内<br>制<br>制 | 内<br>制<br>制 |
| 132 | 平成15年1月12日     | 利尻光洋伐採工事                         | 利尻光洋伐採工事                     | 利尻光洋伐採工事              | 利尻町         |
| 133 | 平成15年1月12日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一<br>般区域)伐採工事 | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一<br>般区域) | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 134 | 平成15年1月12日     | 利尻市山麓整備事業<br>八戸原地区(一<br>般区域)     | 利尻市山麓整備事業<br>八戸原地区(一<br>般区域) | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 135 | 平成15年1月12日～14日 | 利尻市山麓整備事業<br>八戸原地区(一<br>般区域)     | 利尻市山麓整備事業<br>八戸原地区(一<br>般区域) | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 136 | 平成15年1月13日～14日 | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 137 | 平成15年1月15日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 138 | 平成15年1月15日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 139 | 平成15年1月15日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 140 | 平成15年1月15日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 141 | 平成15年1月17日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 142 | 平成15年1月17日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 143 | 平成15年1月17日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 144 | 平成15年1月18日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 145 | 平成15年1月18日～19日 | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 146 | 平成15年1月18日～19日 | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 147 | 平成15年1月18日～19日 | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 148 | 平成15年1月20日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 149 | 平成15年1月20日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 150 | 平成15年1月20日     | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 151 | 平成15年1月20日～21日 | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 152 | 平成15年1月20日～21日 | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |
| 153 | 平成15年1月25日～26日 | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)         | 利尻市山麓整備事業<br>利尻東地区(一般区域)     | 利尻東地区(一<br>般区域)       | 利尻町         |

| No  | 調査期日            | 事　業　名                   | 事業者              | 道　路　名      | 所在地  |
|-----|-----------------|-------------------------|------------------|------------|------|
| 154 | 平成15年11月25日     | 林管体合意整備協議会<br>八重畠地区     | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 原口道路       | 石鳥谷町 |
| 155 | 平成15年11月26日     | 林管体合意整備協議会<br>八重畠地区     | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 新野道路       | 石鳥谷町 |
| 156 | 平成15年11月26日～27日 | 林管体合意整備協議会<br>八重畠地区     | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 中瀬路        | 石鳥谷町 |
| 157 | 平成15年11月27日     | 林管体合意整備協議会<br>八重畠地区     | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 大瀬路        | 石鳥谷町 |
| 158 | 平成15年11月27日     | 林管体合意整備協議会<br>八重畠地区     | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 朝日山道路      | 石鳥谷町 |
| 159 | 平成15年11月28日     | 林管体合意整備協議会<br>八重畠地区     | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 明治1道路      | 石鳥谷町 |
| 160 | 平成15年11月27日～28日 | 開拓会事業<br>矢川左岸除草工事       | 国土交通省千葉県立国造事務所   | 八日山馬鹿崎     | 衣川村  |
| 161 | 平成15年11月27日～28日 | 一側通行事業<br>矢川左岸除草工事      | 国土交通省千葉県立国造事務所   | 折合路        | 衣川村  |
| 162 | 平成15年11月28日     | 中山間越峰合意整備協議会<br>町内会     | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 原敷道路       | 東和町  |
| 163 | 平成15年11月28日     | 中山間越峰合意整備協議会<br>町内会     | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 御宿路        | 東和町  |
| 164 | 平成15年11月28日     | 中山間越峰合意整備協議会<br>三日月地区   | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 甲子1道路      | 石鳥谷町 |
| 165 | 平成15年12月1日      | 軟式河川改修石鳥谷河川整備事業         | 国土交通省千葉県立国造事務所   | 小前道路       | 石鳥谷町 |
| 166 | 平成15年12月1日      | 軟式河川改修石鳥谷河川整備事業         | 国土交通省千葉県立国造事務所   | 八幡道路       | 石鳥谷町 |
| 167 | 平成15年12月1日～2日   | 一側通行事業<br>矢川左岸除草工事      | 国土交通省千葉県立国造事務所   | 折合路        | 衣川村  |
| 168 | 平成15年12月1日～2日   | 一側通行事業<br>矢川左岸除草工事      | 国土交通省千葉県立国造事務所   | 利根道路       | 衣川村  |
| 169 | 平成15年12月1日      | 道路手交渉整備事業               | 佐賀県立国造事務所        | 佐賀県立国造事務所  | 矢巾町  |
| 170 | 平成15年12月1日～4日   | 中山間越峰合意整備協議会<br>日向市西郷地区 | 大船渡地方振興局森林部森林資源室 | 大野野路       | 大船渡市 |
| 171 | 平成15年12月1日～4日   | 中山間越峰合意整備協議会<br>日向市西郷地区 | 大船渡地方振興局森林部森林資源室 | 高野代山道路     | 大船渡市 |
| 172 | 平成15年12月1日      | 江城県整備協議会<br>東村山郷地区      | 千葉県立国造事務所        | 千葉町        | 千葉県  |
| 173 | 平成15年12月1日      | 河川等清掃巡回工事               | 施石市              | 施石市        | 施石市  |
| 174 | 平成15年12月8日～9日   | 主要施設在彦出石地区巡回工事          | 北上地方振興局森林部森林資源室  | 本部         | 北上市  |
| 175 | 平成15年12月10日     | 消防防災水槽設置事業              | 北上地方振興局森林部森林資源室  | 原口道路       | 北上市  |
| 176 | 平成15年12月11日     | 消防防災水槽設置事業              | 川崎村              | 川崎村        | 川崎村  |
| 177 | 平成15年12月11日     | 消防防災水槽設置事業              | 塩尻町              | 塩尻町        | 塩尻町  |
| 178 | 平成15年12月11日     | 消防防災水槽設置事業              | 笠岡町              | 笠岡町        | 笠岡町  |
| 179 | 平成15年12月11日     | 林管体合意整備事業               | 花色地方振興局森林部森林資源室  | 御園木坂道路     | 花卷市  |
| 180 | 平成15年12月15日～17日 | 林管体合意整備事業               | 林資質賣機下關伊豆建設事務所   | 伊豆道路       | 岩泉町  |
| 181 | 平成15年12月15日～17日 | 林管体合意整備事業               | 林資質賣機下關伊豆建設事務所   | 伊豆北道       | 岩泉町  |
| 182 | 平成15年12月15日～16日 | 経営者合意整備事業<br>免本田地区      | 北上地方振興局森林部森林資源室  | JR5～23号道路  | 北上市  |
| 183 | 平成15年12月15日～16日 | 経営者合意整備事業<br>免本田地区      | 北上地方振興局森林部森林資源室  | JR22号道路    | 北上市  |
| 184 | 平成15年12月15日～16日 | 経営者合意整備事業<br>免本田地区      | 北上地方振興局森林部森林資源室  | JR10～12号道路 | 北上市  |

| No. | 調査用日            | 作業場所                        | 着者                         | 道跡名   | 所長職 |
|-----|-----------------|-----------------------------|----------------------------|-------|-----|
| 185 | 平成15年12月15日～16日 | 経営体作成基礎整備事業 安木新田地区          | 北上 地方振興局農林漁村整備室 構造道路       | 花巻市   |     |
| 186 | 平成15年12月17日     | 経営体作成基礎整備事業 推定地部            | 本沢地域地方振興局農林漁村整備室 金合道路      | 江刺市   |     |
| 187 | 平成15年12月17日     | 経営体作成基礎整備事業 地政東部            | 本沢地域地方振興局農林漁村整備室 地勢高台道路    | 江刺市   |     |
| 188 | 平成15年12月17日     | 小字かづ排水事業 長井地盤地区             | 本沢地域地方振興局農林漁村整備室 地勢高台道路    | 江刺市   |     |
| 189 | 平成15年12月17日     | 主要施設道路改良工事 在急山前四地区(北)道路改良工事 | 花巻地方振興局農林漁村整備室 1木 金合1      | 花巻市   |     |
| 190 | 平成15年12月17日     | 主要施設道路改良工事 在急山前四地区(南)道路改良工事 | 花巻地方振興局農林漁村整備室 1木 金合2      | 花巻市   |     |
| 191 | 平成15年12月17日     | 主要施設道路改良工事 在急山前四地区(北)道路改良工事 | 花巻地方振興局農林漁村整備室 1木 千木源      | 花巻市   |     |
| 192 | 平成15年12月17日     | 主要施設道路改良工事 在急山前四地区(南)道路改良工事 | 花巻地方振興局農林漁村整備室 1木 千木源      | 花巻市   |     |
| 193 | 平成15年12月18日～19日 | 経営体作成基礎整備事業 白山地区            | 本沢地域地方振興局農林漁村整備室 通路        | 横手町   |     |
| 194 | 平成15年12月18日～19日 | 経営体作成基礎整備事業 白山地区            | 本沢地域地方振興局農林漁村整備室 通路        | 横手町   |     |
| 195 | 平成15年12月18日～19日 | 経営体作成基礎整備事業 白山地区            | 本沢地域地方振興局農林漁村整備室 内側道路      | 横手町   |     |
| 196 | 平成15年12月18日～19日 | 一般幹道上平木金田～深谷新地地区道路整備        | 二日町 地方振興局 1木 地形踏査道路        | 二日町   |     |
| 197 | 平成15年12月18日～19日 | 一般幹道上平木金田～根吉寺地区道路整備         | 二日町 地方振興局 1木 路面11通路        | 二日町   |     |
| 198 | 平成15年12月19日     | 中間能合整備事業 日向山西地区             | 大和 渡 游地 花林 湿地 可能性あり        | 大和庄村  |     |
| 199 | 平成15年12月22日     | 北上川上流域下水流作業                 | 北上 地方振興局水道事業課 修造道路         | 浪岡村   |     |
| 200 | 平成15年12月24日     | 宮古整備工事                      | 西城町 人野口五郎作業組               | 北上 岩手 |     |
| 201 | 平成15年12月25日～26日 | 経営体作成基礎整備事業 安木新田地区          | 北上 地方振興局農林漁村整備室 通路16～27号道路 | 北上 岩手 |     |
| 202 | 平成15年12月25日～26日 | 経営体作成基礎整備事業 安木新田地区          | 北上 地方振興局農林漁村整備室 通路16～24号道路 | 北上 岩手 |     |
| 203 | 平成16年1月1日～25日   | 経営体作成基礎整備事業 安木新田地区          | 久慈海地方振興局農林漁村整備室 中田道路       | 久慈市   |     |
| 204 | 平成16年1月6日       | 鳴森新村整備事業 大川田地区              | 北上 地方振興局農林漁村整備室 通路26～27号道路 | 北上 岩手 |     |
| 205 | 平成16年1月7日       | 経営体作成基礎整備事業 安木新田地区          | 北上 地方振興局農林漁村整備室 通路26～27号道路 | 北上 岩手 |     |
| 206 | 平成16年1月7日       | 経営体作成基礎整備事業 安木新田地区          | 国土交通省岩手河川国道事務所 構造道路        | 花巻市   |     |
| 207 | 平成16年1月7日       | 地質調査水辺地帯改善工事                | 千厩地域地方振興局農林漁村整備室 1木下道路     | 千厩町   |     |
| 208 | 平成16年1月8日       | 経営体作成基礎整備事業 鳥巣地区            | 久慈海地方振興局農林漁村整備室 1木下道路      | 久慈市   |     |
| 209 | 平成16年1月9日       | 経営体作成基礎整備事業 大川田地区           | 浪野地方振興局農林漁村整備室 下田田川通路調査地   | 浪野町   |     |
| 210 | 平成16年1月16日      | 経営体作成基礎整備事業 上瀬地区            | 北上 地方振興局農林漁村整備室 通路26～29号道路 | 北上 岩手 |     |
| 211 | 平成16年1月20日～21日  | 経営体作成基礎整備事業 安木新田地区          | 北上 地方振興局農林漁村整備室 通路26～29号道路 | 北上 岩手 |     |
| 212 | 平成16年1月20日～21日  | 経営体作成基礎整備事業 安木新田地区          | 北上 地方振興局農林漁村整備室 通路36～37号道路 | 北上 岩手 |     |
| 213 | 平成16年1月27日      | 宮古駅舎所フランク設置工事               | 花巻 国 地 方 気 象 台 関係駅舎只見道路    | 宮古市   |     |
| 214 | 平成16年1月30日      | 主要施設道路改良事業 北山前四地区道路改良工事     | 花巻 地方振興局 1木 木板敷の下          | 花巻市   |     |
| 215 | 平成16年1月22日      | 底盤駐車場整備工事                   | 西柳町 町役場道路                  | 西柳町   |     |

| No. | 調査期日           | 事 実 名            | 事 業 者     | 道 路 名                           | 所 在 地                  |
|-----|----------------|------------------|-----------|---------------------------------|------------------------|
| 216 | 平成16年2月2日      | 地質測定水槽管改修工事      | 里石地元会議事務局 | 国七交通省下河川道事務所<br>北上地方振興局農林整備課施設課 | 花巻市<br>北上・市            |
| 217 | 平成16年2月5日      | [中止]地盤介帯監視事業     | 里石地元会議事務局 | 国九里手道路                          | 花巻市<br>北上・市            |
| 218 | 平成16年2月5日      | 農地整営事業 人野地区      | 里石地元会議事務局 | 下水汎工道                           | 人野村<br>久慈地方振興局農林整備課施設課 |
| 219 | 平成16年2月5日      | 農地整営事業 人野地区      | 里石地元会議事務局 | 上水汎V道                           | 人野村<br>久慈地方振興局農林整備課施設課 |
| 220 | 平成16年2月6日      | 緊急休耕分田(?)整備事業    | -         | 人野V道                            | 人野村<br>人野V道            |
| 221 | 平成16年2月9日～10日  | 緊急休耕渠渠整備事業 里石田地区 | 里石地元会議事務局 | 里石V道                            | 北上・市                   |
| 222 | 平成16年2月9日～10日  | 緊急休耕渠渠整備事業 里石田地区 | 里石地元会議事務局 | 里石V道                            | 北上・市                   |
| 223 | 平成16年2月16日～17日 | 一般道4分合せパイプ改修工事   | 里石地元会議事務局 | 長根V道                            | 化岳町<br>国七交通省下河川道事務所    |
| 224 | 平成16年2月16日～17日 | 一般道4分合せパイプ改修工事   | 里石地元会議事務局 | 長根V道                            | 花巻市<br>国七交通省下河川道事務所    |
| 225 | 平成16年2月20日     | 宮古港航船ワズレ又設置工事    | 里石地元会議事務局 | 里石V道                            | 宮古市<br>港               |
| 226 | 平成16年2月25日～26日 | 農地整営事業           | 下河川道事務所   | 人沼通路                            | 岩泉町<br>小沢利             |
| 227 | 平成16年3月1日～5日   | 地質体介帯監視事業 白山地区   | 里石地元会議事務局 | 里石V道                            | 花石町<br>里石地元会議事務局       |
| 228 | 平成16年3月2日      | 地質体介帯監視事業 銚子野地区  | 里石地元会議事務局 | 里石V道                            | 花石町<br>里石地元会議事務局       |
| 229 | 平成16年3月2日      | 地質体介帯監視事業 岩野野地区  | 里石地元会議事務局 | 里石V道                            | 東山町<br>里石地元会議事務局       |
| 230 | 平成16年3月3日～4日   | 上田の郷線・北・伊勢崎新設工事  | 里石地元会議事務局 | 電力(能性あり)                        | 大泉町<br>里石地元会議事務局       |
| 231 | 平成16年3月3日～4日   | 上田の郷線・北・伊勢崎新設工事  | 里石地元会議事務局 | 電力(能性あり)                        | 大泉町<br>里石地元会議事務局       |
| 232 | 平成16年3月8日～9日   | 農地整営事業 下河川道事務所   | 里石地元会議事務局 | 岩泉町<br>里石V道                     | 岩泉町<br>里石V道            |
| 233 | 平成16年3月8日      | 住宅整理工事           | 里石地元会議事務局 | 人                               | 衣川村<br>里石V道            |
| 234 | 平成16年3月8日      | 住宅整理工事           | 里石地元会議事務局 | 人                               | 衣川村<br>里石V道            |
| 235 | 平成16年3月18日     | 音羽リサイクル施設建設整備事業  | 里石地元会議事務局 | 里石V道                            | 田野畠村<br>里石V道           |
| 236 | 平成16年3月16日     | 十日町街機・北・清掃施設工事   | 里石地元会議事務局 | 万木下橋通                           | 宮守村<br>北上・市            |
| 237 | 平成16年3月24日     | 常砂砂場1～1工区        | 里石地元会議事務局 | 万木下橋通                           | 宮守村<br>北上・市            |
| 238 | 平成16年3月31日     | 住宅整理工事           | 里石地元会議事務局 | 川井通                             | 川井町                    |

### III 写真図版





清田台遺跡



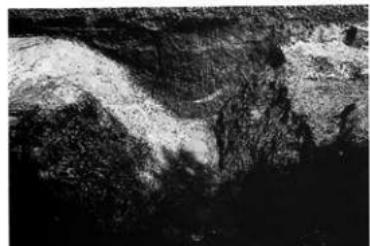
清田台遺跡 5、6号住居跡



清田台遺跡 5号住居跡 石圓炉



清田台遺跡 1号住居跡 完掘状況



宿館遺跡A地区 1号路 断面



宿館遺跡A地区 2号路 断面



宿館遺跡A地区 1号路 断面



宿館遺跡B地区路溝 完掘状況

写真図版1 県内遺跡調査状況(1)



宿館遺跡 B地区溝埋土 断面図



兵法田遺跡 ピット群



兵法田遺跡 1号土坑完掘状況



兵法田遺跡 3号土坑 埋土断面



出ル町II遺跡遺物包含層検出状況



丹内I遺跡調査風景 北から

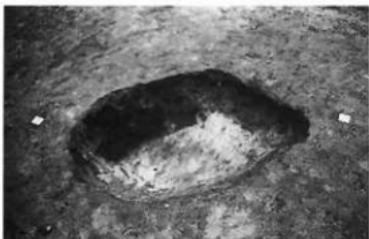


丹内I遺跡12号土坑完掘状況



丹内I遺跡14号土坑完掘状況

写真図版2 県内遺跡調査状況(2)



丹内 I 遺跡 号土坑完掘状況



丹内 I 遺跡 陥し穴完掘状況



二の台遺跡 陥し穴完掘状況



下屋敷遺跡 住居状造構完掘状況



二の台遺跡 陥し穴完掘状況



上野々遺跡 1号住居跡 埋土断面



上野々遺跡 1号住居跡完掘状況

写真図版 3 県内遺跡調査状況(3)



上野々遺跡 1号住居跡 カマド



上野々遺跡 3号土坑



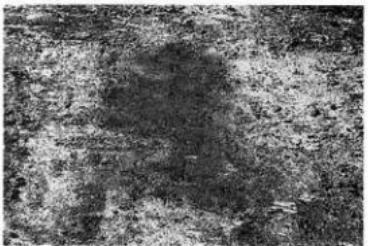
駒板遺跡  
調査風景



駒板遺跡 土坑 1 完掘状況



二の台遺跡



二の台遺跡 1号陷し穴

写真図版 4 県内遺跡調査状況(4)



1 (第6図40)



2 (第7図43)



3 (第8図59)



4 (第8図68)



5表  
(第9図101)



6表  
(第9図102)



5裏



6裏

写真図版5 県内遺跡調査出土遺物1 (清田台遺跡)



10上野々道路（第27図8）



11出ル町Ⅱ道路（第37図1）



12.13出ル町Ⅱ道路（第37図2）



14上野々道路（第27図1）



15上野々道路（第27図2）

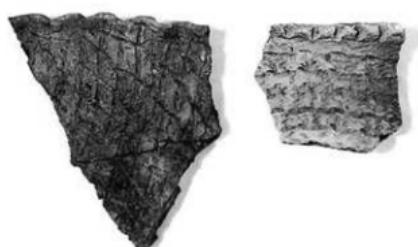


16駒板道路（第152図122）

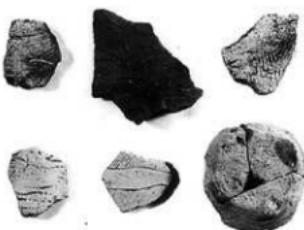


17宿館遺跡（第18図5）

#### 写真図版 6 県内遺跡出土遺物 2



18、19寺野遺跡  
(第146図11、25)



20~25平山遺跡  
(第151図104~109)



26~28丹内I遺跡  
(第13図1~3)

写真図版 7 県内遺跡出土遺物 3

---

岩手県文化財調査報告書第119集  
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成15年度）

発行日 平成17年3月31日

発 行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1

編 集 岩手県教育委員会生涯学習文化課

印 刷 桃杜陵印刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号

---

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。